

# 銚田南中学校区統合小学校基本計画書

---



平成28年1月  
銚田市教育委員会

## 第Ⅰ章. 与条件の整理

<b>1. 銚田市の基本構想</b>	…01
(1) 上位計画	
(2) 教育目標・教育活動指針	
<b>2. 銚田市の概要</b>	…03
(1) 地理・交通・産業	
(2) 人口・歴史・気候	
(3) 水災害情報図	
<b>3. 銚田南中学校区の概要</b>	…07
(1) 銚田南中学校区について	
(2) 周辺施設	
(3) 児童の住居分布	
(4) 児童数の推計	
<b>4. 敷地の現況</b>	…09
(1) 計画敷地の概要	
(2) 敷地現況図	
(3) 敷地現況写真	
<b>5. 前提条件</b>	…12
(1) 計画の前提事項	
(2) 施設整備における要求	
<b>6. 法的条件</b>	…18
(1) 建築基準法（集団規定）の適用される事項	
(2) 建築基準法（単体規定）の適用される事項	
(3) 消防法の適用される事項	

## 第Ⅱ章. 計画の基本的な考え方

<b>1. 計画のコンセプト</b>	…21
<b>2. コンセプトの具体化</b>	…22
(1) 施設構成の概要	
(2) 学年ゾーンの構成	
(3) 特別教室まわりの構成	
(4) 施設全体の構成	

## 第Ⅲ章. 建築計画

<b>1. 規模設定</b>	…28
(1) 所要室の設定	
(2) 所要室の規模設定	
(3) 特別教室の教室数の検討	
(4) 階数の設定	
(5) 各施設の規模設定	
<b>2. 造成計画</b>	…34
(1) 造成計画の考え方	
(2) 洪水調整計画の考え方	
(3) 緑地計画の考え方	
(4) 土量計算平面図	
(5) 造成横断面	
<b>3. 施設配置計画</b>	…39
(1) 土地利用計画の基本的な考え方	
(2) 施設配置の検討	
(3) 施設配置の比較	
<b>4. 平面計画</b>	…42
(1) 平面計画の前提条件	
(2) 平面計画の基本的な考え方	
(3) 防犯計画	
(4) 寸法計画	
(5) 機能構成の展開	
(6) 配置計画図 E-(1)/E-(2)	
<b>5. 内部空間の計画</b>	…48
(1) 内部空間の基本的な考え方	
(2) 内部仕上げの計画	
(3) 計画概要	
<b>6. 構造計画</b>	…63
(1) 構造種別の比較検討	

## 第Ⅳ章. 実現のための検討

<b>1. 全体事業スケジュール</b>	…64
<b>2. 概算工事費</b>	…65
<b>3. 維持管理計画</b>	…66
(1) 維持管理計画比較表	
(2) 銚田南中学校区統合小学校	
(3) 従来型小学校	

## 付録

<b>1. 参考事例の調査</b>	
<b>2. 「銚田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会」協議録</b>	
(1) 銚田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会の記録	
(2) 銚田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会 委員会名簿	
<b>3. 銚田南中学校区 各小学校概要</b>	
(1) 銚田小学校	
(2) 諏訪小学校	
(3) 新宮小学校	
(4) 大竹小学校	
(5) 当間小学校	
(6) 野友小学校	
(7) 串挽小学校	

## 第 I 章. 与条件の整理

---

1. 銚田市の基本構想
2. 銚田市の概要
3. 銚田南中学校区の概要
4. 敷地の現況
5. 前提条件
6. 法的条件

---

## 1. 銚田市の基本構想

(1) 上位計画

(2) 教育目標・教育活動方針

# 1. 鉾田市の基本構想

## (1) 上位計画

・ 本計画の上位計画として、鉾田市総合計画の概要を以下にまとめます。

### 1) 基本構想

#### a. 鉾田市の将来像

## 「いのち」と「暮らし」の先進都市

～自然を尊び、農を誇り、喜びを生み出す 21世紀のまち 鉾田～

まちづくりの視点 **緑・縁・絆** を大切にするまち

#### b. 新しい鉾田を創る3つのキーワード

■ 自然との共生

■ 地域の個性を活かす

■ 市民との協働

#### c. まちづくりの基本目標

1. 一人ひとりの健康と安心を支える地域づくり
2. 次代の農業を中心とした力強い産業づくり
3. 自然を感じる快適で安全な生活空間づくり
4. 個性と多様性を尊び、地域文化をはぐくむ人づくり
5. 市民を主役とする協働のまちづくり

#### 基本目標 4

### 個性と多様性を尊び、地域文化をはぐくむ人づくり

具体的な推進施策は以下ようになる

#### 子どもたちの教育環境の向上

- 幼児教育の充実
- 特色ある学校づくりの推進
- 指導体制の充実
- 児童・生徒の健全教育
- 児童・生徒の安全確保
- 開かれた学校づくりの推進
- 教育施設・設備の整備
- 教育環境の向上

#### 文化振興及びスポーツ・

#### レクリエーション環境の充実

- 文化・芸術活動の活性化
- 文化財の保護・啓発
- スポーツ教室の開催
- 指導者の育成
- 総合型地域スポーツクラブへの支援
- 運動施設の機能充実
- 学校施設の開放

#### 地域資源を活用した生涯学習の活性化

- 生涯学習活動の活性化
- 図書館機能の充実
- 青少年健全育成の推進

#### 地域間・国際交流の推進

- 地域間交流の推進
- 国際交流活動の推進
- 異文化と共生する社会の形成

#### 基本目標 1：一人ひとりの健康と安心を支える地域づくり

心身の健康は、暮らしに活力と安心感を与え、人生を豊かにしていきます。この一人ひとりの健康増進を支えるために、より良い暮らしにつなげる保健・医療・福祉サービスの充実とともに、市民を中心とする地域福祉活動の活性化を図ります。こうした取り組みを通じて、笑顔があふれ、健康と安心感に包まれた、一人ひとりが心身ともに元気なまちを目指します。

#### 基本目標 2：次代の農業を中心とした力強い産業づくり

人を集める力に富み、地域社会に安定と潤いを与える産業の活性化に向けて、農業先進地としての高い農業技術を活かし、農畜産物の高品質化・ブランド化による市場競争力の一層の強化に取り組みます。さらに、茨城空港の開港や産業基盤整備と連動した商工業の活性化を図り、力強く調和のとれた産業振興を進めます。そして、こうした産業全体の活性化によって、全国各地から鉾田へと人が集まる『Hターン』の実現を目指します。

#### 基本目標 3：自然を感じる快適で安全な生活空間づくり

自然と共生し、環境負荷の少ない持続可能な資源循環型社会の形成に向けて、全市的な環境共生社会の推進に努めます。また、長期的な展望に基づく計画的な土地利用のもと、道路・交通体系をはじめとする都市基盤の着実な整備・充実を図るとともに、市民と連携・協力した地域安全対策に取り組みます。これらの取り組みにより、将来にわたる「いのち」と「暮らし」を支える豊かな自然環境の継承と快適性・利便性を兼ね備える、誰もが“ほっと”できる生活空間の実現を目指します。

#### 基本目標 4：個性と多様性を尊び、地域文化をはぐくむ人づくり

人は「学ぶ」ことを通じて成長し、やがて社会を、そして歴史を創造していきます。本市では誰もが生涯を通じて「学ぶ」ことの大切さを認識し、共に成長していく生涯学習社会を目指して、地域資源を活用した学習環境づくりと人材育成を推進します。中でも、次代を担う子どもたちが“明日への力”をはぐくむために、郷土を愛する心と生きる力を育成する、調和のとれた学校教育の充実を図ります。そして「学ぶ」ことや国内外との交流を通じてそれぞれが身につけた見識・技能を結集し、多くの市民が一緒になって新たな歴史を創造していくことを地域の文化として次代に継承していくまちづくりを目指します。

#### 基本目標 5：市民を主役とする協働のまちづくり

まちづくりとは、市民と行政が力をあわせて住みよいまちを目指すために取り組む、創造活動です。

そのための基盤として、お互いを尊重し合い、共に活躍できる人権尊重・男女共同参画社会を推進します。

また、より良い暮らしを実現していくため、市民活動の活性化とともに、効率的で質の高い行財政運営システムを構築する積極的な行財政改革に取り組みながら、市民と行政とが相互に信頼する協働のまちづくりを目指します。

## (2)教育目標・教育活動方針

本計画の上位計画として、銚田市教育振興基本計画と銚田市公立学校施設再編計画の概要を以下にまとめます。

### 1) 銚田市の教育目標 ※銚田市教育振興基本計画より

## 「夢と希望を持ち、未来を拓く心豊かな人づくり」

#### a. 知育「確かな学力」育成

ひとりひとりの知性を磨き、夢の実現に向けて努力する態度を育てる

- ◎ 学び方の指導を徹底する
- ◎ 子どもへのケアリング
- ◎ 幼児教育の充実
- ◎ 小規模校の特性を生かした学習指導
- ◎ 教師力の向上が、学校力の向上につながる
- ◎ 学校は子どもたちに夢と希望を与える場
- ◎ 研修体制の充実

#### b. 徳育「豊かな人間性」育成

互いの人格を尊重し、共に支え合う豊かな心をはぐくむ

- ◎ 体験活動の充実
- ◎ 道徳教育の充実
- ◎ 読書活動の充実

#### c. 体育「健やかな体」育成

心身共に健康で、たくましく生きる力をはぐくむ

- ◎ 食育の推進
- ◎ 国民運動ともなっている「早寝、早起き、朝ご飯」運動の展開
- ◎ 特別支援教育の充実、就学指導体制の強化、相談活動の充実
- ◎ 生徒指導面の充実、相談体制の強化、関係機関連携の強化、「すずらんルーム」の充実
- ◎ 子ども会育成連合会等の活動
- ◎ スポーツ少年団等の活動を通じた体力づくり

#### d. 郷土愛「国際社会に貢献する人材」育成

郷土を愛し、勤労責任を重んじ、国際社会に貢献する態度を育てる

- ◎ 美しいものや自然を愛するこころの育成
- ◎ 国際理解は、地域理解から「銚田に生まれてよかった」と言える環境づくり
- ◎ 外国語活動及び外国語の充実（小中の連携）
- ◎ 青年期における社会活動の啓発と支援

### 2) 特色のある教育活動の推進 ※銚田市公立学校施設再編計画より

銚田市の指導方針に基づいて、銚田市民として、夢と希望をもち、その実現に向けて努力し、知・徳・体の調和がとれた、未来を拓く人間性豊かな人づくりに努めます。

また、水と緑に囲まれた郷土銚田を愛し、心の豊かさや環境との共生を考え、国際社会に貢献できる人づくりを目指します。

創意ある学校づくりを通し、各学校が家庭・地域との協力を図りながら、自然を十分に生かした教育活動の展開を図り、心豊かな人づくりを目指します。

### 3) 子どもたちの教育環境 ※銚田市教育振興基本計画より

#### 基本方針

確かな学力と豊かな心をもち、礼儀を重んじ、たくましく生きる児童・生徒の育成を図るため、社会潮流にあった教育内容・方法を充実し、国際化と情報化を併せもった次代を担う人材の育成に努めます。

#### a. 幼児教育の充実

教職員が研修などに参加できる機会を設け、教職員としての資質の向上と専門知識の向上に努めます。また、家庭・幼稚園・小学校との連携を図った幼児教育の充実を図ります。

#### b. 特色ある学校づくりの推進

子どもたちの個性を伸ばし、豊かな人間性と生きる力をはぐくむため、体験活動の積極的な導入、読書活動の推進、道徳教育の充実、学力向上と学校体育の充実など、体験を重視した学習を展開します。

#### c. 指導体制の充実

少人数教育の推進をはじめ、多様な指導方法の実践、特別支援教育の充実、外国語指導助手（ALT）の効果的な活用など、指導体制の充実を図ります。

#### d. 児童・生徒の健全育成

食による健康教育の充実とともに、スクールカウンセラーや生徒指導相談室と家庭との連携による不登校やいじめ対策を一層進め、児童・生徒の健全育成を図ります。

#### e. 児童・生徒の安全確保

不審者を想定した防犯訓練をはじめ、通学路の危険箇所の解消、不審者情報の共有化、学校安全ボランティアによる巡回の強化などに取り組み、家庭と学校、そして地域社会が協力して児童・生徒の安全確保に努めます。

#### f. 開かれた学校づくりの推進

学校運営に助言を行う学校評議員制度などにより、家庭・学校・地域社会と連携した学校運営に努めます。また、地域人材（非常勤講師、学校支援ボランティア）を積極的に活用した学校教育の拡充を図ります。

#### g. 教育施設・設備の整備

高度情報社会に不可欠なコンピュータの更新をはじめ、教育情報ネットワークの充実や読書活動のための図書室の充実など、教育設備の充実に努めます。また、老朽化した校舎などの計画的な改修や給食センターの整備を図ります。

#### h. 教育環境の向上

学校間連携の推進をはじめ、学習資源のネットワーク化や学校の統廃合の検討など、教育環境の向上を図ります。

### 4) 統合後の教育活動指導方針 ※銚田市公立学校施設再編計画より

統合後は銚田市の教育目標のもとに、地域の環境や特徴を生かした教育を取り入れ、特色ある教育活動の取組を進めていきます。

#### ① 小中学校の連携

小学校を中学校の近隣に建設することで、小中連携を視野に入れた指導体制の構築が可能となり、※専科制(理科、外国語、音楽など)の積極的な導入を図ることにより、確かな学力を育む教育を推進し、国際化に対応できる児童生徒の育成に努めます。

※専科担任制：技能教科の学習指導を補うものとされてきたが、近年、教員の得意分野が児童の個性を伸ばすという積極的な意義のもと、活用範囲が拡大される傾向にあり、中学校との連携を図ることで教科の魅力を味合わせる、質の高い授業を実践することで、学習指導の充実に努めることが可能になるとされている。

#### ② 統合することで広がる交流

統合により、集団での学びの機能を生かす授業が可能となり、多様な児童との交流を通して、豊かな人間関係を育む教育活動を推進します。

---

## 2. 銚田市の概要

- (1) 地理・交通・産業
- (2) 人口・歴史・気候
- (3) 水災害情報図

## 2. 鉾田市の概要

### (1) 地理・交通・産業

#### 1) 地理

##### a. 位置

鉾田市は茨城県鹿行地域の北部に位置し、北は茨城町、大洗町、南は行方市、鹿嶋市に隣接しています。  
東は太平洋に開かれ、北側には涸沼、南側には北浦に接し、内陸部のほとんどは平坦な土地になっています。

##### b. 広さ

市域面積：208.18km<sup>2</sup>

##### c. 人口

人口：50,539人（平成27年7月1日現在）  
人口密度：242人/km<sup>2</sup>

#### 2) 交通

##### a. 主要地への距離

県内：水戸市まで 30km、つくば市まで 30km  
県外：成田国際空港まで 50km、東京まで 90km

##### b. 路線バス

関鉄グリーンバス、茨城交通

##### c. 鉄道

中心市街地所在駅：新鉾田駅  
鹿島臨海鉄道 大洗鹿島線  
鉾田市内所在駅：涸沼駅 - 鹿島旭駅 - 新鉾田駅 - 北浦湖畔駅 - 大洋駅  
水戸 - 新鉾田：約45分

##### d. 道路

一般国道  
国道51号 国道354号  
東関東自動車道（鉾田インター）

##### e. 空港

茨城空港：小美玉市に立地  
鉾田市街からの距離：8km 時間（車）：15分

#### 3) 産業

##### a. 第一次産業

###### ① 全国でも有数の農産業

- ・本市の基幹産業である農業の従事者数は年々減少しているものの、就業者総数に占める割合は依然として高く、農業を中心とする第1次産業の就業者割合は県内第1位となっています。
- ・本市の農業産出額は合併により平成17年に県内第1位、一人あたり生産額でも県内第2位になるなど県内だけでなく全国有数の農業地帯となっています。

###### ② 農業従事者の高齢化・後継者不足

- ・一方、本市においても農業従事者の高齢化や後継者不足は課題であり、持続的な農業振興のためにも担い手の確保・育成が急務となっています。

##### b. 第二次産業

- ・第2次産業の就業者数は、平成2年以降ほぼ横ばいとなっています。
- ・市内の製造業の柱としては、大洋地区の乳製品菓子製造業や煉瓦製造業が操業しています。
- ・また、新たな企業立地を促進するため、上山・鉾田工業団地の開発に続き鉾田西部工業団地の開発を進めているところです。

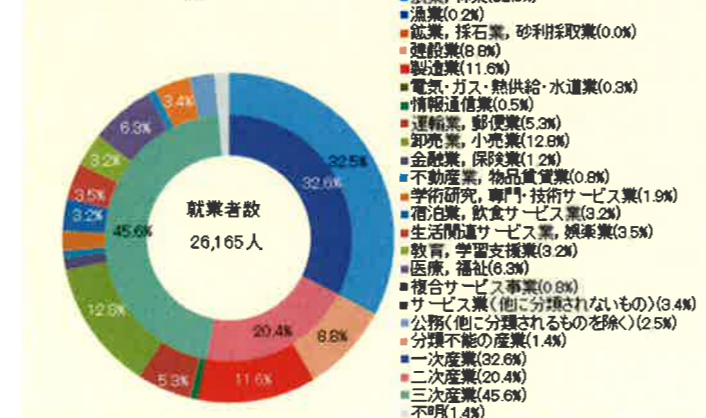
##### c. 第三次産業

- ・就業構造の中心は国や県と同様に第3次産業に移っており、平成7年からは第3次産業の就業者割合が4割を超えて、さらに上昇しています。
- ・業種別では、卸売業・小売業・飲食業・サービス業への就業が中心となっています。

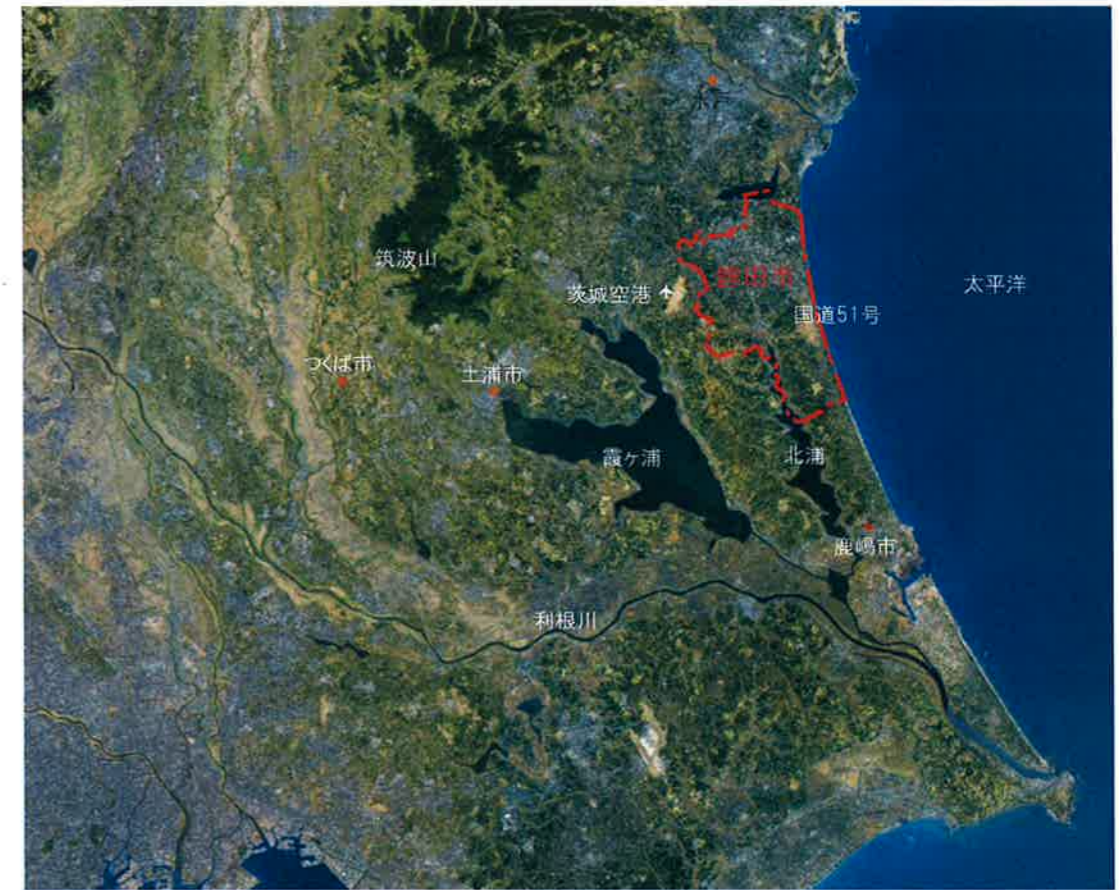
##### d. 産業別就業人口

第1次産業 8,530人(32.6%)  
第2次産業 5,338人(20.4%)  
第3次産業 11,931人(45.6%) ※平成22年国勢調査より

2010年 鉾田市の就業者



※総務省 国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口



※鉾田市HPより抜粋



## (2)人口・歴史・気候

### 1)人口

#### a. 現況

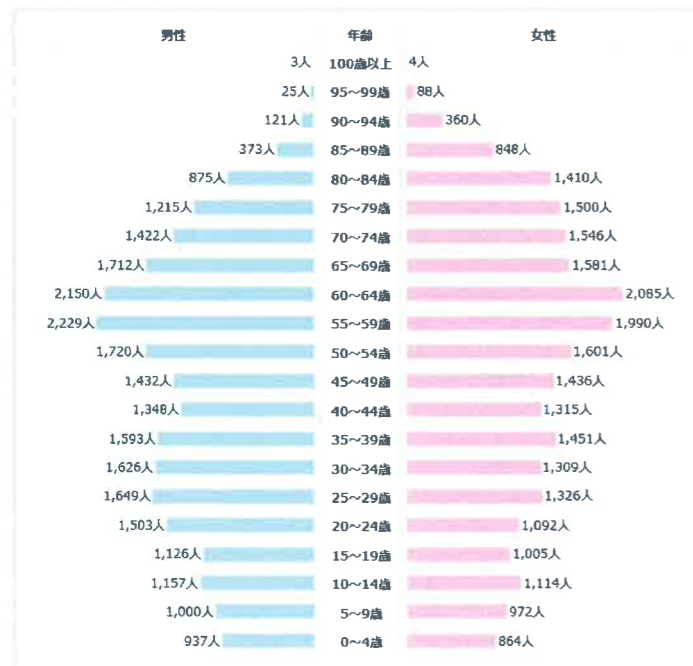
- ・ 銚田市の人口は、平成27年7月1日現在、男25,679人、女24,860人、総人口50,539人で世帯数は19,441世帯です。

#### b. 人口推移

- ・ 近年の人口推移をみると、平成2～7年は760人、平成7～12年は60人、平成12～17年は140人とそれぞれ増加しています。平成17～22年は898人の減少となっています。
- ・ 一方で出生率が低下傾向にある影響から、人口動向の基調である自然動態(出生者数－死亡者数)では平成11年からマイナス傾向となっています。

#### c. 人口構成

- ・ 人口の年齢構成をみると、国や県の動向と同じく、年少人口(0～14歳)と生産年齢人口(15～64歳)は減少し、高齢者人口(65歳以上)は増加しています。
- ・ そのため、平成22年の高齢化率は県平均22.8%を上回る24.1%まで上昇し、高齢化が一足早く進行していることがわかります。



※平成22年国勢調査より

#### d. 世帯数

- ・ 平成22年国勢調査による世帯数は、平成17年から約1,000世帯増加の16,810世帯となり、1世帯あたりの人員は3.24人(平成17年)から2.98人(平成22年)に減少しています。

### 2) 歴史

#### a. 古代

- ・ 有史以前の古代より人々の暮らしがあったとされる本市では、縄文・弥生時代の住居跡や古墳などの遺跡が市内から広く発見されており、生活に適した自然環境であったことがわかります。

#### b. 中世

- ・ 中世には、北浦に舟運が開けて現在の行方地域との交流が活発になり、また、市内の社寺に文化財が多く残されていることから、神道や仏教なども盛んだったことがわかります。

#### c. 江戸

- ・ 江戸時代に入ると、東北および常陸地方と江戸を結ぶ水陸交通の要衝として発展し、農作物や海産物などの流通が盛んに行われるようになりました。

#### e. 明治

- ・ 明治に入ると、明治4年(1871)の廃藩置県により新治県の所轄となった後、明治8年(1875)に同県が茨城県へ統合されたことに伴い茨城県の所轄となりました。明治22年(1889)には市町村制が施行され、夏海村、大谷村、諏訪村、銚田町、新宮村、秋津村、巴村、徳宿村、上島村、白鳥村の10町村となりました。

#### f. 昭和

- ・ 昭和28年(1953)に施行された「町村合併促進法」に基づく町村合併を行い、昭和30年(1955)に旭村、銚田町、大洋村の1町2村となりました。

#### g. 平成

- ・ 中央集権型から地方分権型社会への移行を目指す中で、平成17年10月11日に旭村、銚田町、大洋村の合併により「銚田市」が誕生しました。

明治22年	昭和30年	平成17年-現在
夏海村	旭村	銚田市
大谷村		
諏訪村		
銚田町	銚田町	
諏訪村(一部)		
新宮村		
秋津村		
巴村		
徳宿村	大洋村	
上島村		
白鳥村		

3) 気候 ※気象庁 気象統計情報より

年間を通して寒暖の差が小さく、海洋性気候により恵まれた過ごしやすい温暖な土地といえます。年間降水量も比較的多く、このため農作物の育成環境としては好条件といえます。

a. 銚田 平年値(年・月ごとの値)主な要素

要素	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	日最高気温 (℃)	日最低気温 (℃)	平均風速 (m/s)	日照時間 (時間)
統計期間	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1986~2010
資料年数	30	30	30	30	30	25
1月	60.6	2.6	8.8	-3.1	1.3	168.3
2月	63.8	3.4	9.2	-2.4	1.6	160.8
3月	116.6	6.5	11.6	0.8	1.9	168.0
4月	117.5	11.7	17.1	6.0	2.1	179.1
5月	125.1	16.0	21.0	11.2	2.0	168.2
6月	142.2	19.2	23.5	15.5	1.9	131.4
7月	128.8	23.0	27.4	19.7	1.8	146.5
8月	109.8	24.9	29.5	21.4	1.9	182.3
9月	189.9	21.5	25.6	18.0	1.8	136.4
10月	195.2	15.9	20.6	11.3	1.5	137.3
11月	92.8	10.1	16.0	4.7	1.3	137.5
12月	52.7	4.9	11.4	-0.8	1.2	157.8
年	1395.1	13.3	18.5	8.5	1.7	1873.6

b. 降水量

要素	合計	降水量(mm)					
		各階級の日数					
	1981~2010	≥1.0mm	≥10.0mm	≥30.0mm	≥50.0mm	≥70.0mm	≥100.0mm
		1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010
統計期間	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010
資料年数	30	30	30	30	30	30	30
1月	60.6	6.3	2.2	0.6	0.2	0.0	0.0
2月	63.8	6.5	2.1	0.4	0.1	0.0	0.0
3月	116.6	10.7	4.3	0.9	0.1	0.0	0.0
4月	117.5	10.6	4.1	0.7	0.2	0.0	0.0
5月	125.1	11.4	4.6	1.1	0.2	0.0	0.0
6月	142.2	12.4	4.6	1.3	0.4	0.1	0.0
7月	128.8	11.4	3.6	1.2	0.4	0.2	0.1
8月	109.8	7.5	2.9	1.1	0.5	0.3	0.2
9月	189.9	11.5	5.1	1.7	0.9	0.5	0.2
10月	195.2	11.0	5.0	1.9	0.9	0.5	0.3
11月	92.8	7.8	3.3	0.7	0.2	0.0	0.0
12月	52.7	5.4	1.5	0.2	0.1	0.1	0.0
年	1395.1	112.4	43.5	11.8	4.2	1.7	0.9

c. 気温

要素	平均	日最高	日最低	気温(℃)											
				各階級の日数(日平均)				各階級の日数(日最低)				各階級の日数(日最高)			
				<0.0℃	≥25.0℃	<0.0℃	≥25.0℃	<0.0℃	≥25.0℃	≥30.0℃	≥35.0℃				
1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1986~2010	1986~2010						
統計期間	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1986~2010	1986~2010				
資料年数	30	30	30	30	30	30	30	30	30	25	25				
1月	2.6	8.8	-3.1	4.4	0.0	26.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
2月	3.4	9.2	-2.4	2.3	0.0	21.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
3月	6.5	11.8	0.8	0.0	0.0	13.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
4月	11.7	17.1	6.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0				
5月	16.0	21.0	11.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.3	0.0				
6月	19.2	23.5	15.5	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	11.2	2.3	0.0				
7月	23.0	27.4	19.7	0.0	9.7	0.0	0.3	0.0	21.0	10.4	1.4				
8月	24.9	29.5	21.4	0.0	15.9	0.0	0.9	0.0	26.5	14.9	1.9				
9月	21.5	25.6	18.0	0.0	4.6	0.0	0.1	0.0	15.1	4.6	0.2				
10月	15.9	20.6	11.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	2.5	0.2	0.0				
11月	10.1	16.0	4.7	0.0	0.0	3.9	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0				
12月	4.9	11.4	-0.8	0.7	0.0	19.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
年	13.3	18.5	8.5	7.6	31.6	86.7	1.4	0.0	84.4	32.9	3.6				

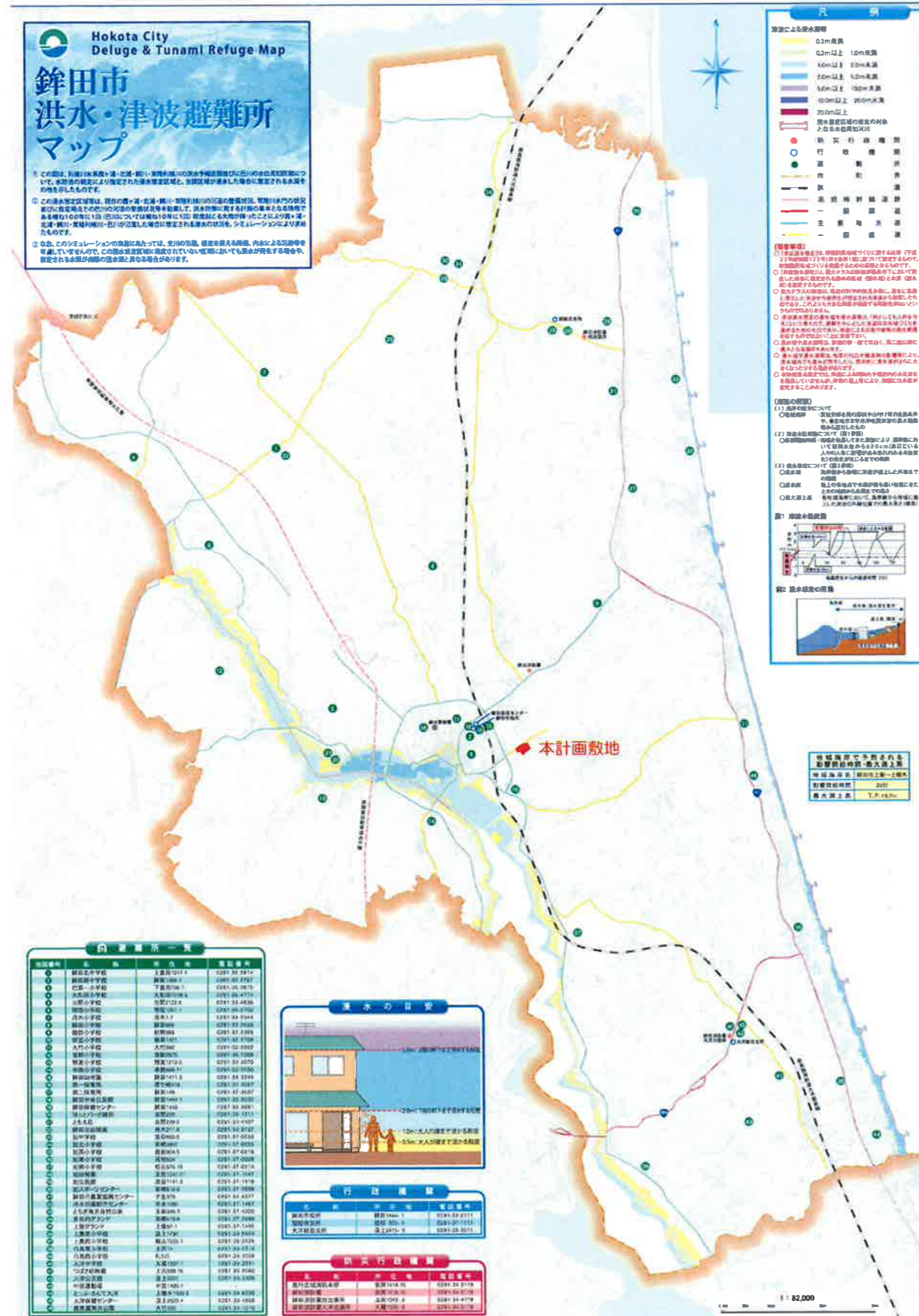
d. 風・日照

要素	平均風速	風速(m/s)				最多風向		日照時間(時間)	
		各階級の日数				出現率	風向	出現率	日照率≥40%の日数
	1981~2010	≥10.0m/s	≥15.0m/s	≥20.0m/s	≥30.0m/s	1981~2010	1981~2010	1986~2010	1986~2010
		1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1986~2010	1986~2010
統計期間	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1981~2010	1986~2010	1986~2010
資料年数	30	30	30	30	30	30	30	25	25
1月	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	20	北北西	168.3	21.8
2月	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	17	北北西	160.8	18.7
3月	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	14	北北西	168.3	17.8
4月	2.1	0.1	0.0	0.0	0.0	15	北東	179.1	17.0
5月	2.0	0.1	0.0	0.0	0.0	16	北東	168.2	14.3
6月	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	21	北東	131.4	10.6
7月	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	21	北東	146.5	11.8
8月	1.9	0.1	0.0	0.0	0.0	18	北東	182.3	17.5
9月	1.8	0.2	0.0	0.0	0.0	21	北東	136.4	13.5
10月	1.5	0.1	0.0	0.0	0.0	18	北北西	137.3	15.2
11月	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	21	北北西	137.5	17.1
12月	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	20	北北西	157.8	21.3
年	1.7	0.7	0.0	0.0	0.0	14	北東	1873.6	196.5

### (3) 水災害情報図

#### 1) 洪水・津波避難所マップ

- ・本計画敷地は、浸水想定区域より高台の位置にあり、水災害の被害を比較的受けにくい場所といえます。
- ・市街地は浸水区域にあり、水害を受ける可能性が高いことから、本計画の施設は避難施設になることが想定されます。



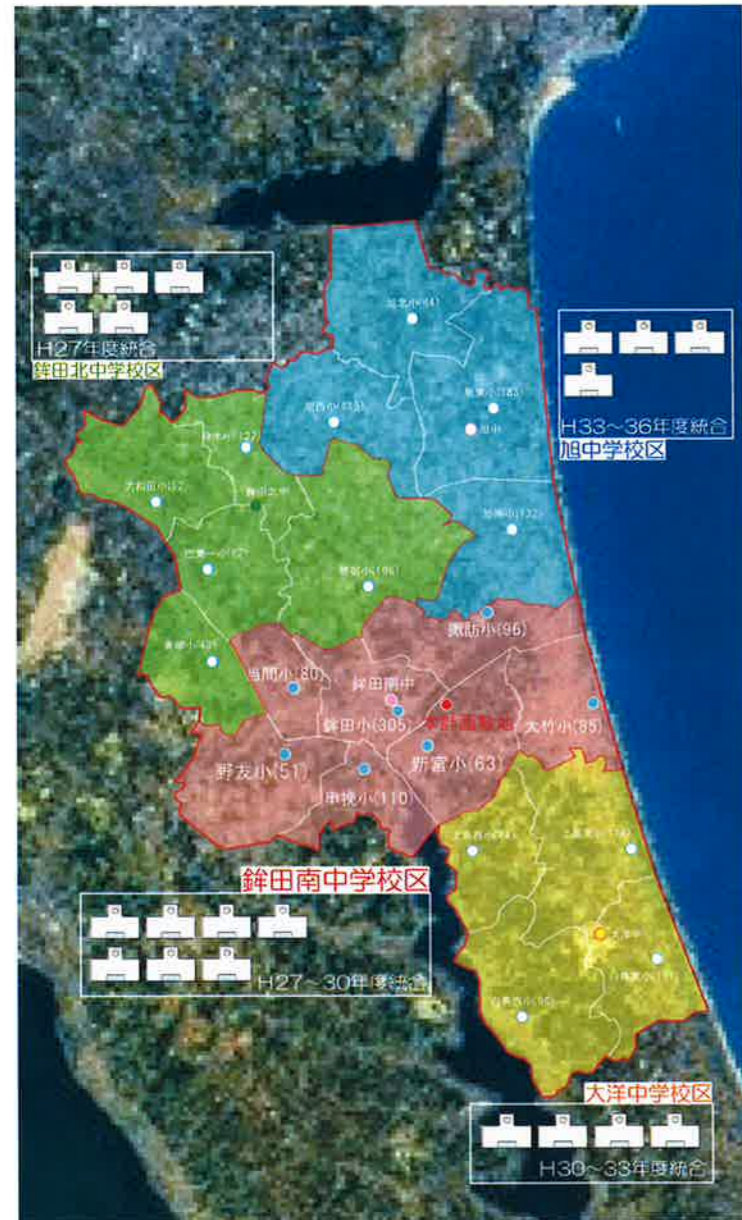
---

### 3. 鉾田南中学校区の概要

- (1) 鉾田南中学校区
- (2) 周辺施設
- (3) 児童の住居分布
- (4) 児童数の推計

### 3. 鉦田南中学校区の概要

#### (1) 鉦田南中学校区について



#### (2) 周辺施設



##### a. 鉦田市の学校区

- ・ 鉦田市は、旭中学校区、鉦田北中学校区、鉦田南中学校区、大洋中学校区の4校区に分かれています。

##### b. 市内最大規模の統合小学校

- ・ 鉦田南中学校区は、7校の小学校を統合します。鉦田北中学校区は5校、大洋中学校区は4校、旭中学校区は4校を統合するため、本統合計画は市内最大規模の統合小学校となります。

##### c. 鉦田市の中心市街地

- ・ 鉦田南中学校区には鉦田市の中心市街地が広がり、中央部には市庁舎や図書館、幼稚園から高等学校まで行政・教育機関が集約しています。



**新鉦田駅**  
鹿島臨海鉄道 大洗鹿島線  
水戸⇄新鉦田間 約45分

鉦田市内の他の駅  
潤沼駅、鹿島旭駅、徳宿駅、新鉦田駅、  
北浦湖畔駅、大洋駅



**鉦田幼稚園**  
鉦田南中学校区唯一の幼稚園。  
幼稚園は他に3カ所ある。  
鉦田北幼稚園・旭幼稚園・つばさ幼稚園



**鉦田南中学校**  
今回の基本計画は、鉦田南中学校区にある小学校7校が統合する。場所は市街地の高台に位置し、463名の生徒が通っている。普通学級15 / 特別支援学級2 (2015年度)



**鉦田市役所**  
鉦田市立図書館、中央公民館に隣接。

### (3) 児童の住居分布

#### 1) 各小学校の児童数

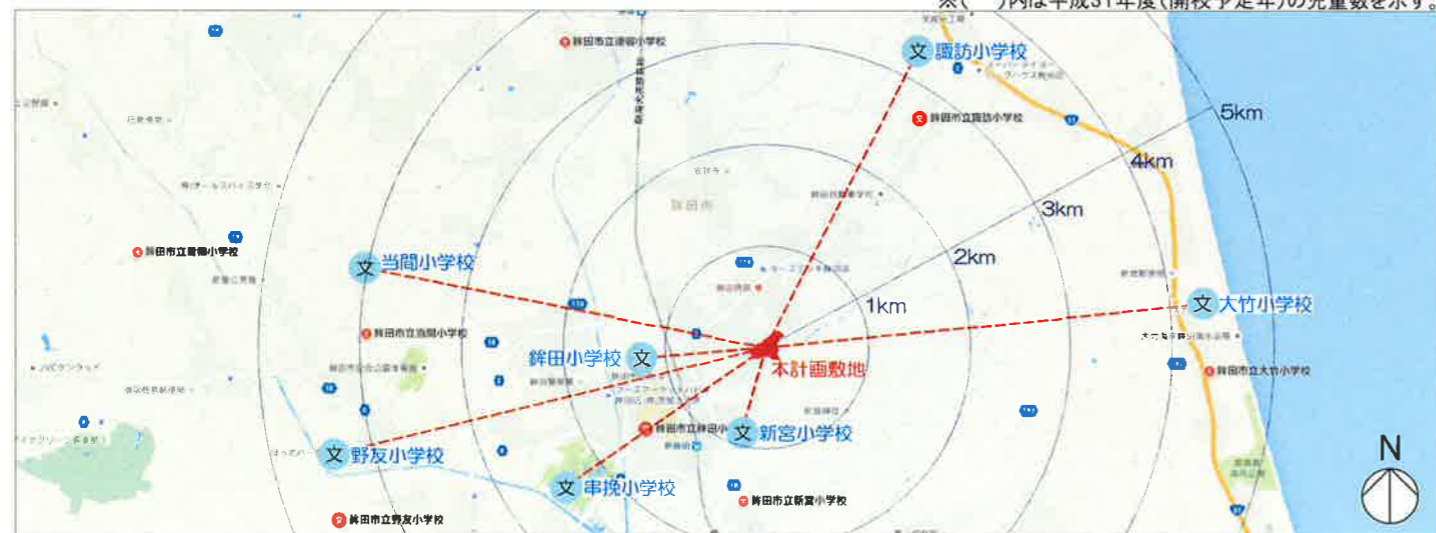
##### a. 銚田南中学校区の児童数

- 銚田市の中心市街地にある銚田小学校は市内でも最大の児童数が通学しています。



##### b. 通学距離

- 統合する7校の小学校からも中心に位置し、登下校の際にはスクールバスを利用します。また、学区の再編により、通学距離の伸びる児童に対しても単に通学時間の短縮を目的とするのではなく、児童の安全面を最優先とした整備を進めていきます。



※( )内は平成31年度(開校予定年)の児童数を示す。

### (4) 児童数の推計

	平成27年度		平成31年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
旭東小学校	198	6	185	6
旭南小学校	141	6	132	6
旭西小学校	131	6	115	6
旭北小学校	92	6	84	6
小計	562	-	516	-
巴第一小学校	77	4	-	-
大和田小学校	57	6	-	-
徳宿小学校	148	6	-	-
舟木小学校	125	6	-	-
青柳小学校	53	6	-	-
小計	460	-	416	12
銚田小学校	367	12	305	12
諏訪小学校	108	6	96	6
新宮小学校	77	6	63	6
大竹小学校	83	6	85	6
当間小学校	90	6	80	6
野友小学校	36	4	51	4
串挽小学校	105	6	110	6
小計	866	-	790	23
上島東小学校	136	6	114	6
上島西小学校	55	6	44	6
白鳥東小学校	172	6	131	6
白鳥西小学校	118	6	96	6
小計	481	-	385	-
合計	2,369		2,107	

※平成27年度は5月1日現在、平成31年度は推計値

※推計値の学級数については、児童数を1・2年は35人、3年以上は40人で除した数(特別支援学級は含まない)

---

#### 4. 敷地の現況

- (1) 計画敷地の概要
- (2) 敷地現況図
- (3) 敷地現況写真

## 4. 敷地の現況

### (1) 計画敷地の概要

#### 1) 計画敷地について

##### a. 敷地の位置

- ・ 計画敷地は銚田市の中心市街地にある新銚田駅から北東に約1kmの場所にあります。

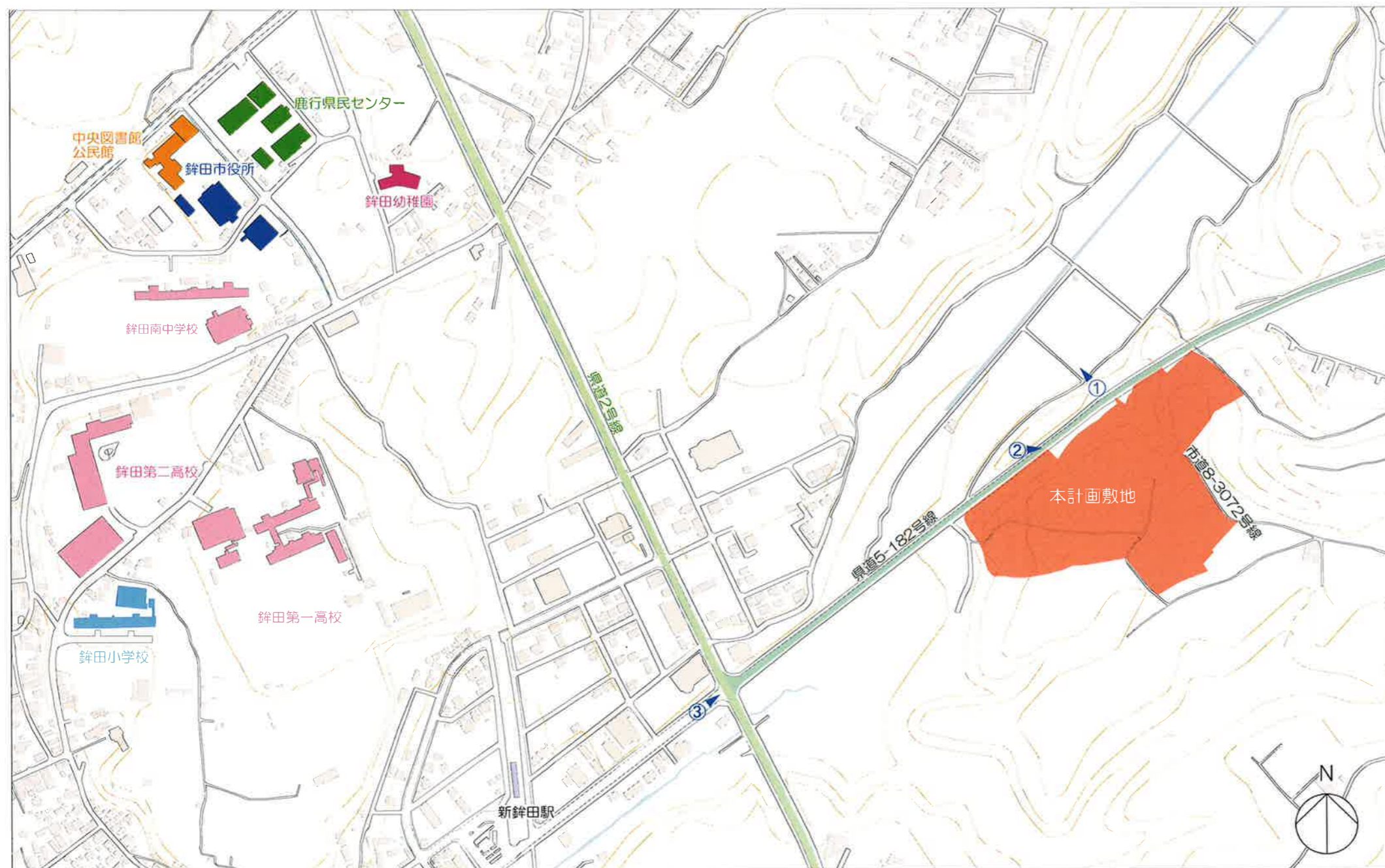
##### b. 接道

- ・ 計画敷地は新銚田駅から北東に延びる県道5-182号線に接道しています。
- ・ また、敷地の北東側には市道8-3072号線が接道しています。

敷地北西側：県道5-182号線（幅員11.0m）

敷地北東側：市道8-3072号線（幅員2.0～6.6m）

##### c. 周辺地図



#### d. 敷地周辺写真



① 県道182号線を挟んで敷地に対面する田園風景



② 県道182号線から敷地を見る



③ 県道182号線と県道2号線の交差点から敷地を見る




(2) 敷地現況図



1. 地名地番 : 茨城県銚田市畑田973-1、973-3、974-1、974-2、1057-6、1057-7、1057-8、1058-1、1058-2、1058-3、1058-4の一部、1058-5、1059-1、1061-1、1063-1、1064-1、1064-3、1065、1068
2. 地域の指定 : 都市計画区域内
3. 面積 : 約50,000㎡
4. 形状 : 不整形
5. 寸法 : 長手方向 約400m、短手方向 約230m
6. 最大高低差 : 約20m
7. 周辺環境 : 農地、山林、住宅地

S = 1 : 1000



(2)敷地現況図

I-4. 敷地の現況

(3) 敷地現況写真



①南側敷地と西側隣地



②南側敷地境界線



③南側敷地



④西側拡張敷地と北側隣地



⑤敷地中央から南側を見る



⑥敷地中央から北東を見る



⑦敷地中央から北側を見る



⑧敷地西側



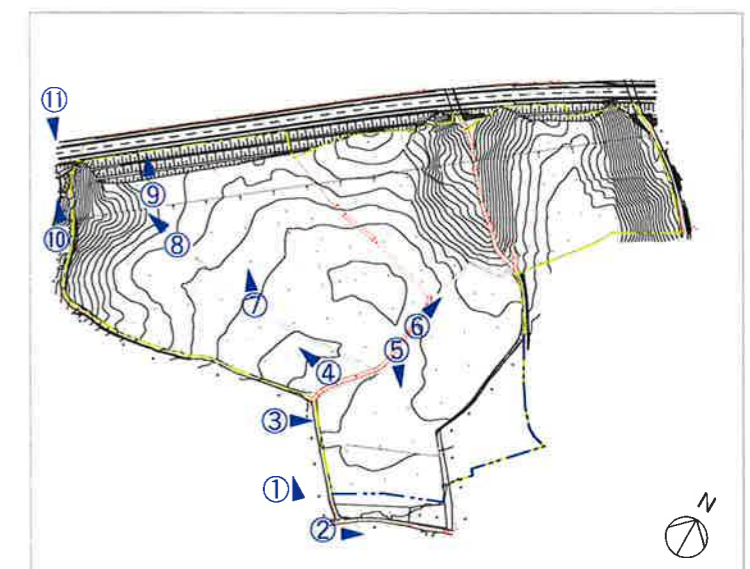
⑨北側敷地から崖部を見下ろす



⑩西側敷地境界線



⑪敷地外から西側敷地境界線を見る



---

## 5. 前提条件

- (1) 計画の前提となることから
- (2) 施設整備における要求

## 5. 前提条件

### (1) 計画の前提事項

#### 1) 銚田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会

##### a. 銚田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会について

- 基本計画策定のために、統合する7校の校長先生・PTA会長、銚田市教育委員会で構成された組織です。

##### b. 銚田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会から頂いた意見

- 基本計画策定を進める上で、銚田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会から頂いた計画の前提となる事項は下表の通りとなります。

新しい学校の方針		教育内容に関わること	施設整備に関わること		
①学校運営	i. 学校関連	a. 総合	ア. どのように児童を育てるか	個性を伸ばす教育。全ての子どもたちの個性・特長(学力・体力)を伸ばす教育	
			イ. 児童の自主性と規律	児童の主体性を伸ばす、自らやる気にさせる。	
			ウ. カリキュラム	一般的なカリキュラム	
			エ. 特別支援学級	特別支援学級と普通教室を離すことは考えていない。 不登校児は普通学級から離すことが必要。 ブレイルーム 知的、情緒、言語の各学級の構成	教室の半分程度のブレイルームがあるとよい。 知的、情緒、言語がひとくくりでなく、それぞれ適した環境がよい。
		b. 将来構想	ア. 児童が少なくなった時にどう対応するか	少人数学習、習熟度別学習等で利用	
		c. 管理・安全	ア. 職員体制	教科専任の教師を出来るだけ取り入れる。理科や音楽など	
			イ. 通学方法	現在、整備している北小を踏襲。2km以上はスクールバス、自転車	
			ウ. 管理ゾーン		会議室、応接室、研修室、ラウンジは適切な面積、配置を図る
			エ. 駐車		駐車台数の検討
	d. 教科学習	ア. 授業体制	TT実施 グループ学習実施 少人数学習実施 習熟度別学習実施	オープンスペース、少人数教室があるとよい。 少人数教室は1学年に1室程度あるとよい。	
		イ. 理科教育	理科教育を重視し、専任講師による授業を行う。	最大3名の学習単位が理想的である。	
		ウ. 英語教育	英語教育を重視、ALTも導入	英語教室の必要性を検討	
		エ. 芸術教育	芸術教育は従来通り	展示スペースの確保	
		オ. 発表活動	発表活動は重視する。	発表のための場があるとよい。	
		カ. 教科間の連携	算数と理科、国語と社会、音楽と家庭科の連携など、特別な仕組みは考えていない。	教科と一対ではない、フレキシブルな特別教室がよい。	
		キ. 校内での自主学習	メディアセンター・図書館での自主学習重視 読書活動の重視		
		ク. 家庭学習	家庭学習の啓発		
	ケ. その他	集団・グループ・個別の学び→学びあいの学習を重視。佐藤学先生提言	オープンスペース、少人数教室があるとよい。		

新しい学校の方針		教育内容に関わること	施設整備に関わること				
①学校運営	i. 学校関連	e. 生活学習	ア. 道徳教育	道徳教育を重視する			
			イ. 日常生活	異学年の交流を重視し、同じ単元を別の先生が行う。 同学年の繋がりを重視し、同じ単元を別の先生が行う。 地域の子どもの繋がりを重視	地域のこどもが群れて遊ぶ場所があるとよい。		
			ウ. 教師と児童の関係	教師と児童のコミュニケーションを重視	交流ラウンジ、多目的スペースを検討 学年に1つ教師ステーションがあるとよい。 交流ラウンジがあるとよい。		
			エ. カウンセリング	カウンセリングを導入する。	カウンセリング室の設置		
			オ. ランチルーム	ランチルームで同学年や異学年との交流を図る	交流スペースや多目的スペースの活用を検討		
			カ. ハミガキ	ハミガキ教育を重視	流し台を確保		
			キ. 学校農園	農業体験を実施する	観察園等の整備		
			e. 体育	ア. 体育館	バス通による基礎体力の維持・向上が重要。種目は担当課へ確認する。	通常、朝一で授業は行わないため、授業が重なることから1つの大きな施設では難しい。体育授業等幅広く対応できる体育館。 全体集会、セレモニーが出来る規模でステージも必要。 昇降口を設けて、バスの待合スペースとして利用	
		イ. プール			屋内、屋外の検討 プールの設置		
		ウ. スポーツ活動		幅広く行う。特化しない。			
		エ. その他			防球ネット		
		①学校運営	ii. 地域との関わり	a. 施設	ア. 幼稚園、保育園との連携	異学年交流実施 小一ギャップの解消	
					イ. 中学校との連携	異学年交流の実施 中一ギャップの解消	
					ウ. 地域図書館との連携	連携を検討	
b. ひと	ア. 保護者			PTA室、保護者用駐車場を検討する	4m程度の外周道路を確保し、縦列駐車できるとよい。		
	イ. 地域住民			地域のゲストティーチャーを招く			
②地域利用	i. 子育て支援	a. 児童クラブ	民間の児童クラブ室の併設が望ましい。整備する際は別棟	運営及び収容人員の規模検討が必要。			
		b. その他	学校行事、学年学級の会合等で、乳児等を一時対応できるスペースの検討				
	ii. スポーツ少年団	体育館での一定程度実施 運動場開放をし、一定程度実施					
	iii. その他		地域交流室の検討				

## (2) 施設整備における要求

- 基本計画策定を進める上で、銚田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会から頂いた施設整備における要求事項は下表の通りとなります。

		ご意見
1 基本方針案について		1 基本設計、実施設計の図面ができた段階で意見を取り入れられるようにしてほしい。 2 小中連携 ⇒ 幼小中連携 3 基本方針(案)の5つの目標については、大賛成である。特に地域の交流の場を大切にできる学校を実現して欲しい。7つの小学校が一つになるということは新たな社会を築くことです。それぞれの地域(旧学区)の良さを語り継ぎながら、銚田南小学校(仮称)の伝統を創っていかねばならないと感じます。そのためには、是非各地域(学区)の歴史や伝統を語り継ぐための場を提供し、交流して欲しいと願っています。 4 イメージでしか表せないと思いますが、是非基本方針(案)の表には必ず設置する思うデザイン(写真)を入れて欲しい。(写真でなくてもよいのでは?) 5 良いと思います。 6 私個人としては、教育の専門家ではない為、何が良いか悪いか分からない。他の先行して統合した学校の良い点を取り入れて見習うこと。 基本的には、この内容で良いと思いますが、5つの目標の文末表現等をそろえたとさらに良いと思う。(体言止め等) ○小中連携を推進する核としての学校 ○子どもたちが安全・安心に学習・生活できる学校 ○子どもたちが群れ交流する空間(としての学校) ○国際社会に貢献する人を育てるフレキシブルな学習空間(としての学校) ○地域交流の場としても学校 8 (案)は良いと思いますが、つめこみすぎではないですか? 9 やはり日常、防犯、防災の安全性の確保は大事だと思います。
2 総合	全体像について	1 広い廊下 2 光や風を取り込めるように学校の中心に中庭を設置 3 学年単位で集うことのできるスペース 4 準備室をはじめ、収納スペースを十分に確保してほしい。 5 2階建てが一番よいと感じるが、敷地の使用状況によっては3階でもよいのでは?(1階…特別教室、2階…1, 2, 3学年、3階4, 5, 6学年等) 6 良いとは思いますが、移動距離が長いですね?先生も大変だと思いますが、子どもさんの保護者は、授業参観の時大変だと思います。全体的に廊下がつながっているような感じなのですか?(ショッピングモールのような?) 7 学年ゾーンは必要 8 子ども達と先生方が活用できる施設にしていだきたい。(長く使うのは児童と先生である。)…デザインより機能性を重視して欲しい 9 この構成は、いいと思う。 10 百年後にも評価が下がらない耐震、デザイン、機能を考えること。
	安全性	11 昇降口は職員室からよく見える位置に設置 12 周りに民家が少ない場所であるため、防犯安全性を重視した設備にしてほしい。
	バリアフリー	13 バリアフリー 14 エレベーターの設置をお願いしたい。(身体の不自由な児童生徒対応・怪我した児童生徒対応)
	衛生	15 トイレは、和式の学校が多いので、洋式のトイレもつけてほしい。 16 手洗い場は、感染症の予防から自動水栓に 17 トイレは洋式(温かい便座)を中心に、和式の場所も設置してほしい。 18 和式トイレよりも、洋式トイレを主に設置してほしい。
	防災	19 学校が高台に出来るので、災害の時の避難場所として、体育館を使用して、学校門も数ヶ所とれたらいいと思う。 20 防災拠点としての備えが必要である。 21 地域の重要な避難施設として、災害等に十分に対応できる設備も兼ね備えてほしい。
3 普通教室	位置	1 低学年(特に1年生)の移動:職員室、保健室、体育館を近くへ 2 廊下を挟んで教室が対面する配置が良いと思います。 3 教室は対面型が良いと思います。
	機能	4 児童ロッカーはランドセルと各種道具が入られる大きさにしてほしい。 5 教師用の収納スペースの確保 6 日当たりのよい明るい教室、窓が多く風通しのよい教室(廊下側にも窓) 7 話し合い活動を柔軟に行えるためのオープンスペース等の共有スペースの設置 8 オープンな空間と、時には仕切りを作り、個室にもなるなど、使い出しの良い教室に。 9 4クラスでも統合になると、人数が大幅に増えるので、子ども達が快適な授業が受けられる、そんな教室がいい。
	仕上	10 普通教室、廊下の床、壁面に木質系材料の使用
	設備	11 全教室に冷暖房設備、電子黒板、TV、プロジェクター、プリンター、LAN設備 12 冷暖房設備を整えてほしい(体育館を含みます) 13 可動式の黒板や電子黒板等の設置 14 エアコンの設備 15 冷房や暖房も必要かと思いますが、自然の風も大切にしてほしいので、窓に網戸はあった方が良いでしょう。 16 トイレは洋式を多めにした方がよいと思います。和式が使えない子がふえています。 17 プロジェクターやスクリーン等は、各教室と特別教室に設置してほしい。
	その他	18 デザイン優先ではなく、機能を優先してほしい。

ご意見

4 特別支援教室	大きさ・室数	<p>1 今までは違うさまざまな障害を持つ児童が登校する事が予想されるので、教室の数は多めに。</p> <p>2 6クラスに加えて予備教室が必要である。</p> <p>3 普通学級数については、増えるということは考えられないかもしれないので、予定教室数で大丈夫かと思われる。しかし、特別支援学級への入級児童数は、増加傾向にあると思われるので、教室が足りなくなることも考えられる。そのための対処として余裕教室を相談室等として確保しておく必要があると思われる。</p> <p>4 基本的にこの内容で良いと思います。 会議の中での説明では、特別支援学級は6教室とプレイルームで考えていますと説明がありました。この規模の学校として妥当でしょうか？現在、鉾田小学校の特別支援学級は5クラス(知的2、自閉・情緒2、言語1)です。鉾田小は、児童数370人ですので、もう少し余裕が必要かと思えます。 ※児童数が少なくなれば、空き教室ができるので大丈夫と思いますが、最初の段階では・・・</p>
	位置	<p>5 不登校支援用に1階にもあるとよい。(出入りが目立たないところ)</p> <p>6 知的障害学級教室 2階、情緒障害学級教室 1階、言語障害学級教室 2階</p>
	機能	<p>7 特別支援教室は、合理的配慮に基づく授業づくりやインクルーシブ教育を目指している。そのためには、特別支援教室は積極的に普通学級の近くに配置してほしい。</p> <p>8 広い収納スペース</p> <p>9 教室内に手洗い場、稼働式黒板、移動式黒板、室内にトイレ等</p> <p>10 知的、自閉・情緒、言語学級専用の教室設置</p> <p>11 知的障害学級教室 畳スペース、こたつ、検査用具等の収納庫</p> <p>12 情緒障害学級教室 教室とは区切ったプレイルーム、学習コーナー、仕切りのための家具(オープンするとき)</p> <p>13 言語障害学級教室 マジックミラーの教室、防音、教材の収納庫</p> <p>14 特別支援教室にはプレイルームと特別活動室を併設</p> <p>15 通級指導教室、日本語指導教室の必要性はないだろうか。</p>
	仕上	<p>16 知的障害学級教室 色(温かい色・木目調・・・アットホームなもの)</p>
	その他	<p>17 児童の実態を就学指導委員会で協議を重ね、慎重に且つ適正に設置してほしい</p> <p>18 特殊学級と通常の学級との交流教育が図れていいと思う。</p> <p>19 旭幼稚園にある「ことばの教室」を設置していただけたら良いなと思います。</p> <p>20 外見だけでは判断出来ない、発達障害の子どもたちのケアをしていただけたらと思います。</p> <p>21 小学校の先生だけでは対応が難しいこともあると思います。それが無理ならば、保健センターなどの心理士の方に手伝いをしていただけたらと思います。(毎日ではなく週1回等)</p>
	5 特別教室	大きさ・室数
位置		<p>5 家庭科室、理科室は1階</p> <p>6 各準備室はそれぞれの特別教室の隣に設置</p> <p>7 家庭科室は5・6年教室に近く、理科室は3～6年教室に近くするなど学年の使用頻度に応じた配置を考えてほしい。(当たり前かもしれませんが)</p> <p>8 PCルームと図書室は接近した方がよい。</p> <p>9 メディアセンターを中心にした各教室等の配置は良いと思います。</p>
機能		<p>10 学年ごとに集会等ができるスペースがほしい。また学年毎に相談室があるとよい。</p> <p>11 理科、図工、家庭は広々とした空間かつ、やはり、個にもこだわり、音楽室に関しては音響にこだわり、音楽館的なスペースを取ってほしい！</p> <p>12 特別教室は、やはり広くて、各教科にみあった教室であってほしい。</p> <p>13 多目的に使えるようにしてほしいと思います。</p> <p>14 図書室、コンピューター室(図書室とコンピューター室は一体化)・理科室・音楽室・図工室・生活科(和室)・家庭科・視聴覚室(ランチルーム)・学習ルーム・外国語教室の設置</p>
設備		<p>15 PCルームには一人一台のパソコン(プリンタは2人に1台)</p>
6 管理諸室	大きさ・室数	<p>1 職員室は広めに(打合せができるスペースも必要)</p> <p>2 保健室は、児童数が多くなるので、ある程度のスペースを確保</p> <p>3 職員室、会議室は広い方がいい。</p> <p>4 保健室にあっても、ある程度広めがいい。</p>
	位置	<p>5 職員室と会議室は接近した方がよい。</p> <p>6 保健室は、職員室近くよりも昇降口の近くが望ましい。</p>
	機能	<p>7 保健室は広いスペース(シャワー室、トイレ、相談コーナー、冷蔵庫、洗濯機の設置)</p> <p>8 応接室、更衣室、教材室、休憩室、会議室、小会議室、印刷室等の設置</p> <p>9 廊下で集会ができるようなスペースを設けてほしい。</p> <p>10 職員室の書庫とロッカーの広さは十分確保してほしい。</p> <p>11 児童、PTA、色々な関係団体が気安く入れるように、まさにオープンな空間を！</p> <p>12 職員室・校長室・事務室・保健室・管理室・PTA室・地域連携施設・ミーティングルーム・教育相談室・放送室・印刷室・会議室の設置</p> <p>13 職員室ガラス張り、各教室のガラス張り。オープンで開放的な感じ</p>
	設備	<p>14 保健室は、嘔吐や応急処置にすぐ対応するためにもシャワー等の設備を整えてほしい。(養護教諭)</p> <p>15 会議室は、電子黒板等のICTの使える環境</p> <p>16 シャワーや洗濯機等があればケガした子の消毒や体調不良で嘔吐や下痢等した子どもが清潔になることができると思います。</p> <p>17 カラーコピー機、プリンター複数台の設置</p>
	その他	<p>18 先生方がストレスなく仕事していただけるような空間にして下さい。</p>

7 体育館	大きさ・室数	<p>1 児童数に応じた規模の体育館</p> <p>2 今の時代運動不足な児童は多いはず。雨天時などに遊べる空間や複数のクラスが体育の授業ができる位の広いスペースは必要かと。</p> <p>3 地震などの緊急時に使用できるくらいの広さがあればいいと思います。保健センターや市役所だけでは備品や食料の配布が混雑して大変そうでしたので。</p>
	機能	<p>4 収納室、シートをきれいに敷くための設備</p> <p>5 器具庫は何をどのように配置するかよく考えてほしい。統合前の学校の体育館使用用具の現有数(十分使用可能な物)を確認し、それらの器具が生かせるようにしてほしい。(器具庫は広めに設計してほしい)</p> <p>6 いすの収納は児童の負担にならないようにしてほしい。</p> <p>7 体育館は、人数の多い子ども達も主に使用するもので、広くて、すべりにくい体育館がいい。</p>
	設備	<p>8 アスレチック施設、ダンス等を指導するための鏡</p> <p>9 空調設備</p> <p>10 エアコンの設備</p> <p>11 一時避難施設として開放できるように(遠赤外線暖房装置等)やプールの水が利用できるトイレを設置し、地球にも利用しやすい施設</p> <p>12 備蓄倉庫の併設</p>
8 外部空間	規模	<p>1 200mトラックが確保できる広さの運動場</p> <p>2 200mトラックは最大確保してほしい。</p> <p>3 運動場は広い方がいい。</p> <p>4 プールは通常の大きさでいいと思う。</p> <p>5 駐車場は、出来る限りスペースがあった方がいい。</p> <p>6 運動会など行った時に、たくさん停められる、広い駐車場</p> <p>7 運動会などで、もめ事がおこらなような位の広さをお願いします。</p> <p>8 約800人の児童が余裕をもって活動できる運動場の確保</p> <p>9 PTAの来校しやすい環境としての十分な駐車場スペースの確保</p> <p>10 駐車場をできるだけ多く確保してほしい。</p> <p>11 駐車場は200台程度で十分であろうと思う。学校周辺は、宅地でないのも、拡張性もあり、後でも対応できるのではと思われる。</p>
	位置	<p>12 地形を利用して、半地下のプールでその上の一階部分に体育館の二層式にすることで、地形の有効利用を。運動場を広くするのは当然だが、駐車場も車社会と言う地域だけに！</p> <p>13 運動場等のスペース確保のためにプールを体育館上部に設置※夏場の体育館室温上昇を抑えるのでは</p>
	機能	<p>14 職員用、来客用の駐車場</p> <p>15 アスレチック施設の充実</p> <p>16 広い収納スペースのある体育舎</p> <p>17 体育舎も十分に確保してほしい。(各校からの備品を収納できるように)</p> <p>18 通学バス、保護者の来校を考慮した駐車場。(ロータリー式、ある程度の台数が駐車できるスペース)</p> <p>19 休み時間高学年がボール運動ができるスペース</p> <p>20 低学年が好む遊具</p> <p>21 傾斜のある森林には、野友小学校のようなアスレチック施設があるのもよいのでは？(安全面は大事ですが)</p> <p>22 正門だけでなく、通学路の安全性を考えた門を設置できないか？(徒歩通学者とバスの出入りが一緒に大丈夫なのかなど)</p> <p>23 施設全体の構想案の例が示されたが、200mトラックに併行して100mの直線がとれるとのことであったが、100mのコースをとるためには、駆け抜けるための余裕が必要であり、用地として120mは必要と思われる。</p> <p>24 一般道への出口は渋滞を避けるためにも、複数あった方がよい。あるいは、かなり手前から分岐をつくって一般道左車線に入る通路と反対車線に入る通路に分けるとかなり渋滞は解消できるのでは。</p>
	設備	<p>25 トイレの設置</p> <p>26 花壇・観察園等への散水専用井戸設備をお願いしたい。</p>
	その他	<p>27 プール…設置するなら適正規模のものを！設置しないのであればスポーツクラブやマシンとの連携や代替措置を</p> <p>28 駐車場…大きな行事を考慮し、近隣住民からクレームが出ないぐらい余裕を持った用地確保。</p> <p>29 有効な土地利用をお願いしたい。</p>



ご意見

9  
そ  
の  
他

- 1 用務員さんの配置
- 2 図書館、公民館を隣接し、社会教育との融合を是非行ってほしい。
- 3 これから様々な問題が出てくると思いますが、一つ一つ解決し素晴らしい統合小学校にしてほしい。
- 4 上記のような提案をした場合、素人のため、建設後の具体的なイメージが持ちにくい。話し合いをした内容について実際の建築では、どのようになるのかをイメージ図等で提示していただけると、より具体的な話し合いになると思います。
- 5 耐久年数百年、これを考えると、銚田北小のようなオーソドックスな形よりは、百年後にも通用出来る位、斬新なデザインでも良いかと。環状道路からも見えるところで、大竹方面まで道路が繋がれば、当然目に付きやすい建物になり、銚田市のシンボルの建物としての役割も果たすのでは！
- 6 第1回の施設設備委員会は本当に施設の事だけを話し合うんだなと感じました。ただ、この回に参加する方々へ子どもたちが将来この学校に通うかはわからないと思います。すでに卒業されてしまう方もいるでしょうし、本当に必要なのか疑問にも思いました。私個人的には箱よりも中身だと思っています。先日の8月22日に行われたPTA指導者研修会で、平成28年4月に開校予定の北小学区でまだ役員をどうするか決まっていなくて聞きました。学校の外見よりも中身だと思います。どんなにすばらしい建物を作っても、それに負けてしまうような指導体制では意味がないと思います。役員はあとで、とか別の機会にというならば、PTA会長が参加する意味は？と正直思いました。施設に関して一部の方々の意見だけで決めるわけにはいかないでしょうし、PTA会長はPTAの代表ではあっても、すべての意見を言うことも出来ないと思います。失礼なことをたくさん書いてしまったかもしれませんが、先生方が快適に過ごせる場所にしてほしいです。一番長く時間を過ごすのは子どもではなく先生なので。子どもにとってはもちろんのこと、親にも地域にも先生にも楽しく生活していただける施設にしてほしいです。
- 7 夢のある学校 ・色 ・形(メルヘンチックな)
- 8 曲線的で使いづらいスペースがあるデザインではなく、機能性を重視してほしい。
- 9 新たな小学校を創るのは大変だと思いますが、これから先の銚田市の子ども達の教育のために、十分検討した学校施設になればと願っています。
- 10 機能を重視するためにも、学校長やPTA会長だけでなく、用途によっては専門職(教諭)を話し合いの場に出席させて欲しい。(これは次の段階だと思います)
- 11 先進的な施設の見学をお願いいたします。
- 12 私たちの意見が本当に反映されているのか？後の責任転嫁の為に委員会無し。素人の私には、専門家の言うことは、すべて良いことなのかと思っています。
- 13 今の段階では地形、予算なども分からず、雲をつかむようで何とも言えない。ある程度の図面ができてからの意見が反映されるようお願いしたい。
- 14 以前のアンケートでも書かせていただきましたが、素人のため、建設後の具体的なイメージが持ちにくい面があります。「施設全体の構成」や「普通教室配置(オープンスペース等)」について実際の建築では、どのようになるのかをイメージ図や立体モデル等で提示していただけると、より具体的な話し合いになると思います。また、先進校の視察なども有効かと思えます。
- 15 スクールバス無料化
- 16 北小の見学は出来ませんか。検討委員の皆さまで、工事中ですが、工事が終わって開校前でもいいので。
- 17 出入口: 抜け道または、入口・出口は別にする必要があります。
- 18 スクールバス: 13~14台と聞いたが、児童数640名の玉造小で18台なのに、800名を超える学校でその数で大丈夫だろうか。
- 19 学校に学童をおいてほしい。(放課後児童クラブ、児童保育所)
- 20 小中連携ですが、最終的には幼稚園も近いほうが良いのでは？幼稚園の事には、今回はまだ検討されていないようですが、特別支援学級の付近やコミュニケーションゾーンなど地域の方と交流するゾーンに幼児スペースもあると将来的に良いと思います。

---

## 6. 法的条件

- (1) 建築基準法（集団規定）の適用される事項
- (2) 建築基準法（単体規定）の適用される事項
- (3) 消防法の適用される事項

# 6. 法的条件

## (1) 建築基準法（集団規定）の適用される事項

建築基準法（集団規定）の適用される事項を下表にまとめます。

項目	適用	与条件				
		内容	補足			
I 建物概要	1. 建築主	①氏名	■ 銚田市長 鬼沢 保平			
		②郵便番号	■ 〒311-1592			
		③住所	■ 茨城県銚田市銚田1444-1			
	2. 建築物の名称		■ (仮)銚田市立銚田南中学校区統合小学校			
	3. 建築用途		■ 小学校(校舎・体育館等)			
4. 工事種別		■ 新築				
5. 構造・規模	①構造	■ RC造				
	②階段	■ 地上2階、もしくは3階				
	③増築予定の有無	■ なし				
II 敷地について	1. 地名地番		■ 茨城県銚田市畑田973-1、973-3、974-1、974-2、1057-6、1057-7、1057-8、1058-1、1058-5、1058-2、1058-3、1058-4の一部、1059-1、1061-1、1063-1、1064-1、1064-3、1065、1068			
	2. 住居表示		■ 茨城県銚田市畑田地内			
	3. 地域の指定	①都市計画区域の内外の別	■	都市計画区域内		
		②用途地域	<input type="checkbox"/>	—		
		③防火地域指定	<input type="checkbox"/>	—		
		④その他の地域	<input type="checkbox"/>	—		
	4. 敷地	①面積	■	約50,000㎡		
		②測量図の有無	■	有		
		③登記簿等の有無	■	有		
	5. 敷地形状	①形状	■	不整形		
		②寸法	■	長手方向 約400m、短手方向 約230m		
		③高低差	■	約20m		
	6. 隣地・道路	周辺環境	■	農地、山林、住宅地		
		隣地・道路との高低差 (設計GL: ±0)	北	■	道路: 約20m	
			東	■	隣地: 0m	
			南	■	隣地: 0m	
			西	■	隣地: 0m	
		道路の種類(現況)	道路1(北西側)	■	北西側: 県道5-182号線 幅員11.0m 法42条第1項第1号道路	
			道路2(北東側)	■	北東側: 市道8-3072号線 幅員2.0~6.6m 法42条2項	
	道路3		<input type="checkbox"/>	—		
	施工動線の規制	■	県道182号からに限定される			
	接道条件	■	幅員4m以上の道路に幅2m以上の接道			
	7. インフラ	雨水排水	■	敷地内浸透(調整池)、北側用水路に放流		
污水・雑排水		■	下水道もしくは浄化槽			
給水		■	県道182号道路より引き込み(※将来敷設予定)			
		<input type="checkbox"/>	—			
ガス		■	LPガス			
電力		■	県道182号道路より引き込み			
通信		電話設備	■	県道182号道路より引き込み		
		光ケーブル	■	県道182号道路より引き込み		
その他	<input type="checkbox"/>	—				
8. 地中状況	地中埋設物	■	埋蔵文化財 包蔵地			
	地質	■	当該地盤の地層構成は別途調査が必要			
	土質・土壌	■	当該地盤の地層構成は別途調査が必要			

(2) 建築基準法（単体規定）の適用される事項

建築基準法（単体規定）の適用される事項を下表にまとめます。

	条項	適用	規定	補足	
I 関連する 集団規定	1.指定建ぺい率	■	60%		
	2.指定容積率	■	200%		
	3.高さ制限	道路斜線	■	勾配1.5、適用距離20m	
		隣地斜線	■	20m+勾配1.25	
		北側斜線	□	-	
	4.日影規制	□	-		
	5.用途制限	□	-		
6.関係法令	■	いばらき 人にやさしいまちづくり条例			
	■	農地法第5条			
	■	都市計画法第29条第1項、同法第34条の2			
	■	森林法	残地森林 概ね25%		
	□	-			
7.電波障害	□	-			
II 一般規定	1.採光面積	■	1/7以上:(イ)床面上50cmにおける水平面で200ルクス以上の照明設備と(ロ)床面上50cm以上の窓等で、左記の有効採光面積のある場合		
			1/10以上:上記(イ)の条件及び令20条の2による換気設備がある場合		
			1/5以上:その他		
	2.換気	居室	■	床面積の1/20以上の換気に有効な開口部面積を確保	
		火気使用室	■	火気使用室の換気設備	
3.天井高	居室	■	2.1m以上		
4.便所		■	水洗便所		
5.避雷設備		□	-		
III 防火規定	1.構造制限	□	-		
	2.防火区画	面積区画	■	耐火建築物で延べ面積1500㎡を超える場合、1500㎡以内ごとに特定防火設備で区画	
		縦穴区画 異種用途区画	□	3階建以上の場合、階段・吹抜けを防火設備で区画 -	
	4.内装制限	防火上主要な間仕切り壁	■	防火上主要な間仕切り壁を準耐火構造とし、小屋裏又は、天井裏に達しせしめなければならない。	
火気使用室 無窓の居室		■	内装材料を準不燃材料としなければならない。 無窓の居室(排煙上有効な開口部が居室面積の1/50未満のもの)で、床面積が50㎡を超えるものは、居室及び通路・階段などの仕上げを準不燃材料としなければならない。		
IV 避難規定	1.階段(形態)	階段幅	■	1400mm以上	
		蹴上げ	■	160mm以下	
		踏面	■	260mm以上(直階段の踊場踏幅:1200mm)	
	2.階段(避難)	直通階段(歩行距離)	■	無窓の居室(有効採光面積<居室の床面積×1/20)の場合、30m以内 無窓の居室でない場合 50m以内	
		2以上の直通階段	■	無窓の居室でなく、居室及び避難路の内装を準不燃材料とした場合、60m以内	
		避難階段・特別避難階段	□	避難階の直上階で居室>200㎡、その他の階で居室>100㎡(主要構造部が耐火構造の場合は2倍)	
	3.廊下幅	両側居室	■	2.3m以上	
		その他	■	1.8m以上	
4.排煙設備		□	学校等については適用除外(但し、無窓の居室のチェック要)		
5.非常用照明		□	学校等については適用除外		
6.非常用進入口		□	-		
V シックハウス	1.居室のシックハウス	■	対象部分:全ての居室(常時開放された開口部を通じて居室と相互に通気がなされている廊下等の部分を含む) F☆☆☆☆(4種)の材料...制限なしに使用可能 F☆☆☆ (3種)の材料...制限なしに使用可能 F☆☆ (2種)の材料...制限なしに使用可能 (N2S2+N3S3<A)(S2:F☆☆の使用面積、S3:F☆☆☆の使用面積)		

### (3) 消防法の適用される事項

消防法の適用される事項を下表にまとめます。

消防設備判定条件	消防法上の用途		(7)小学校					
	無窓階の判定		判定基準: 東京都消防庁同意事務審査要領等		・無窓階 ・有窓階			
	収用人員の算定		小学校 合計	840名 840名	(教員50名 児童数790名) 防火管理者(50人以上) ◎ 要			
	その他		延べ床面積:校舎 約7,000㎡、体育館 約1,300㎡ 付属建屋 300㎡					
消防設備設置判定	消防設備リスト		判定	判定根拠		備考		
	消火設備	消火器	○	延べ面積	>	300㎡(無窓階50㎡)		
		屋内消火栓	○	床面積	>	700㎡(無窓階200㎡) 3倍(2,100㎡ 無450㎡)		
		スプリンクラー	—			該当部分無し		
		特殊消火	水噴霧	—			該当部分無し	
			泡消火	—			〃	
			二酸化炭素	—			〃	
			ハロゲン化物	—			〃	
			粉末消火	—			〃	
		屋外消火栓	—	床面積合計	<	3,000㎡ 9,000㎡(耐火建築物)		
		消防用水	—			敷地面積20,000㎡で1,2階床面積5,000㎡(耐火建築物15,000㎡)以上		
		連結散水	—			該当部分無し		
		連結送水	—			〃		
		非常用コンセント	—			〃		
	警報設備	漏電火災警報	—	延べ面積		500㎡		
		消防機関へ通報する火災報知設備	○	延べ面積		1,000㎡	※一般固定電話にて代用可か、要確認	
		非常警報設備	○			収容人数50人以上		
		(非常放送設備)	△			収容人数≥800人		
		自動火災報知設備	○			500㎡(無窓階300㎡)		
	避難設備	避難器具	—			2階建以下 不必要、3階建以上 必要		
		誘導標識	○			全部(誘導灯設置の場合、不要)		
		誘導灯	△			避難階の歩行距離20m以下		
		排煙	—			法的要求なし		
	他	防災防火対象物	—			該当部分無し		
		非常電源	—			〃		
	条例関係指導事項							
協議事項								

## 第Ⅱ章. 計画の基本的な考え方

---

1. 計画のコンセプト
2. コンセプトの具体化

---

## 1. 計画のコンセプト

# 1. 計画のコンセプト

■前章の銚田市教育目標を受けて、銚田南中学校区統合小学校の学校づくりの基本方針（案）を設定します。  
また、基本方針を実現するための5つの目標を定めます。



子どもにやさしい木材の内装仕上げのイメージ



交流スペースのイメージ

## 幼小中連携を推進する

- 社会性の育成
- 異学年交流の促進
- 中一ギャップの解消
- 専科制の重視

### 【具体化の方法】

#### ソフト

- ・異学年合同授業・合同行事の実施
- ・教員の小中学校併任
- ・教科専任教師の配置

#### ハード

- ・交流スペースの設置
- ・多目的スペースの設置



ALTによる英語の授業のイメージ



中・高学年のオープンスペースのイメージ

## 子どもたちが安心・安全に学習、生活できる

- 日常安全性の確保
- 防犯安全性の確保
- 防災安全性の確保

### 【具体化の方法】

#### ソフト

- ・地域に開いた学校
- ・スクールバスの運用

#### ハード

- ・子どもにやさしい素材の使用
- ・明快な避難動線
- ・耐震性に優れた校舎
- ・職員室から校内が見渡せる配置
- ・保護者の駐車スペースの確保

銚田南中学校区統合小学校の基本方針(案)

# 銚田市の未来を担う 子どもたちの夢を育む学校

(従来の既成概念にとらわれず、地域で子どもたちを育てていく学校をつくる)

## 国際社会に貢献する人を育てるフレキシブルな学習空間

- 英語教育の重視
- メディア・リテラシー教育の充実
- 発表活動の重視
- 教科を超えた学習を誘発する環境形成
- 子どもの成長に合わせた学習環境
- 地域の理解を深める環境

### 【具体化の方法】

#### ソフト

- ・少人数学習・グループ学習
- ・習熟度別学習・TTによる授業
- ・ALTの配置

#### ハード

- ・オープンスペースの設置
- ・メディアセンターの設置
- ・英語教室の設置
- ・特別教室の多機能化
- ・学齢により空間の設えを変える



休み時間の居場所のイメージ

## 子どもたちが群れ交流する空間

- 学校としての秩序の形成
- 子どもたちの生活空間の充実
- 地域の子どもの交流の場

### 【具体化の方法】

#### ソフト

- ・統合前の子どもたちの交流

#### ハード

- ・生活空間と学習空間を区別する
- ・休み時間の居場所をつくる
- ・交流ラウンジの設置



外部の居場所のイメージ

## 地域の交流の場

- 地域への施設提供
- 地域住民との連携
- 防災拠点(避難施設)

### 【具体化の方法】

#### ソフト

- ・地域のゲストティーチャーを招く
- ・児童クラブの併設

#### ハード

- ・地域交流ラウンジの設置
- ・PTA室の設置
- ・避難所としての機能



メディアセンターのイメージ



地域交流ラウンジのイメージ

銚田市教育目標「夢と希望を持ち、未来を拓く心豊かな人づくり」を実現します。



---

## 2. コンセプトの具体化

- (1) 施設構成の概要
- (2) 学年ゾーンの構成
- (3) 特別教室まわりの構成
- (4) 施設全体の構成

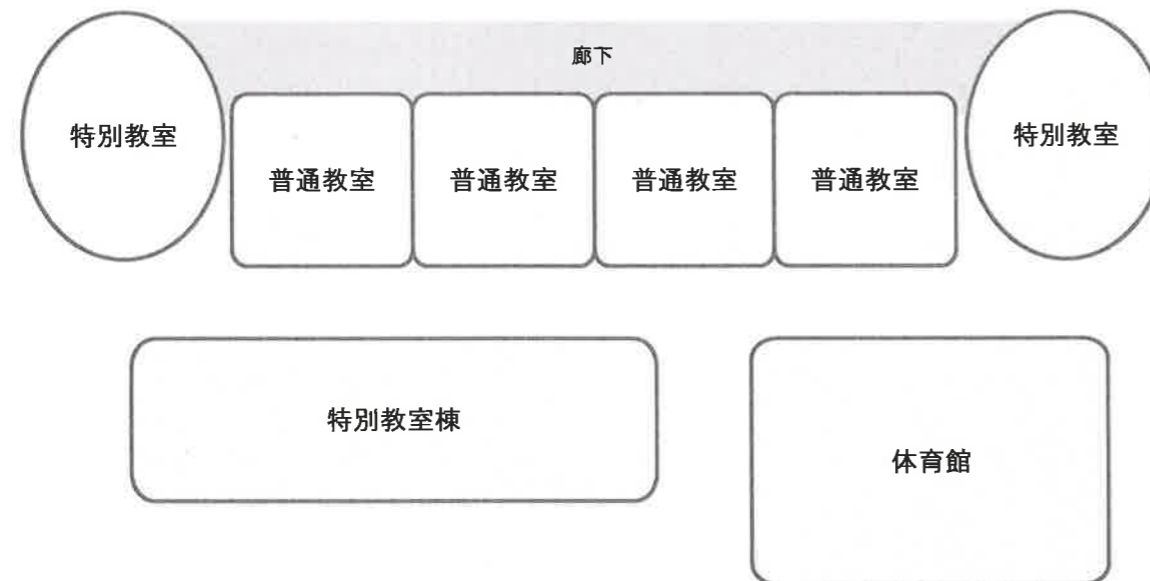
## 2. コンセプトの具体化

### (1) 施設構成の概要

- 学校の中心にある子どもたちの活動拠点
- 情報収集・発信の拠点
- 多様なコミュニケーションが生まれる拠点

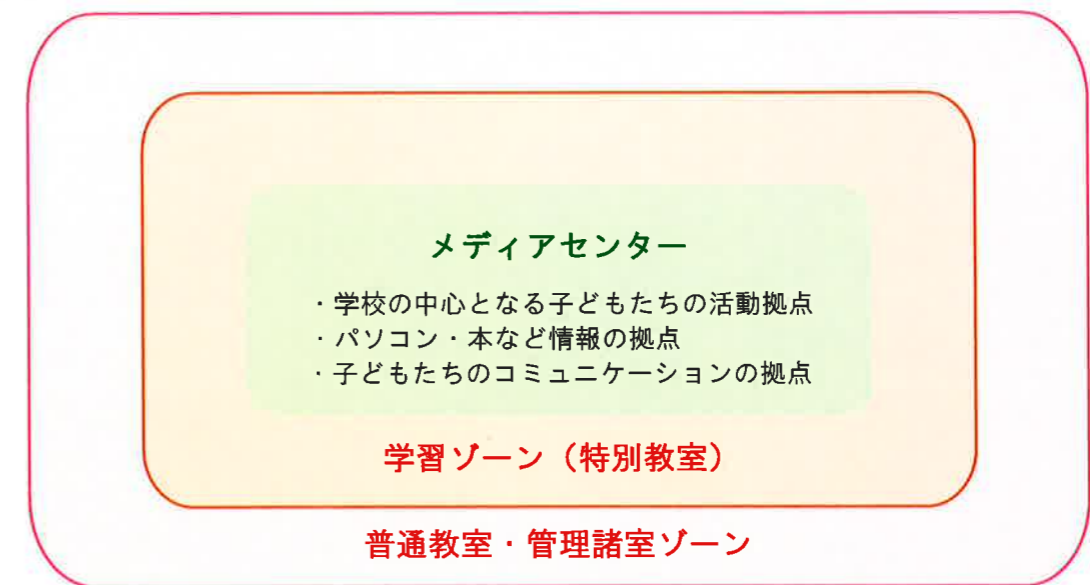
フレキシブルな学習空間の設置

#### 1) 従来型の学校



従来型の学校は教室が廊下に沿って並んでいるだけで、教室同士の連携を図りフレキシブルに活用しづらいかたちになっています。また、特別教室は普通教室から遠い位置にあり、別棟になっている場合もあります。

#### 2) メディアセンターを学校の中心につくる



- ・ 国際社会に貢献できる人を育てる学校とするために、子どもたちが本やPCなどの情報ツールを通して、世界とつながることができる**メディアセンター**を学校の中心に整備します。
- ・ 異学年の児童ともコミュニケーションがとれるように、子どもたちの生活領域が学校全体に広がる構成にします。
- ・ 情報化社会において、コミュニケーションの手段は多様化しています。インターネットを利用して離れた場所にいる人たちとつながったり、情報メディア機器を使って映像を見ることもコミュニケーションといえます。本計画では、多様なコミュニケーションが活性化する場をつくれます。

### 3) 新しい学校の考えられるパターン

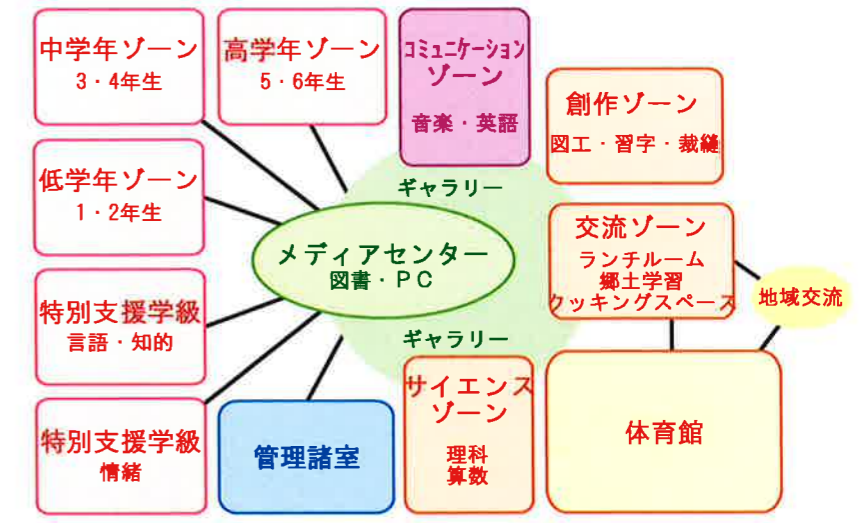
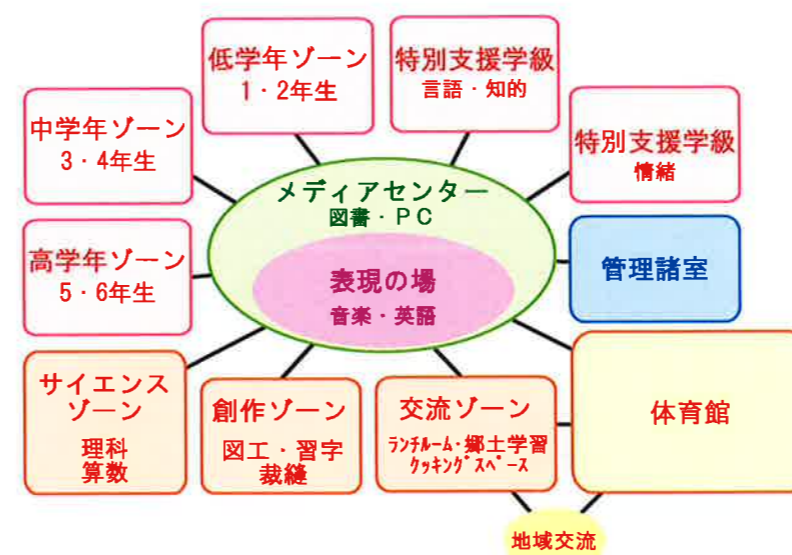
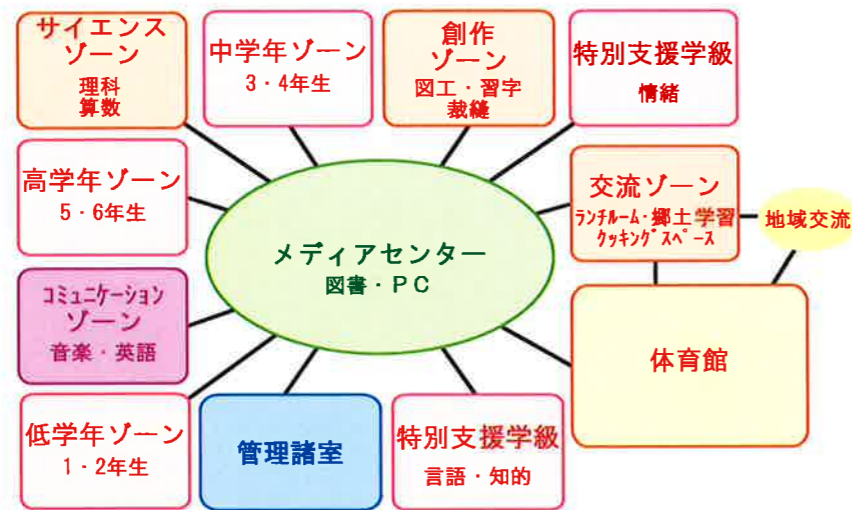
- ・新しい学校は、「国際社会に貢献する人を育てるフレキシブルな学習空間」を実現するため、メディアセンターや表現の場などを学校の中心に据えて、それを取り囲むように学年ゾーン、特別教室ゾーンを配置します。教室同士の連携が図れ、フレキシブルに活用できるように考えます。
- ・全体の構成としては、以下の3パターンが考えられます。

パターンA. メディアセンターを中心とした学校

パターンB. 表現の場を中心とした学校

パターンC. 特別教室をギャラリーでつないだ学校

概念図



基本的な考え方

メディアセンターを中心として、普通教室、特別教室などをまわりに配置します。

メディアセンターを中心として、周りに各教室を配置します。また、学校の中心に発表活動などができる「表現の場」を設けます。

メディアセンターを中心として、周りに各教室を配置します。特別教室はまとまりをもって配置し、教科のギャラリーでつなぎます。

特別教室の連携

特別教室は、その教科の利用頻度が高い学年ゾーンの近くに配置します。

各特別教室は、「表現の場」と連携しやすい位置に配置し、特別教室での発表活動がより活発に行えるように構成します。

特別教室は教科のギャラリーでつなぎ、教科を超えた学習活動を誘発するフレキシブルな空間をつくります。

学年間の交流

各学年ゾーンは独立性を持って配置し、メディアセンターを中心に異学年の交流が生まれるように構成します。

各学年ゾーンは日常的に交流できる距離に配置し、異学年の交流を誘発します。

各学年ゾーンはまとまりをもって配置します。また、メディアセンター、教科のギャラリーは異学年の学習活動に触れるスペースとなります。

- ・本計画は特別教室が教科を超えた学習活動の場となること、異学年が交流可能な多目的スペースが求められます。したがって本計画ではパターンCを基本とします。

## (2) 学年ゾーンの構成

### 1) 普通教室配置の基本パターン

普通教室は多様なコミュニケーション活動に対応できるように、フレキシビリティの高い配置を考えます。

また、将来の児童数減少を見込んで教室数は3クラスを想定します。

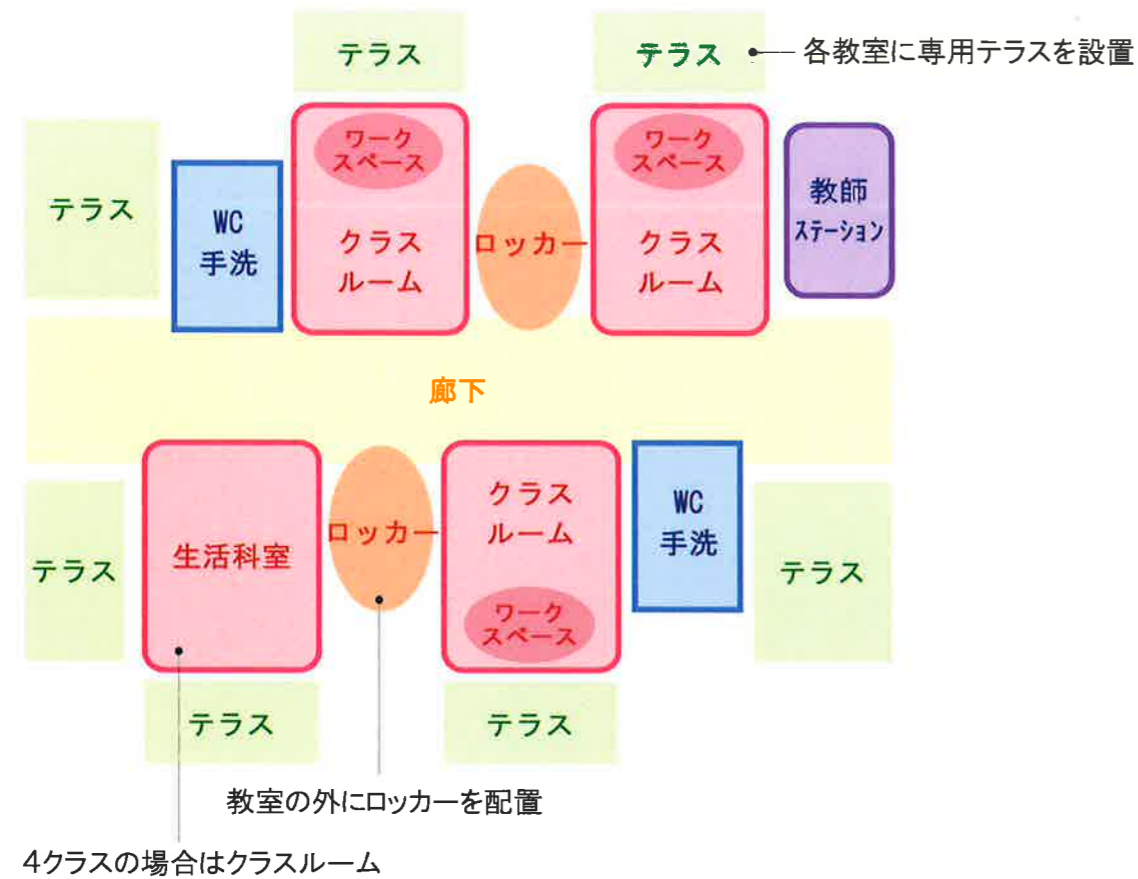
その際、各学年ゾーンに1つ余裕教室（低学年は生活教室、中高学年は少人数教室）を配置し、4クラスの期間にも対応できる計画とします。

#### a. 低学年ゾーン

##### ①廊下を挟んで教室が対面する配置

廊下を挟んで普通教室を対面させることで、各教室間の距離が近くなります。

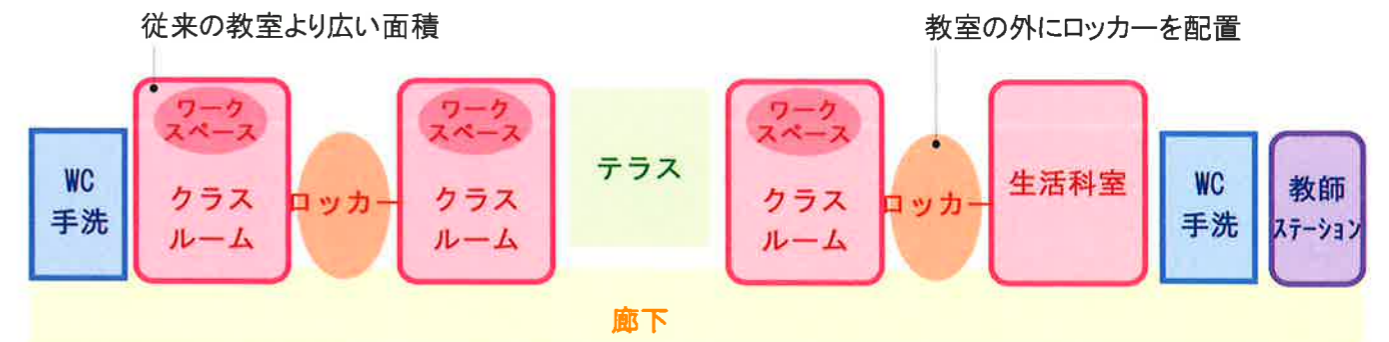
また、教室同士が向き合うことで、連携が取りやすくなります。



##### ②片側に廊下のある配置

廊下に沿って普通教室、ロッカースペース、テラスなどを配置します。

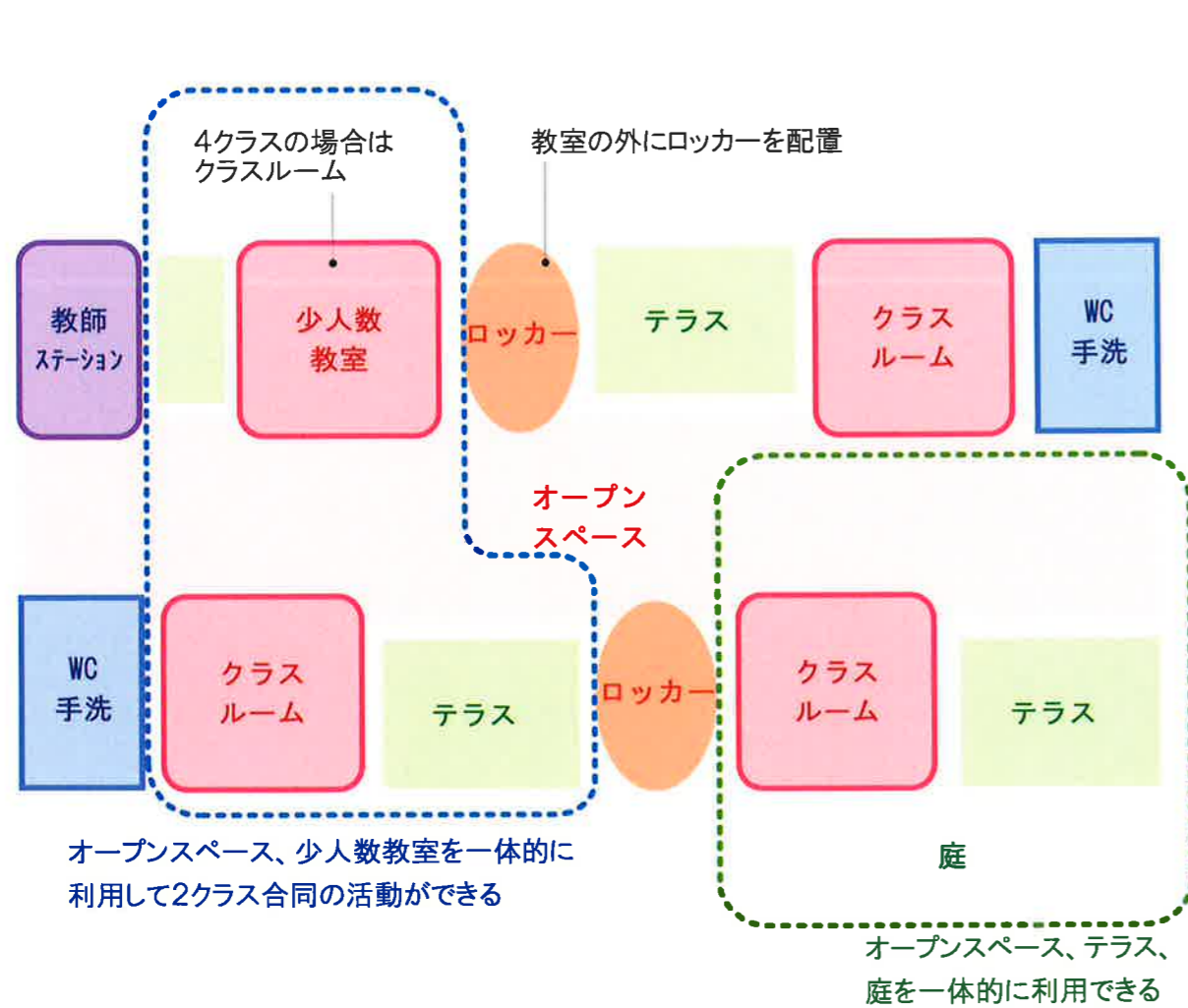
様々なスペースが挟まることで、各教室間の距離が長くなってしまいます。



b. 中高学年ゾーン

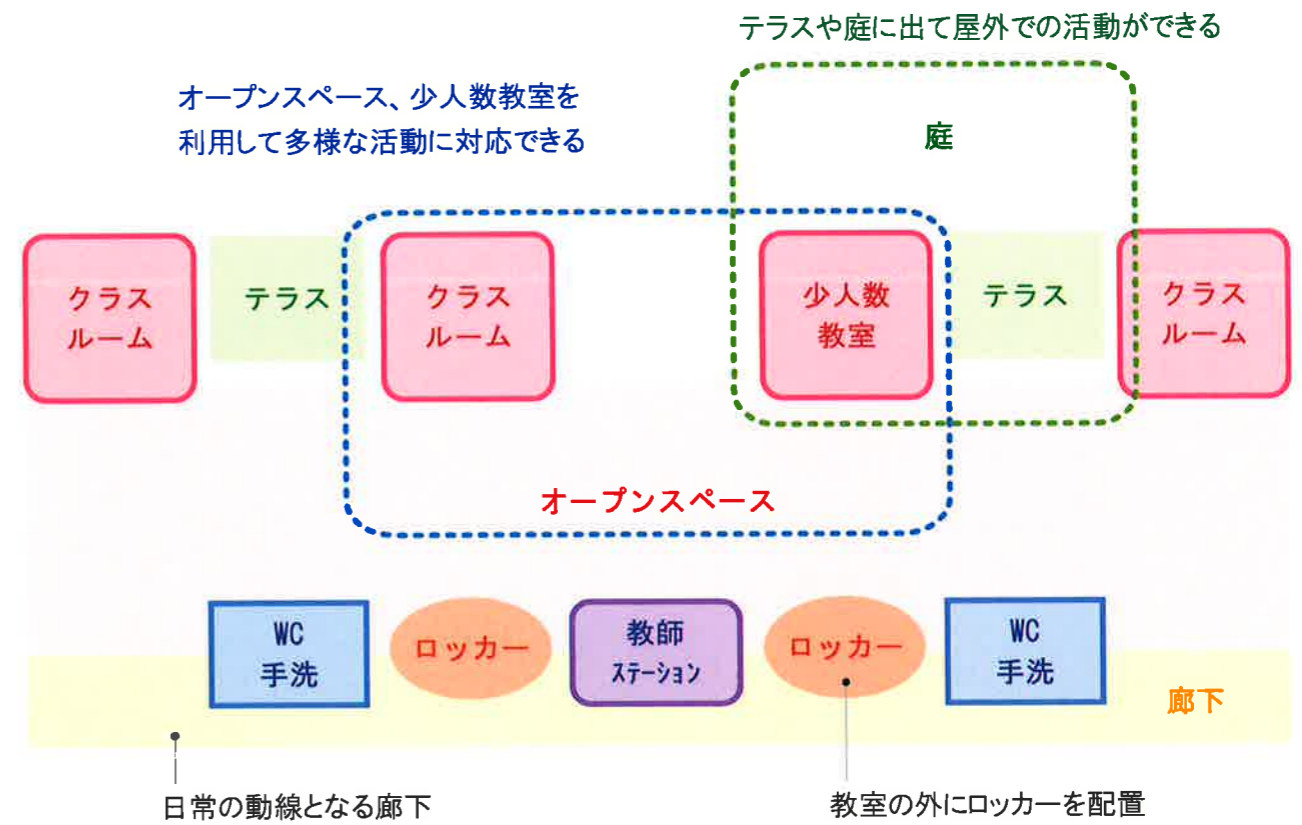
①オープンスペースを挟んで教室が対面する配置

オープンスペースを挟んで普通教室を対面させることで、各教室間の距離が近くなります。  
また、オープンスペースや少人数教室、テラスと連携して、様々な授業形態に対応しやすい配置となります。



②片側にオープンスペースがある配置

普通教室、少人数教室、テラスなどを並列させて、その前にオープンスペースを配置します。  
オープンスペースを挟んで反対側にはロッカースペース、WC、手洗いなど生活のための場を設けます。



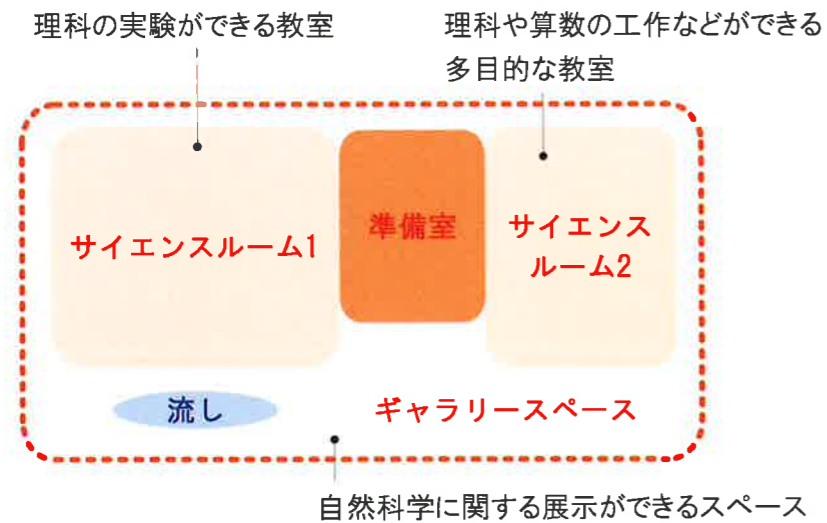
### (3) 特別教室まわりの構成

#### 1) 特別教室配置の基本パターン

様々な学習活動を誘発する特別教室は、教科と一対でないゾーンの形成を検討します。

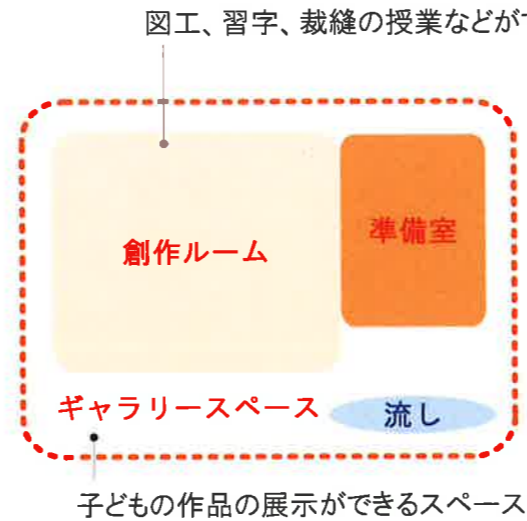
##### a. サイエンスゾーン

理科の実験や算数の工作などができる環境をつくります。  
 ギャラリースペースは自然科学に関する掲示や展示を行い、  
 子どもたちの好奇心がわくような空間に設えます。



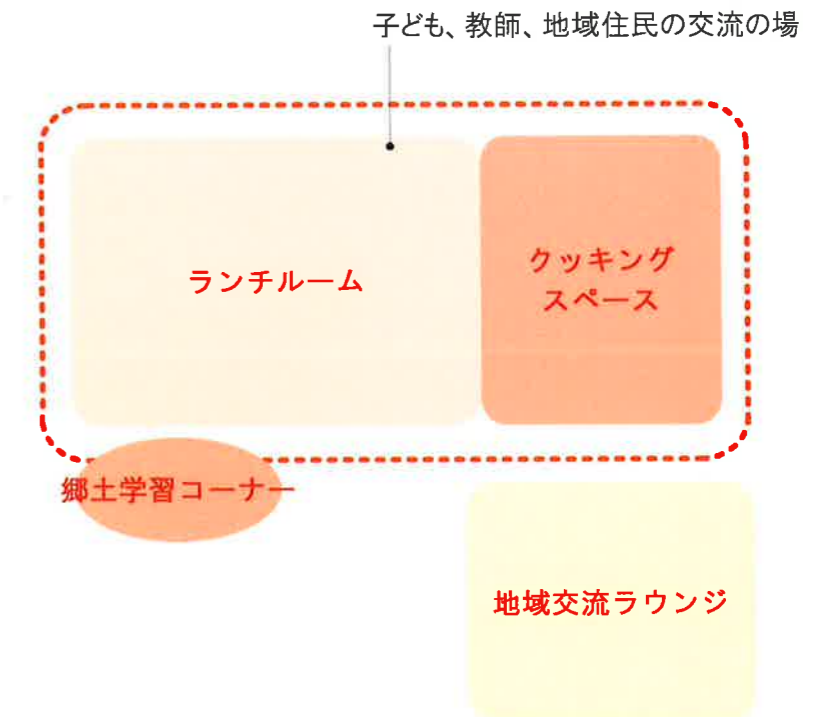
##### b. 創作ゾーン

図工の授業や習字、裁縫などの創作活動が行える環境をつくります。  
 また、ギャラリースペースを隣接させて、子どもたちの作品を展示できるスペースを設けます。



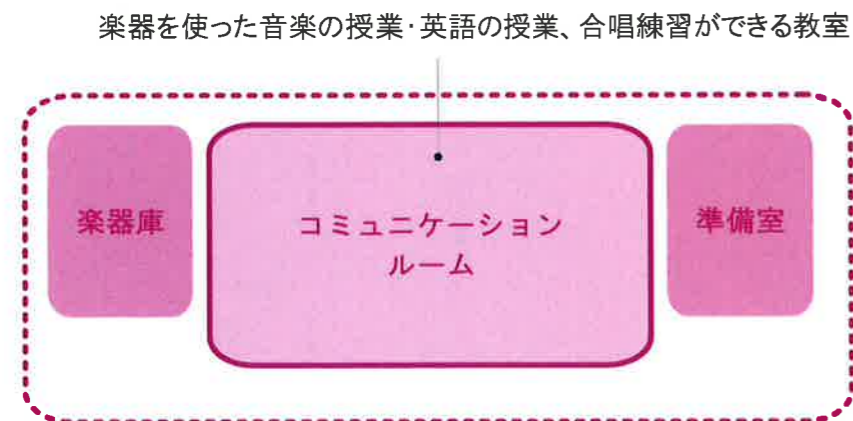
##### c. 交流ゾーン

ランチルームを中心に、調理実習ができるクッキングスペース、地域の歴史を展示する郷土学習コーナーなどを設けます。また、地域交流ラウンジと連携して、多様な交流活動の場となることも考えます。



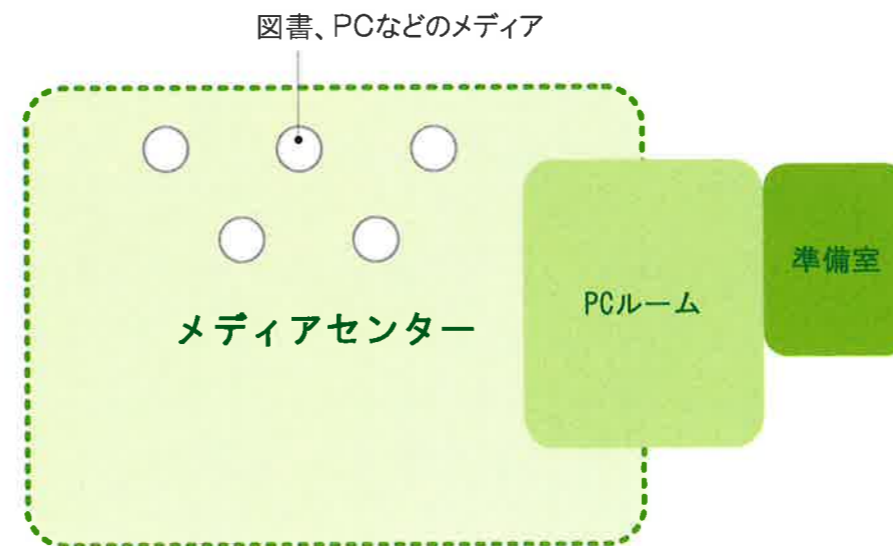
##### d. コミュニケーションゾーン

楽器を使った音楽の授業ができる教室や英語の活動や合唱の練習など音の出る授業ができる教室を設けます。  
 また、練習の成果を発表できる大階段を近くに設け、発表・表現活動の場をつくることを考えます。



##### e. メディアセンター

メディアセンターは子どもたちが日常的に図書やPCなどのメディアに触れられる空間を設えます。  
 また、PCルームと融合させて、調べ学習に適した環境を整備します。



#### (4) 施設全体の構成

##### 1) メディアセンターを中心に構成する

###### a. ゾーン配置の考え方

- ・メディアセンターは本やパソコンを子どもたちが日常的に利用できる学習空間の中心として校舎中央に配置します。
- ・PC室や理科室、特別活動室などを周囲に隣接させます。これらと連携して授業を行うことで学習の幅を広げるだけでなく、コミュニケーションの活性化にもつながります。

###### b. 空間のつながりをつくる

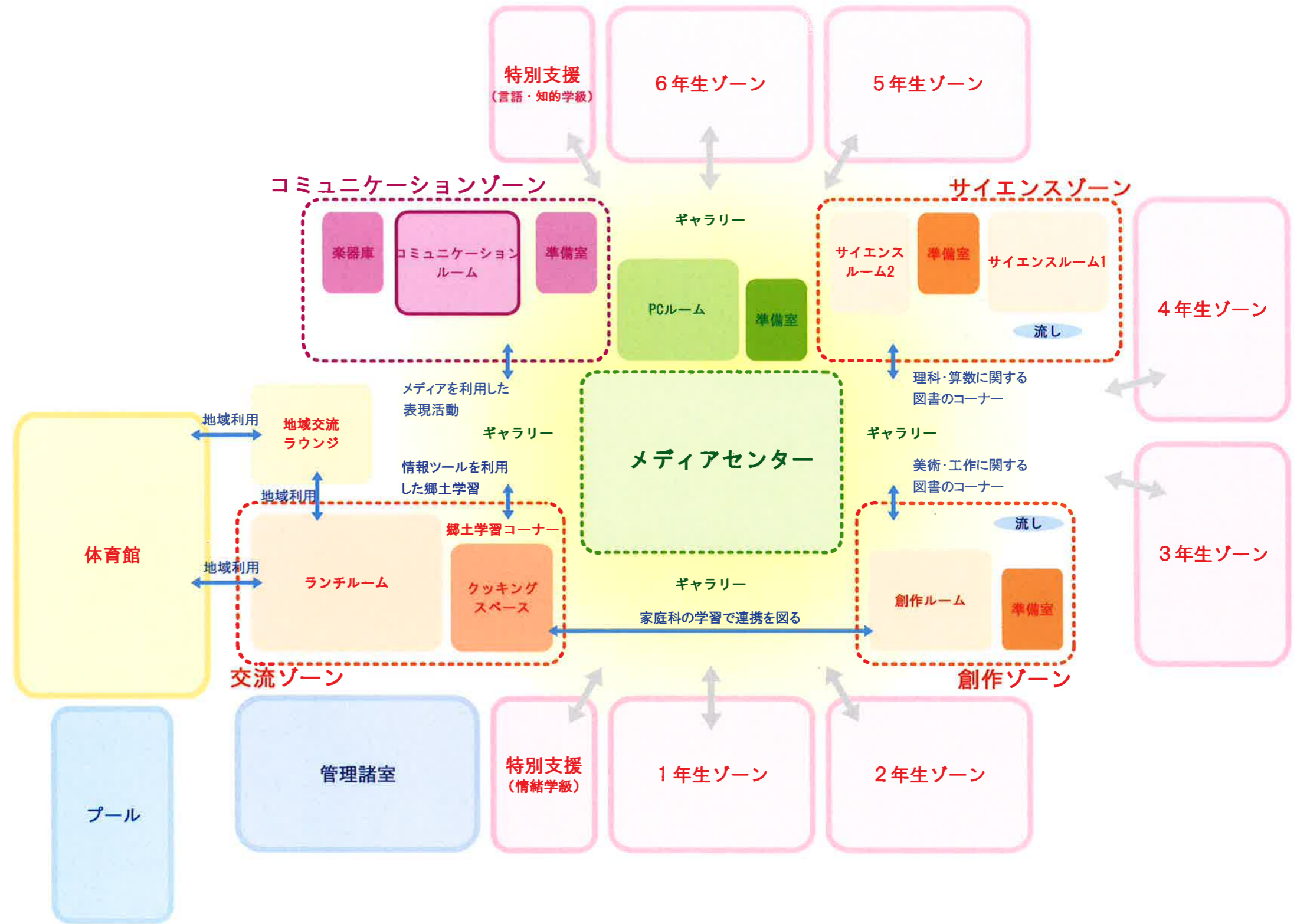
- ・オープンなメディアセンターを中心に据えることで各学年ゾーンや特別教室がつながりを持った状態をつくります。
- ・廊下をなくし、メディアセンターを通り抜けることで、子どもたちが日常的にパソコンや本に触れられる環境をつくります。

###### c. コミュニケーションの拠点になる

- ・メディアセンターは学校全体のリビングのような場所で、子どもたちの居場所となるスペースです。
- ・メディアセンターを中心に授業・学校生活を送ることで、クラス・学年の枠を超えた子どもたちの交流、学び合いの機会をつくります。
- ・視覚的・機能的に空間をつなげることで、自然に校内のコミュニケーションが広がる計画とします。

###### d. ネットワークの整備

- ・メディアセンターを起点として学年ゾーンや特別教室等にもメディア機器を充実させて、学校全体がネットワークでつながる環境を整備します。



## 第Ⅲ章. 建築計画

---

1. 規模設定
2. 造成計画
3. 施設配置計画
4. 平面計画
5. 内部空間の計画
6. 構造計画



---

## 1. 規模設定

(1) 所要室の設定

(2) 所要室の規模設定

(3) 特別教室の教室数の検討

(4) 階数の設定

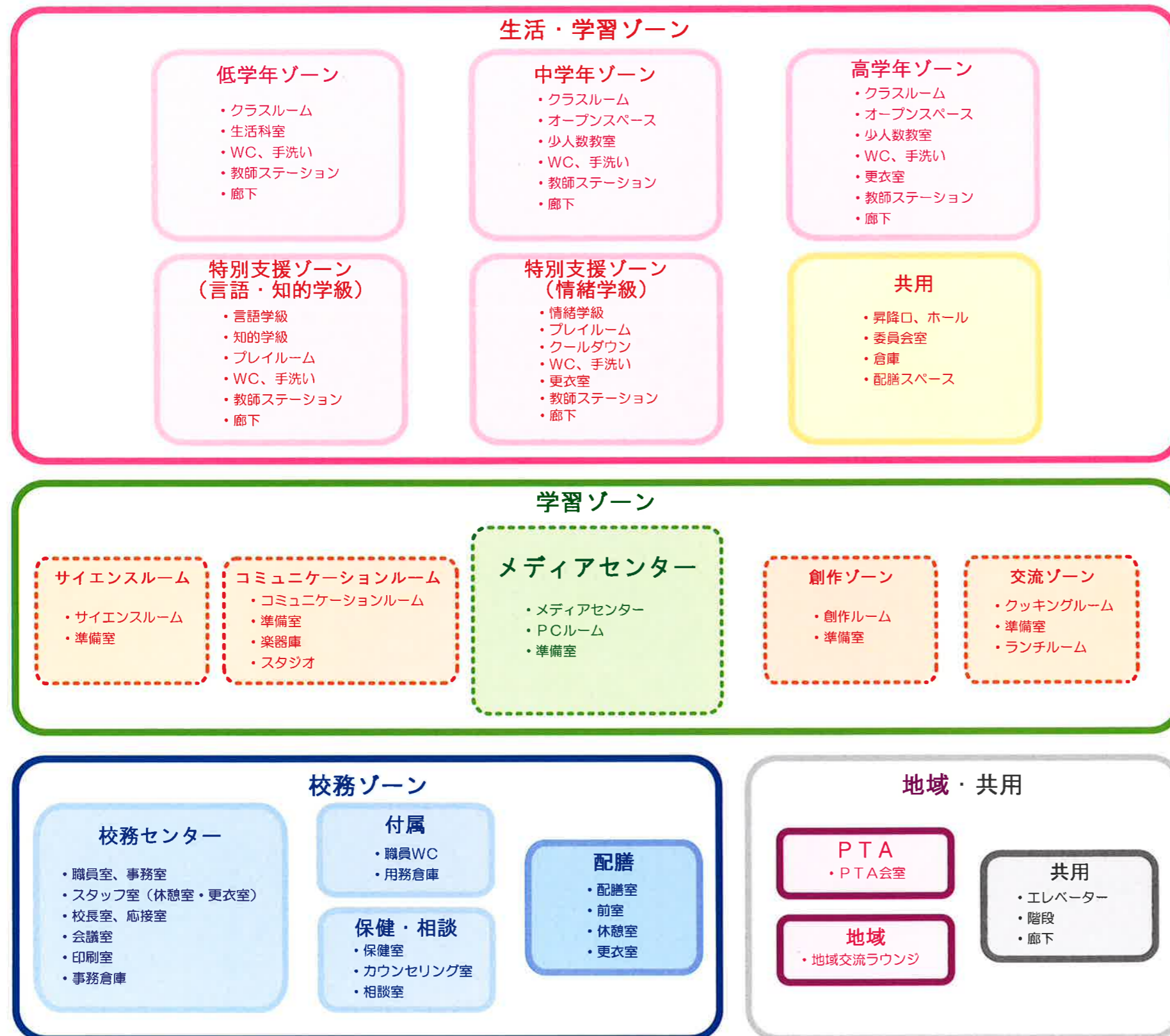
(5) 各施設の規模設定

# 1. 規模設定

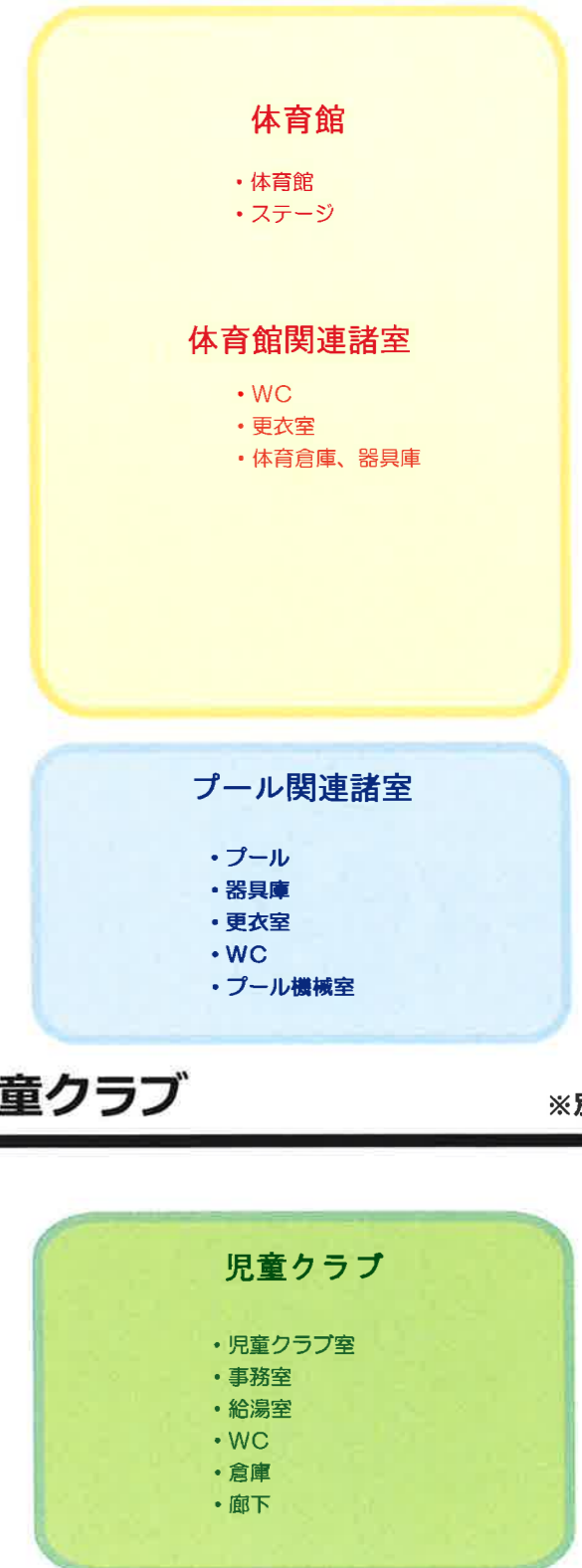
## (1) 所要室の設定

・本計画に必要な諸室を以下のように設定します。

### 小学校校舎



### 体育施設



(2) 所要室の規模設定-1

・ 前項で設定した所要室各々と規模は下表の通りです。

区分	対象	ゾーン	階	室名	室数	面積(m <sup>2</sup> )					備考
						1室あたり	小々計	小計	フロア計	ゾーン計	
小学校校舎	児童	生活・学習ゾーン	低学年ゾーン	クラスルーム	6	73	438	884	884	3,865	
				生活科室	2	73	146				
				WC・手洗い	4	50	200				
				教師ステーション	2	25	50				
			廊下		50	50					
			中学年ゾーン	クラスルーム	6	65	390	1,066	1,066		
				オープンスペース	6	41	246				
				少人数教室	2	65	130				
				WC・手洗い	4	50	200				
			教師ステーション	2	25	50					
			廊下		50	50					
			高学年ゾーン	クラスルーム	6	65	390	1,108	1,108		
		オープンスペース		6	41	246					
		少人数教室		2	65	130					
		WC・手洗い		4	50	200					
		更衣室	1	42	42						
		教師ステーション	2	25	50						
		廊下		50	50						
		特別支援教室	言語・知的学級	言語学級	1	30	30	245	485		
				知的学級	3	30	90				
プレイルーム	1			30	30						
WC・手洗い	1			50	50						
教師ステーション	1			20	20						
廊下				25	25						
情緒学級	情緒学級		3	30	90	240					
	プレイルーム		1	30	30						
	クールダウン		1	15	15						
	WC・手洗い		1	50	50						
	更衣室		1	15	15						
	教師ステーション		1	15	15						
廊下		25	25								
共用	共用	昇降口・ホール	1	250	250	322	322				
		委員会室	1	32	32						
		倉庫	3	15	45						
		配膳スペース	2	25	50						
学習センター	メディアセンター	メディアセンター	1	200	200	307	307				
		PCルーム	1	81	81						
	準備室	1	26	26	107	959					
	サイエンスルーム	サイエンスルーム	1	81	81		107	サイエンスルームは理科の実験で利用			
		準備室	1	26	26		107				
	コミュニケーションゾーン	コミュニケーションルーム	1	81	81		172	386	コミュニケーションルームは音楽と英語など音の出る教科で利用 スタジオは児童による放送活動で利用		
		準備室	1	26	26						
		楽器庫	1	50	50						
		スタジオ	1	15	15						
	創作ゾーン	創作ルーム	1	81	81		107	107	図工、習字、家庭科の裁縫などで利用		
		準備室	1	26	26						
	交流ゾーン	クッキングスペース	1	75	75		101	266	266		
準備室		1	26	26							
ランチルーム		1		165							

(2) 所要室の規模設定-2

小学校校舎	先生・管理	校務ゾーン	校務センター	職員室・事務室	1	100	100	377	467	719	フリーアドレス方式
				スタッフ室	1	30	30				
				休憩室	2	20	40				
				校長室・応接室	1	45	45				
				会議室	1	100	100				
				印刷室	1	32	32				
				事務倉庫	1	30	30				
				職員トイレ	2	30	60				
				用務倉庫	1	30	30				
				90							
保健・相談	保健室	1	108	108	168	168					
	カウンセリング室	2	15	30							
	相談室	2	15	30							
	60										
配膳室	配膳室	1		50	84	84					
	前室	1	10	10							
	休憩室	1	10	10							
	更衣室	2	7.2	14							
地域共用	地域	地域交流ラウンジ	1	50	50	50	50	82			
		PTA会室	1	32	32						
		32									
エレベータ	1	10	10	1,010	1,010	1,010	延べ床面積の25%				
廊下・階段	1		1,000								
6,635											
体育施設	学校開放対象	体育ゾーン	体育館	体育館	1	1000	1,000	1,305	2,055	2,055	
				体育館	1	100	100				
				調整室	1	15	15				
				ミーティング室	1	50	50				
				体育館関連諸室	2	10	20				
				更衣室	2	30	60				
				トイレ	2	30	60				
				体育倉庫・器具庫	2	30	60				
				プール	1	600	600				750
				器具庫	2	30	60				
更衣室	2	15	30								
プール関連諸室	2	15	30								
トイレ	2	15	30								
プール機械室	1	30	30								

### (3) 特別教室の教室数の検討

#### 1) 学校全体での各教科の週間平均授業時間数

##### a. 前提条件

1 学年 3 クラスとします。

##### b. 授業が重複する可能性の検討

- ・ 特別教室の必要室数を算出するために、学校全体で行われている授業がどの程度重複する可能性があるかを検討します。
- ・ 1 週間に学校全体で行われる各教科の延べ授業時間数を、週間授業時間数（コマ数）27時間で除した値を**重複率**とよぶこととします。この重複率が1を上回る場合、授業が重複する場合は生じ、2を上回ると常に重複していることとなります。
- ・ 1、2年生は総合教室型で授業を行うものとし、重複率の算定に加えないものとします。

##### c. 重複率

区分	クラス数 /学年	各教科の延べ授業時間数									道徳	特別活動	英語	総合的な学習	総授業時間数
		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育					
第1学年	3	27.0	-	12.0	-	9.0	6.0	6.0	-	9.0	3.0	3.0	-	-	75.0
第2学年	3	27.0	-	15.0	-	9.0	6.0	6.0	-	9.0	3.0	3.0	-	-	78.0
計	6	54.0	0.0	27.0	0.0	18.0	12.0	12.0	0.0	18.0	6.0	6.0	0.0	0.0	153.0
第3学年	3	21.0	6.0	15.0	7.8	-	5.1	5.1	-	9.0	3.0	3.0	-	6.0	81.0
第4学年	3	21.0	7.8	15.0	9.0	-	5.1	5.1	-	9.0	3.0	3.0	-	6.0	84.0
第5学年	3	15.0	8.7	15.0	9.0	-	4.2	4.2	5.1	7.8	3.0	3.0	3.0	6.0	84.0
第6学年	3	15.0	9.0	15.0	9.0	-	4.2	4.2	4.8	7.8	3.0	3.0	3.0	6.0	84.0
計	12	72.0	31.5	60.0	34.8	0.0	18.6	18.6	9.9	33.6	12.0	12.0	6.0	24.0	333.0
重複率		2.7	1.2	2.2	1.3	0.0	0.7	0.7	0.4	1.2	0.4	0.4	0.2	0.9	

※授業時間数→文部省の年間回数+年間の運営数  
 ※27年度現在の授業時間数を基にした集計です。

上表から以下のことがわかります。

- ① 理科室が1室の場合、約25%程度理科室を使用できない授業が発生します。
- ② 家庭科の授業を常に家庭科室で行うとしても、40%しか使用されません。
- ③ 体育は低学年と中高学年を合わせると、常に2つのクラスが授業を行っている状態になります。
- ④ 音楽と英語の重複率を合わせても0.9となります。

##### d. 特別教室の教室の設定

- ① 理科室はサイエンスルーム1・2の2室とします。
- ② 家庭科室は40%ほどしか利用されないの、調理実習に特化したクッキングスペースとし、被服等の授業は学年ゾーンのオープンスペース等で対応します。
- ③ 体育館は2分割して使用できるものとします。
- ④ 音楽と英語の重複率を合わせても0.9なので、音楽室と英語教室は1つの教室を兼用するものとします。

(4) 階数の検討

1) 階数規模の比較

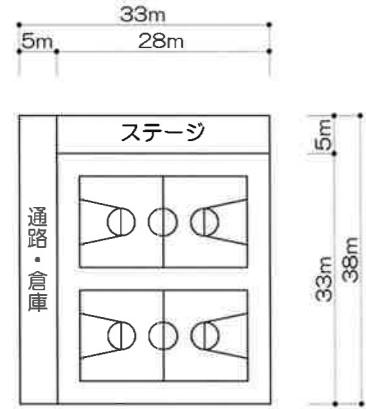
比較項目		平屋建て	2階建て	3階建て	
教育方針との整合性	小中連携を推進する	社会性の育成	○ 1フロアに全学年があるので異学年交流が誘発されやすい。(平面的に広すぎると逆効果になる可能性もある)	○ 1フロアに多くの学年があるので異学年交流が誘発されやすい。	△ フロアが3つに分かれる為、日常的に関わりづらい学年が生まれる。
		異学年交流の促進	○ 上記と同様の理由	○ 上記と同様の理由	△ 上記と同様の理由
		中一ギャップの解消	—	—	—
		専科制の重視	○ 普通教室と特別教室を1フロアに配置でき、日常的に教科の環境に触れられる。	○ 普通教室から特別教室への距離が比較的近くでき、日常的に教科の環境に触れられる。	△ 普通教室から特別教室への距離が比較的遠くなる可能性がある。
	学習・安心・生活・安全にできる	日常安全性の確保	◎ 全ての子どもたちが地面に近く、安全である。	○ 子どもたちの居場所が比較的地面の近くにあるので、安全である。	△ 子どもたちの居場所が高くなるので、危険性が高まる。
		防犯安全性の確保	—	—	—
		防災安全性の確保	◎ 地震の揺れが抑えられ、耐震安全性が比較的高くなる。全て避難階(1階)になる。	○ 地震の揺れが抑えられ、耐震安全性が比較的高くなる。避難階(1階)への避難がしやすい。	△ 避難階への距離が遠くなる。
	子どもたちが群れ	学校としての秩序の形成	—	—	—
		子どもたちの生活空間の充実	○	○	○
		地域の子どものための交流の場	○	○	○
	地域の交流の場	地域への施設提供	○ 地域開放施設を含め、学校施設が全て1階にあるので、学校運営上または管理上、問題ない。	○ 地域開放施設はほとんど1階に配置でき、学校運営上または管理上、あまり問題ない。	△ 地域開放施設の位置によっては、学校運営や管理の上で、難しくなる場合がある。
		地域住民との連携	○ 学校が地域と近い位置にあり、連携が図りやすい。	○ 学校が地域と比較的近い位置にあり、連携が図りやすい。	△ 学校が地域と遠くなり、連携が図りにくい場所ができる。
防災拠点(避難施設)		◎ 学校運営に支障をきたさない部屋は、全て避難施設として利用できる。	○ 学校運営に支障をきたさない部屋は、ほとんど避難施設として利用できる。	△ 学校運営に支障をきたさない部屋でも、避難施設として利用できない部屋ができる可能性がある。	
国際社会に貢献する人育て	英語教育の重視	—	—	—	
	メディア・リテラシー教育の充実	◎ 普通教室とメディアセンターを1フロアに配置でき、日常的に情報環境に触れられる。	○ 普通教室とメディアセンターを近くに配置でき、日常的に情報環境に触れられる。	△ メディアセンターの近くに配置できない普通教室ができてしまう可能性がある。	
	教科を超えた学習を誘発する環境形成	◎ 1フロアに普通教室、特別教室を関連づけて配置することができる。	○ 1フロアに普通教室、特別教室を関連づけて配置することができる。	△ 普通教室、特別教室のフロアが分散される。	
	子どもの成長に合わせた学習環境	—	—	—	
	地域の理解を深める環境	—	—	—	
物理的な問題(土地利用)	△ 建築面積が約7500㎡になり、十分なグラウンド面積を確保できない。	○ 建築面積が4000㎡強になり、十分なグラウンド面積を確保できる。	◎ 建築面積が約3000㎡強となり、十分なグラウンド面積を確保できる。		
建設コスト	△ 建築面積が巨大になり、基礎の面積が多くなるため、建設コストが多くなる。	○ 建築面積が大きくなり、基礎の面積が多くなるため、建設コストが比較的少なくなる。	◎ 建築面積が小さく抑えられ、基礎の面積が少なくなるので、建設コストが比較的少なくなる。		
総合評価	△ 教育方針との整合性は十分図れるが、建築面積が巨大になり、土地利用の面でも経済的な面でも不利なことが多い。	◎ 教育方針との整合性が図れ、建築面積も大きすぎず、土地利用・経済上も妥当な範囲である。	△ 土地利用の面でも経済的な面でも有利であるが、教育方針の整合性が図りにくい。		

2) 考察

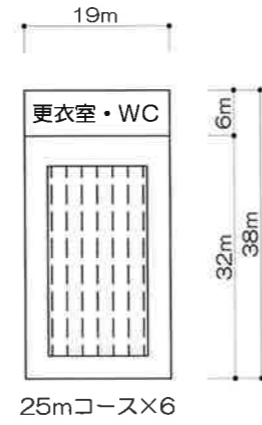
- ・ 教育方針との整合性では平屋建てが有利ですが、グラウンドが十分に確保できず、経済面でも建設コストがかさむという大きな課題があります。一方、2階建ては3階建てに比べて教育方針との整合性が十分図れ、土地利用・経済面でも妥当な範囲であると考えられるため、本計画は2階建てを基本とします。

(5) 各施設の規模設定

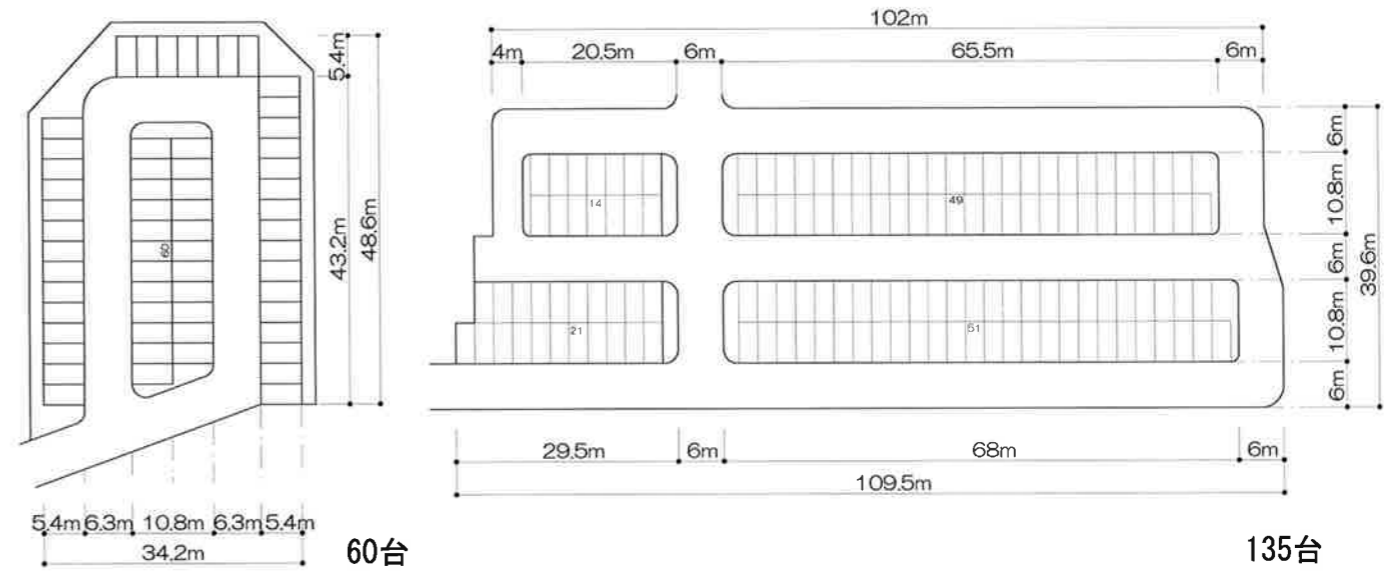
1) 体育館 (バスケットボールコート2面)



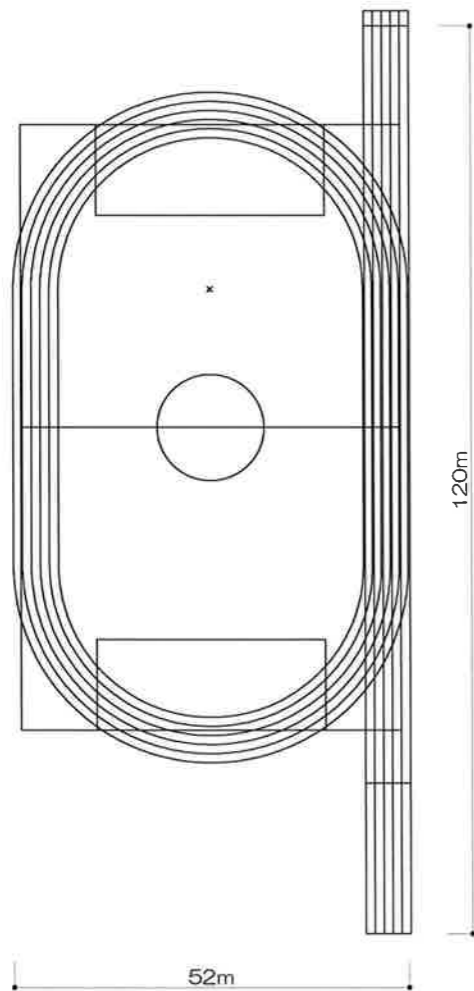
2) プール (25m 6コース)



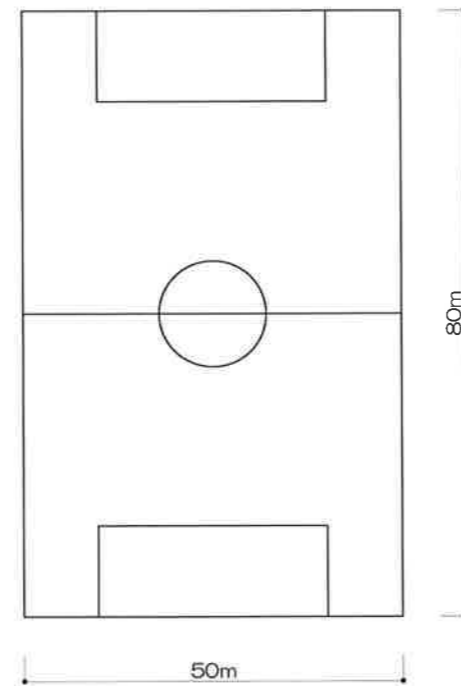
3) 駐車場 (60 + 135台)



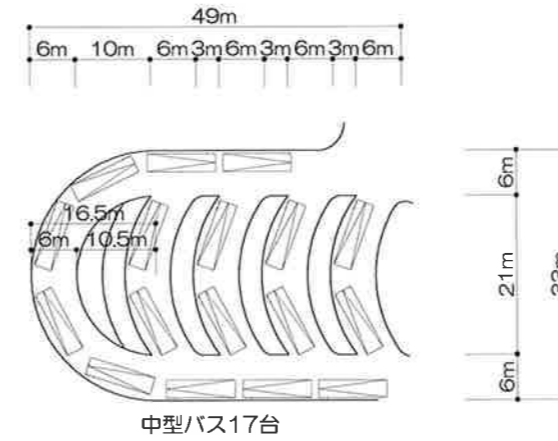
4) 200mトラック (120m直走路)



5) サッカーコート (小学生用)



6) バスロータリー (中型バス 17台)



---

## 2. 造成計画

- (1) 造成計画の考え方
- (2) 洪水調整計画の考え方
- (3) 緑地計画の考え方
- (4) 土量計算平面図
- (5) 造成横断図



## 2. 造成計画

### (1) 造成計画の考え方

#### 1) 計画条件

- 敷地中央部のなだらかな丘陵地を切土して校舎や運動場を整備した周辺を盛土し、計画区域内での土量バランスを可能な限り図るものとします。それを前提として雨水・汚水の排水、通路勾配の確保を考慮して、造成計画高を決定します。

#### 2) 計画高の設定

##### a. アクセス道路による設定

- 計画区域の西側を走る県道大竹・鉾田線を接道位置として進入道路高を設定し、丘陵部の運動場の整地高まで、道路勾配を*i*=7.0%程度に設定したなかで、駐車場、運動場、回転広場へと各ゾーンへアクセスする道路計画高より整地計画高を設定します。

##### b. 調整池計画による設定

- 調整池の位置は、県道大竹・鉾田線の横断函渠を流末排水路のルートとして決定しました。そのため横断函渠の周辺地盤高を池底高と設定し、V字の地形を利用しながら築堤を行ない、池周辺を切土や大型ブロック積を設置しての施設構造となります。池底からの高低差を条件に周囲の進入道路や回転広場の法勾配より配置計画および計画高の設定を行ないます。また、調整池造成時に発生する残土は搬出することを前提とします。

#### 3) 法面処理

- 法面処理の構造は、以下に示す数値を採用します。なお、数値は、法面土質が土砂等の一般的な場合のものであり、今後の計画区域での詳細な地質調査結果によっては、これらの緒元を見直すことも考えられます。

項目		茨城県開発技術基準	採用値
盛土法面	法面勾配	・35度(約 1:1.5)以下	・1:1.8
	小 段	・法高 5m ごとに幅 1.0~2.0m 程度の小段を設置。	・法高 5m ごとに幅 1.5m の小段を設置。
	そ の 他	・高さが 15m 以上の盛土、又は 15m 未満でも地下水等のため崩壊の危険性がある場合は盛土内の地下水を排除するためサンドマット等を施す。	・高さが 15m 以上の場合ジオテキスタイル系排水層を設置する。
切土法面	法面勾配	・35%以下	・1:1.5
	小 段	・法高 5m ごとに幅 1.0~1.5m の小段を設置。	・法高 5m ごとに幅 1.5m の小段を設置。
	そ の 他	----	----

#### 4) 計画土量

- 20mメッシュの交点法の集計により、土量変化率を下表により0.9と設定し計算しました。

土量の変化率

名称		L	C
岩または石	硬岩	1.65~2.00	1.30~1.50
	中硬岩	1.50~1.70	1.20~1.40
	軟岩	1.30~1.70	1.00~1.30
	岩塊・玉石	1.10~1.20	0.95~1.05
礫まじり土	礫	1.10~1.20	0.85~1.05
	礫質土	1.10~1.30	0.85~1.00
	固結した礫質土	1.25~1.40	1.10~1.30
砂	砂	1.10~1.20	0.85~0.95
	岩塊・玉石まじり砂	1.15~1.20	0.90~1.00
普通土	砂質土	1.20~1.30	0.85~0.95
	岩塊・玉石まじり砂質土	1.40~1.45	0.90~1.00
粘性土等	粘性土	1.20~1.45	0.85~0.95
	礫まじり粘性土	1.30~1.40	0.90~1.00
	岩塊・玉石まじり粘性土	1.40~1.45	0.90~1.00

(L:ほぐした場合の変化率、C:締め固めた場合の変化率)

- 土量計算結果は以下の通りです。

切土量CV = 21,000m<sup>3</sup> (地山)

盛土量BV = 20,400m<sup>3</sup> (伐開などの踏み込み沈下量として30cmを考慮)

換算土量 (BV/0.9) = 22,700m<sup>3</sup>

建築残土量 = 1,000m<sup>3</sup>

残土量 = -700m<sup>3</sup>

- 調整池残土量 = 2,200m<sup>3</sup>

- 上記の通り、造成工事により700m<sup>3</sup>の土が不足、調整池造成工事により2,200m<sup>3</sup>の残土が発生します。

## (2) 洪水調整計画の考え方

### 1) 流末排水水路の設置

- ・ 本計画区域は、利根川水系長茂川の終点部であり、鉾田土地改良区の排水路が流末になります。そのため、直前の放流管を既存扱いとして、調整池までの区間を流末排水路（改修）としてルートを設定します。
- ・ また、計画基準は、「茨城県宅地開発基準」および「茨城県林地開発許可制度実施規則」に準拠し、地区内で雨水を抑制し、流末排水路まで排水路の新設を行ないます。林地開発行為の適用により、抑制量に影響する規格基準は降雨強度式が5年確率から、30年確率へと大きくなります。

### 2) 調整池計画の緒元

① 流域面積  $A=4.9\text{ha}$

② 対象降雨強度  $I = \frac{1402}{T^{0.7} + 3.48}$  水戸式降雨強度公式 30年確率

※水戸降雨強度式による数値表 (トーマス法、T14年～S59年、N=60)

確率	時間(分)	10	20	30	40	60	120	180	240	360	720	1440	日雨量
1/1.5	$r = \frac{797}{T^{0.7} + 5.68}$	70.51	52.65	43.08	36.92	29.26	19.00	14.54	11.96	9.02	5.51	3.33	84.0
1/2	$r = \frac{973}{T^{0.7} + 6.36}$	81.20	61.51	50.73	43.70	34.85	22.83	17.53	14.45	10.93	6.69	4.05	102.0
1/3	$r = \frac{1182}{T^{0.7} + 6.89}$	94.46	72.31	59.97	51.85	41.55	27.40	21.10	17.42	13.20	8.10	4.91	124.0
1/5	$r = \frac{1411}{T^{0.7} + 7.63}$	106.46	82.58	69.00	59.95	48.34	32.15	24.85	20.57	15.63	9.62	5.85	146.0
1/6	$r = \frac{1494}{T^{0.7} + 7.82}$	111.13	86.47	72.39	62.97	50.85	33.90	26.23	21.72	16.51	10.18	6.18	157.0
1/8	$r = \frac{1640}{T^{0.7} + 8.09}$	119.59	93.46	78.44	68.35	55.32	36.98	28.66	23.75	18.07	11.15	6.78	176.0
1/10	$r = \frac{1765}{T^{0.7} + 8.22}$	127.50	99.84	83.89	73.16	59.27	39.68	30.77	25.51	19.42	11.99	7.29	193.0
1/15	$r = \frac{1129}{T^{0.7} + 2.82}$	151.24	110.74	90.42	77.70	62.15	41.53	32.48	27.20	21.09	13.55	8.64	224.0
1/20	$r = \frac{1261}{T^{0.7} + 3.24}$	159.92	118.79	97.71	84.35	67.84	45.68	35.85	30.07	23.38	15.06	9.62	245.0
1/30	$r = \frac{1402}{T^{0.7} + 3.48}$	172.55	129.15	106.85	92.29	74.47	50.35	39.58	33.25	25.87	16.69	10.68	280.0
1/50	$r = \frac{1607}{T^{0.7} + 3.87}$	188.72	142.90	118.72	103.14	83.62	56.91	44.88	37.76	29.45	19.05	12.20	316.0
1/70	$r = \frac{1657}{T^{0.7} + 3.43}$	205.20	153.35	126.53	109.44	88.25	59.61	46.85	39.34	30.61	19.74	12.62	354.0
1/80	$r = \frac{1720}{T^{0.7} + 3.51}$	210.91	158.01	130.54	113.01	91.21	61.70	48.53	40.76	31.73	20.47	13.10	365.0
1/100	$r = \frac{1916}{T^{0.7} + 4.42}$	211.36	162.44	136.02	118.78	96.93	66.56	52.70	44.44	34.76	22.56	14.40	378.0
1/200	$r = \frac{2240}{T^{0.7} + 5.09}$	230.09	179.70	151.80	133.33	109.60	76.04	60.50	51.16	40.15	26.17	16.85	435.0

③ 下流河川の流下能力  $Q = 0.336\text{m}^3/\text{s}$  HP  $\phi 600$   $i = 3.0\%$   $V = 1.189\text{m}/\text{s}$  として設定

④ 比流量  $Qa = 0.336\text{m}^3/\text{s} \div 3.6\text{ha} = 0.093\text{m}^3/\text{s}/\text{ha}$

⑤ 開発後の流出係数  $C = 0.85$  暫定値以下の表より暫定値を設定

ウ 流出係数は、次の表に示す値を標準とし、排水区域全体を加重平均して求めること。

流出係数

工種別		地域別	
不浸透性道路	0.70 ~ 0.95	市中の建て込んだ地区	0.70 ~ 0.90
アスファルト道路	0.85 ~ 0.90	建て込んだ住宅地区	0.50 ~ 0.70
マカダム道路	0.25 ~ 0.60	建て込んでいない住宅地区	0.25 ~ 0.50
砂利道	0.15 ~ 0.30	公園、広場	0.10 ~ 0.30
空地	0.10 ~ 0.30	芝生、庭園、牧場	0.05 ~ 0.25
公園、芝生、牧場	0.05 ~ 0.25	森林地方	0.01 ~ 0.20

この表の使用については、中間値以上を用いること。

用途別総合流出係数標準値

敷地内に間地が非常に少ない商業地域や類似の住宅地域	0.80
浸透面の野外作業場などの間地を若干持つ工場地域や庭が若干ある住宅地域	0.65
住宅公団団地などの中層住宅団地や1戸建て住宅の多い地域	0.50
庭園を多くもつ高級住宅地域や畑地などが割り合い残る郊外地域	0.35

⑥ 許容放流量  $Qc = 0.093\text{m}^3/\text{s}/\text{ha} \times 3.1\text{ha} = 0.294\text{m}^3/\text{s}$

⑦ 洪水調整容量  $V1 = 3,430\text{m}^3$

⑧ 堆砂量  $V2 = 1.5\text{m}^3/\text{ha}/\text{年} \times 10\text{年} \times 4.8\text{ha} = 49.5 \approx 50\text{m}^3$

⑨ 調整池容量  $V = (V1 + V2) = 3,430 + 50 = 3,480\text{m}^3$

### (3) 緑地計画の考え方

#### 1) 森林法

- ・ 本計画区域の山林は、「地域指定対象民有林」の指定を受けているため、林地開発許可制度は森林法によって定められています。よって、「茨城県林地開発許可制度実施規則」に準拠し、対象民有林の概ね25%の面積を森林として残すこととします。

※民有林とは、国が所有する「国有林」以外で、個人、法人、都道府県、市町村が所有する森林を指します。

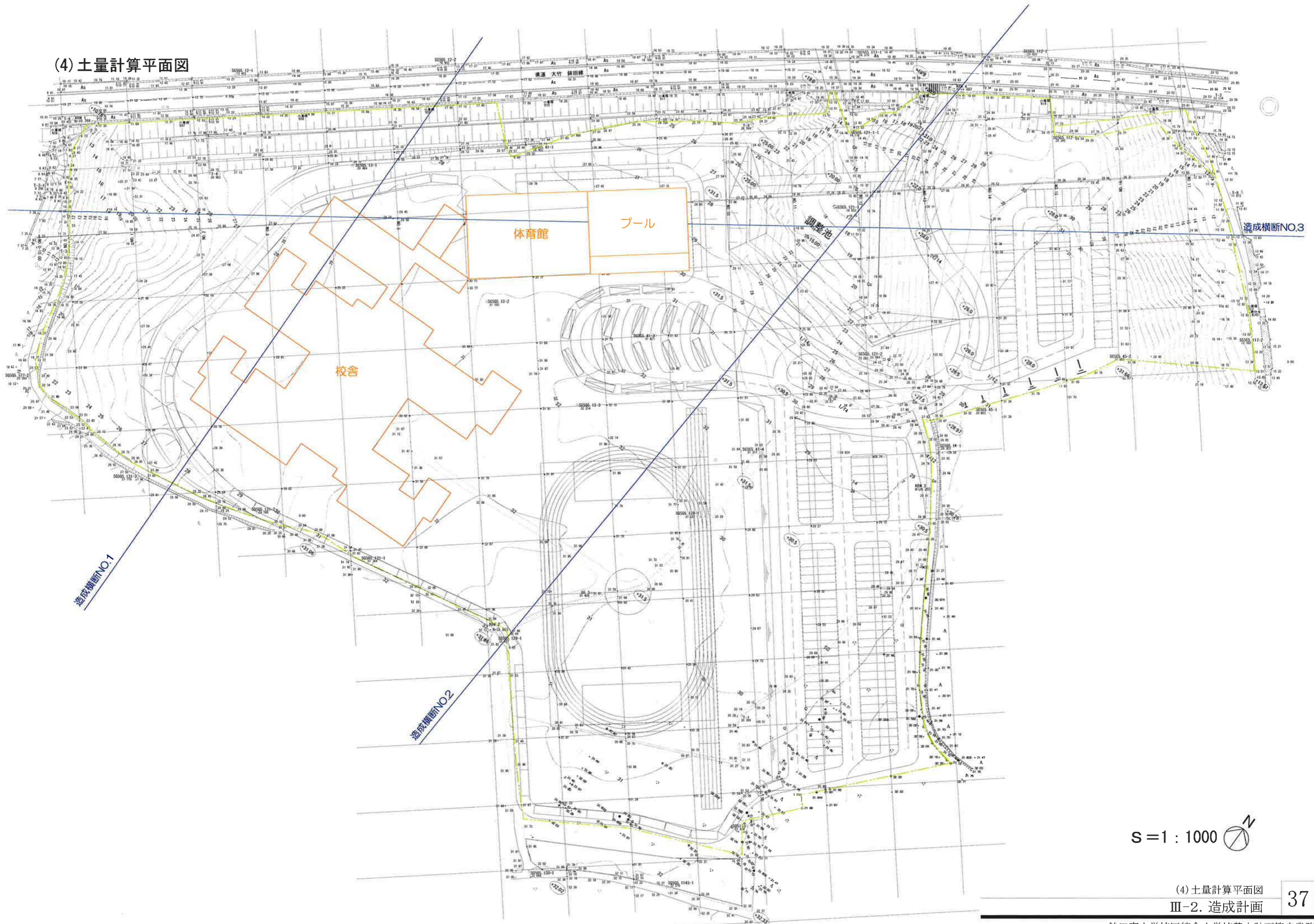
#### 2) 茨城県開発行為の技術基準

- ・ 『茨城県開発行為の技術基準』内の「10. 公園・緑地・広場」によると、開発区域面積が10ha以上20ha未満の場合、開発面積に対する公園・緑地・広場の割合は4%以上、開発面積に対する公園面積の割合は3%以上、公園規模及び箇所数は2500m<sup>2</sup>以上が1箇所以上を整備することが義務付けられています。

#### 3) 緩衝緑地帯

- ・ 周辺環境との調和や騒音・振動等による環境悪化をもたらさぬよう、地区の境界内側に極力緩衝緑地帯を計画します。

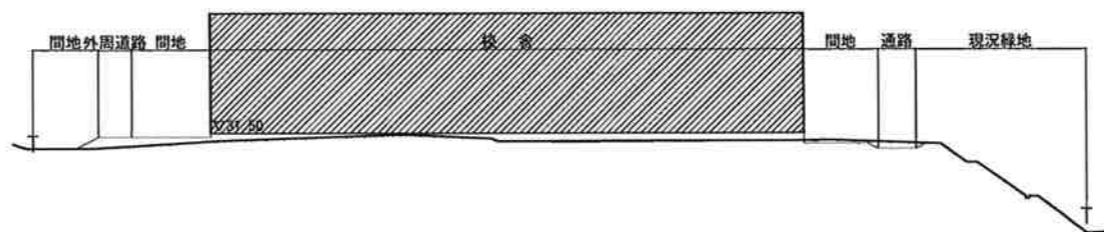
(4) 土量計算平面図



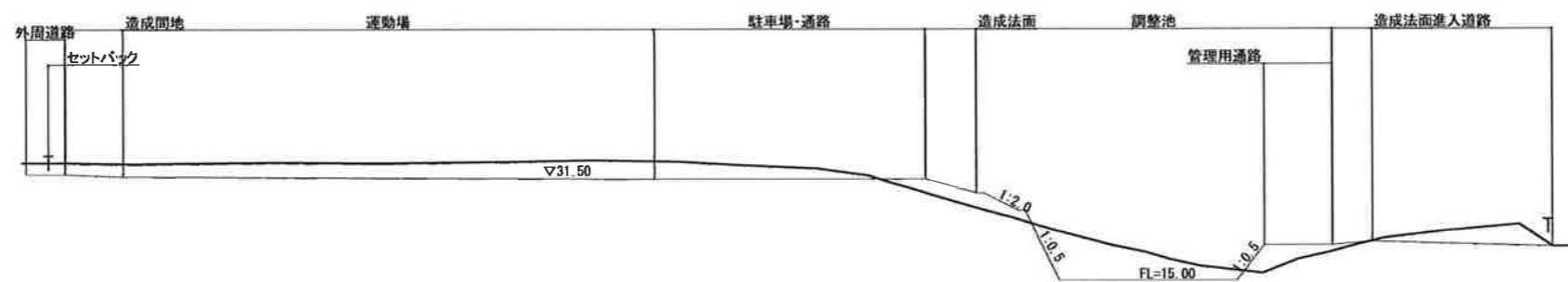
S=1:1000

(4) 土量計算平面図  
III-2. 造成計画

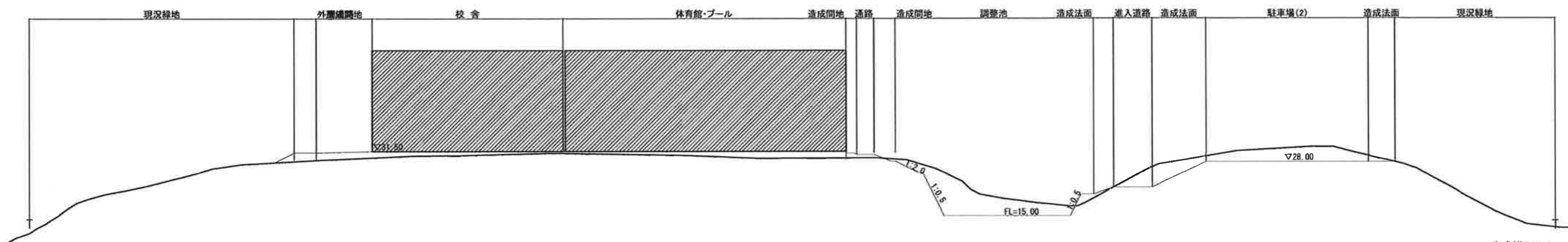
(5) 造成横断図



造成横断N 0.1



造成横断N 0.2



造成横断N 0.3

S=1 : 200

(5) 造成横断図  
III-2. 造成計画

---

### **3. 施設配置計画**

- (1) 土地利用計画の基本的な考え方
- (2) 施設配置の検討
- (3) 施設配置の比較

### 3. 施設配置計画

#### (1) 土地利用計画の基本的な考え方

##### 1) 土地利用検討の前提条件

###### a. 造成レベルの設定

- 計画敷地内は10m以上の高低差があり造成工事が必要となります。調整池以東を除いた範囲で、造成レベルを盛土、切土の量がほぼ同量になるように設定した場合、標高31.5mで約3.1haの平地を確保することができます。また、東側駐車場は、標高28.0mで約0.4haの平地を確保することができます。

##### 2) 施設配置計画の前提条件

###### a. 敷地の有効利用

- 敷地内の平地約3.1haは「施設ゾーン」、「運動場ゾーン」、「駐車場ゾーン」の3つのゾーンで構成します。広い敷地を有効利用できるゾーニングを行います。

###### b. 外周道路の整備

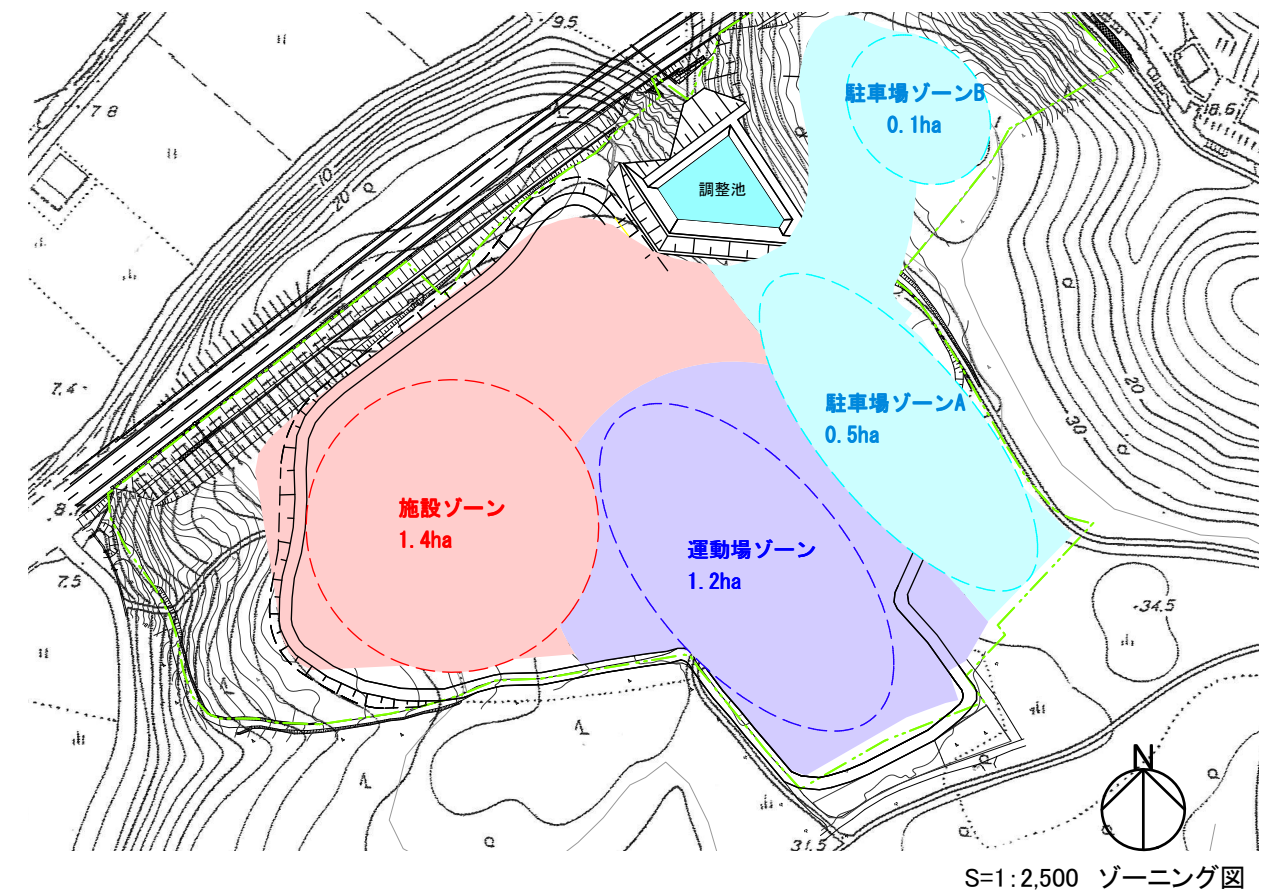
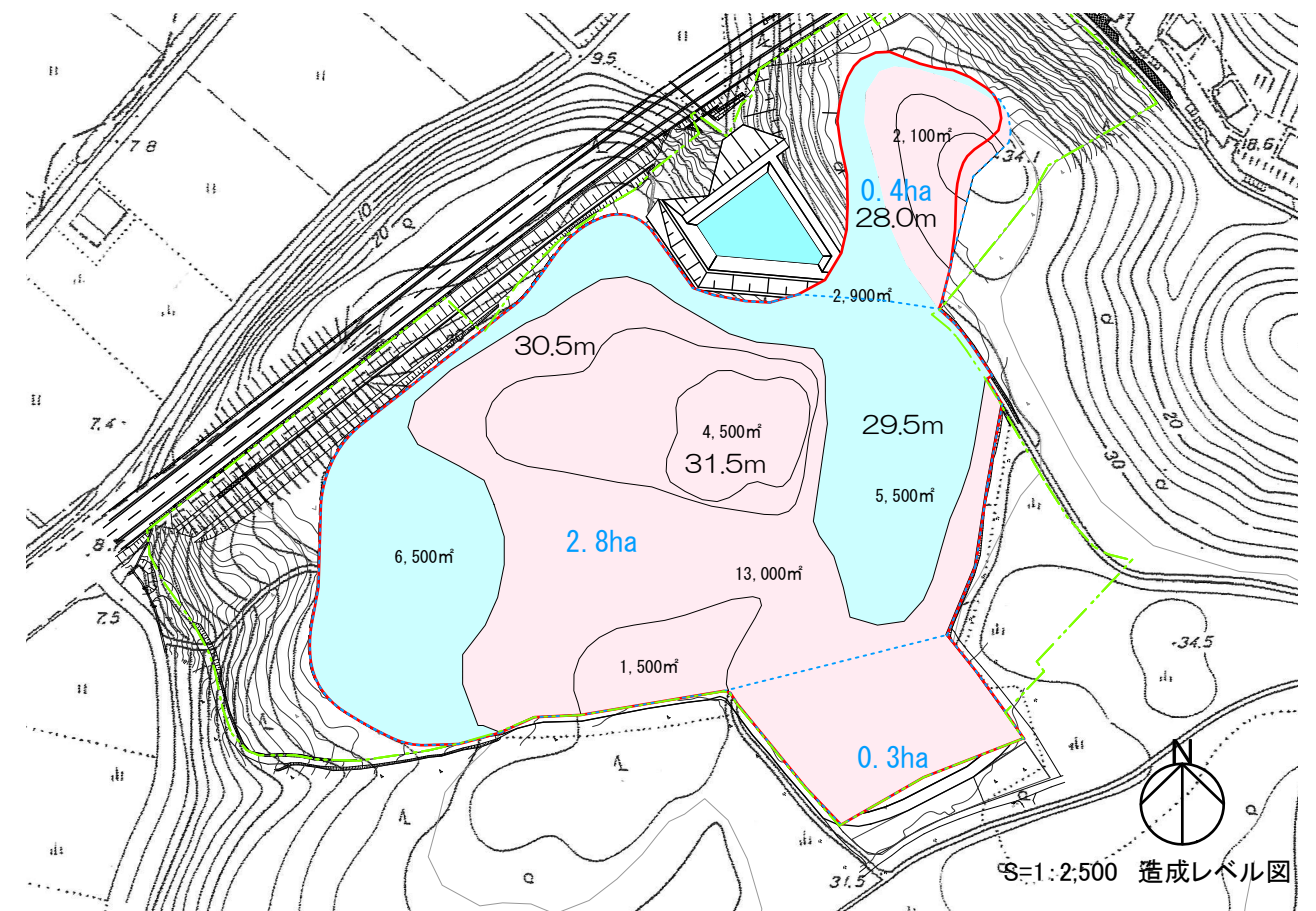
- 敷地の外周に幅員4m程度の管理用外周道路を整備します。敷地周囲の藪に対しての干渉地帯になり、子どもたちの日常安全性を確保できます。また、学校行事の際は、保護者用の駐車スペースとしても利用可能です。

###### c. 歩車分離

- 計画敷地内は歩道と車道を明確に分け、歩車分離を図ります。子どもたちが安心して学校生活を送れるように動線計画を徹底します。

###### d. 調整池の設置

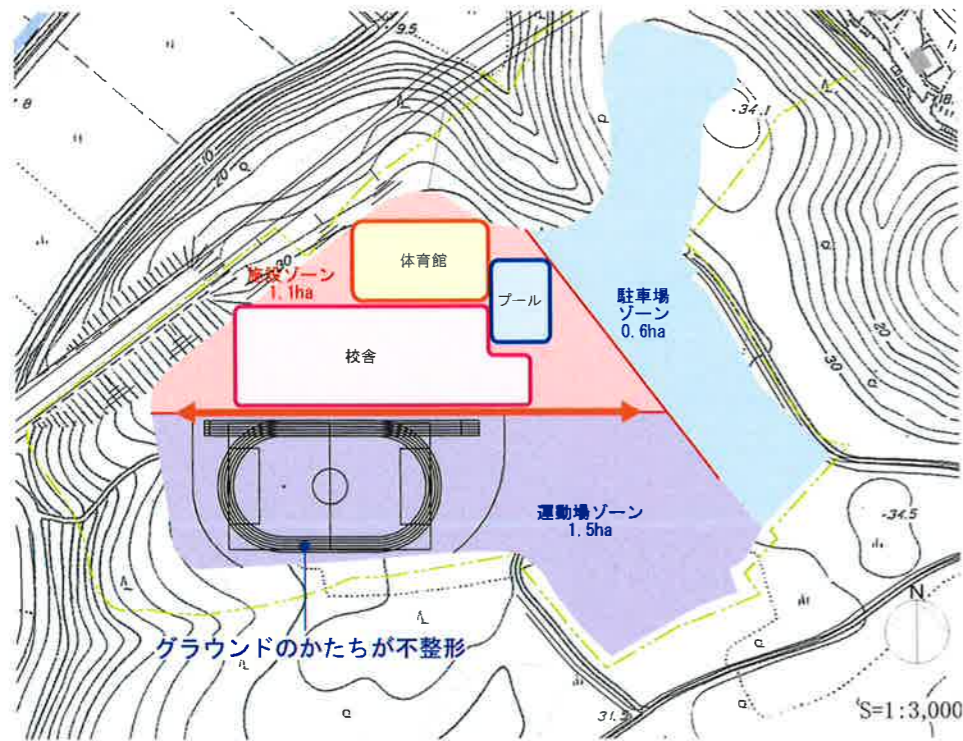
- 敷地内に適切な量の調整池を計画します。



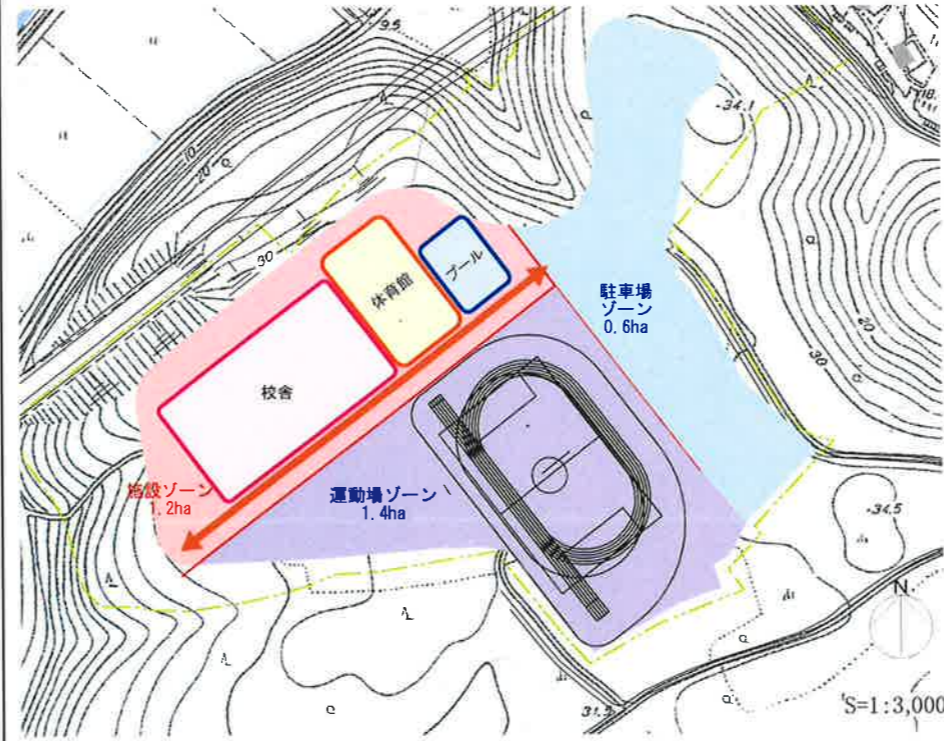
(2) 施設配置の検討

1) 施設配置の比較検討

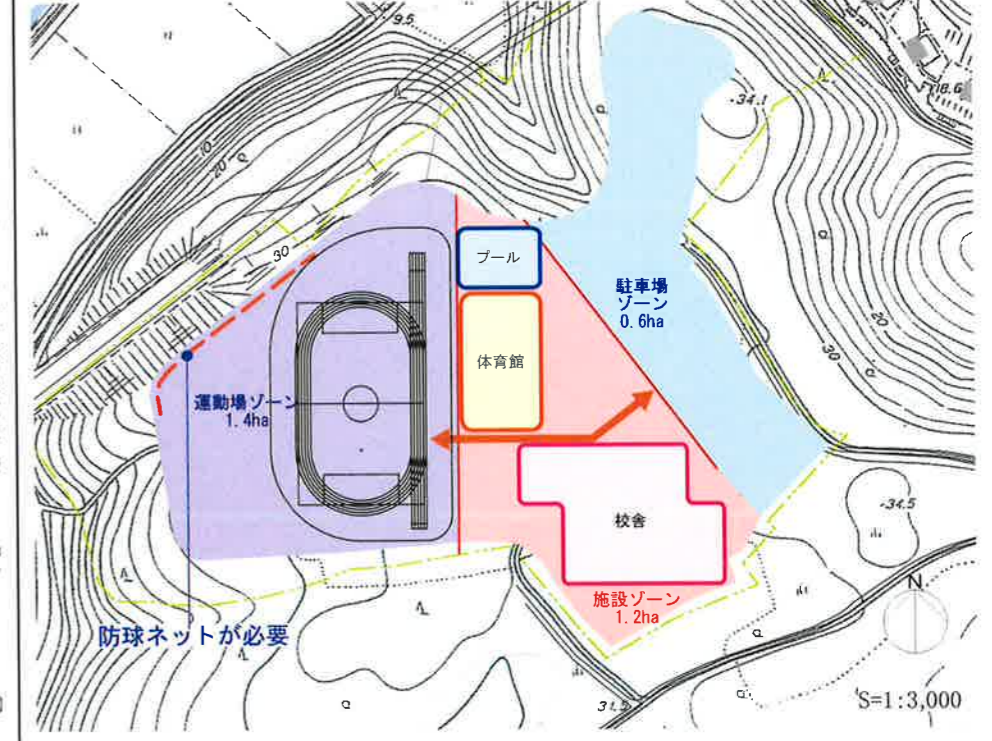
運動場を南に配置した案 **A案**



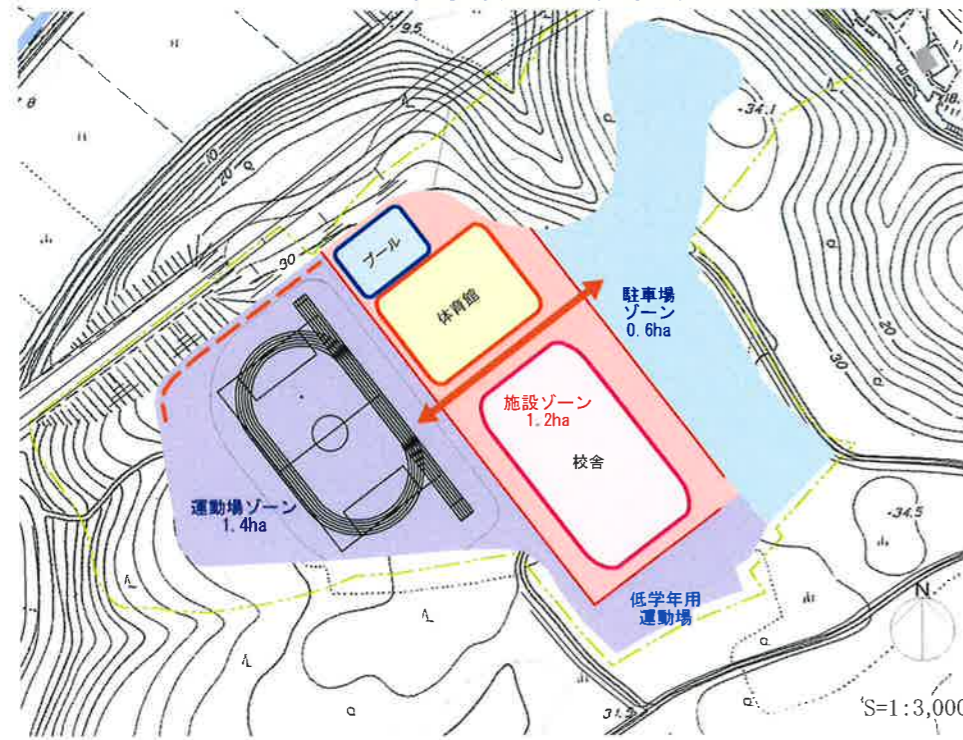
運動場を南東に配置した案 **B案**



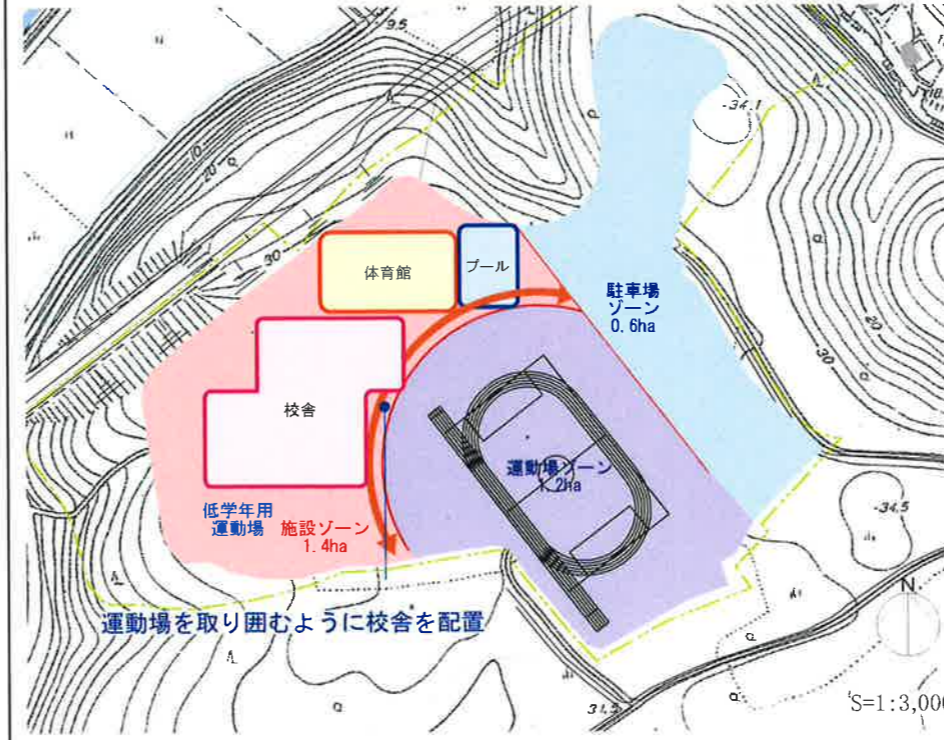
運動場を南西に配置し南東に低学年用運動場を配置した案 **C案**



運動場を南西に配置し南東に低学年用運動場を配置した案 **D案**



運動場を南東に配置し、運動場を囲んで校舎を配置した案 **E案**



2) 前提条件

運動場を、真南側・南東側・南西側の配置を比較検討しました。  
A～E案共に標高28.0mの位置に駐車場ゾーンを想定し、標高31.5mを学校施設・運動場を整備することを前提条件としています。



### (3) 施設配置の比較

・ 施設配置の有効性について下表のように検討し、E案を本計画の基本配置計画とします。

	A案	B案	C案	D案	E案
ゾーニング図	<p>運動場を南に配置した案</p>	<p>運動場を南に配置した案</p>	<p>運動場を南西に配置し南東に低学年用運動場を配置した案</p>	<p>運動場を南西に配置し南東に低学年用運動場を配置した案</p>	<p>運動場を南東に配置し、運動場を囲んで校舎を配置した案</p>
運動場の有効利用	△ 運動場ゾーンが不整形で、200mトラックは確保できるが、利用しづらいスペースが発生する。	△ 運動場ゾーンが不整形で、200mトラックは確保できるが、利用しづらいスペースが発生する。	○ 運動場ゾーンは整形に確保できる。西側にゆとりが生まれる。	◎ 運動場ゾーンは整形に確保でき、南東側に低学年用の運動場も整備できて、敷地を有効利用できる。	◎ 運動場ゾーンは整形に確保でき、南東側に低学年用の運動場も整備できて、敷地を有効利用できる。
教室の日照条件	○ 全ての教室を南に面して配置できるが、従来型の教室配置になる。	○ 全ての教室を南に面して配置できるが、従来型の教室配置になる。	○ 従来型にとらわれない教室配置の計画により、必要な採光は十分確保することができる。	○ 従来型にとらわれない教室配置の計画により、必要な採光は十分に確保することができる。	○ 従来型にとらわれない教室配置の計画により、必要な採光は十分に確保することができる。
バスロータリーからの動線	△ 校舎が東西に長くなり、西側の教室ほどバスロータリーからの距離が長くなる。	△ 校舎が東西に長くなり、西側の教室ほどバスロータリーからの距離が長くなる。	○ 比較的バスロータリーから近い距離に教室を配置することができる。	◎ バスロータリーから近い距離に教室を配置することができる。	○ バスロータリーから比較的近い距離に教室を配置することができる。
地域開放のしやすさ	△ 体育館など地域開放ゾーンの区画がしづらい。	○ 体育館など地域開放ゾーンを駐車場から近い距離に集約できる。	○ 体育館など地域開放ゾーンを駐車場から近い距離に集約できる。	○ 体育館など地域開放ゾーンを駐車場から近い距離に集約できる。	○ 体育館など地域開放ゾーンを駐車場から近い距離に集約できる。
防球ネットの設置	○ 県道側に防球ネットを設置する必要はない。	○ 県道側に防球ネットを設置する必要はない。	× 県道側に防球ネットを設置する必要がある。	× 県道側に防球ネットを設置する必要がある。	○ 県道側に防球ネットを設置する必要はない。
校舎の配置	× 校舎配置にゆとりがない。	○ 校舎配置にゆとりがある。	× 校舎配置にゆとりがない。	○ 校舎配置にゆとりがある。	○ 校舎配置にゆとりがある。

---

#### **4. 平面計画**

- (1) 平面計画の前提条件
- (2) 平面計画の基本的な考え方
- (3) 防犯計画
- (4) 寸法計画
- (5) 機能構成の展開
- (6) 配置計画図 E-(1)/E-(2)

## 4. 平面計画

### (1) 平面計画の前提条件

#### a. 自然採光

- 子どもたちの学習・生活の主たるスペースは人工照明だけに頼るのではなく、自然採光による明るさを確保します。

#### b. 自然換気

- 防音地区であることも考慮し、教室をはじめとする居室は、必要に応じて自然換気を図れるように、原則として2方向に開口を設けることとします。

#### c. 明確な動線

- 子どもたちの日常動線・避難動線を明確にします。

##### ① 日常動線

- 低学年、中学年、高学年を独立性のある配置とし、他の学年ユニットを通過しない動線計画とします。
- 校務ゾーンからの各学年ゾーンへの最短距離の動線を確保します。
- 昼食時に混雑が予想される給食の配膳をスムーズに行えるように計画します。
- 体育の授業での運動場・体育館・プールへの移動、特別教室への移動の際に他の学年ユニットを通過しない動線計画とします。

##### ② 避難動線

- 災害が発生した場合の避難経路に関して、建築基準法・消防法等の法令を遵守します。
- 万一の際の安全かつ迅速な避難が可能のように、原則として避難経路は日常動線と同じ経路を、教室等子どもたちのベースとなる場所からは直接外部へ避難できる計画とします。

#### d. バリアフリー

- 内部各階の床には原則として段差は設けないものとします。また、車椅子対応のエレベータを設けるとともに、各階に車椅子で利用できるWCを設けます。

#### e. 汎用性

- 一般論として、現在立案される計画は、現在の想定される種々の条件に基づいて設定されるものです。これらの条件には、時間が経過しても変化しないことがらと、時間経過のなかで変化することがらがあります。避難経路やWCなどの機能は、時間が経過しても変化しないものと考えられます。
  - 教育方針や教育内容の変化、または様々な機器の導入による教育手法の更新
  - 人口動態による児童数の増減
  - 社会情勢の変容

などによって、変化する可能性をもつ機能に関しては、こうした変化に対して、主体構造を維持しながら、部分的な内部空間の改造や間仕切壁の更新によって対応可能な汎用性をもたせることを前提に計画します。

### (2) 平面計画の基本的な考え方

#### 1) 構造・設備計画との整合性

- 各ゾーンの機能的な連続性や適切な規模を確保すると同時に、「合理的な構造計画」と「系統だった設備計画」と平面計画・断面計画の整合が欠かせない要件となります。
- a. 合理的な構造計画**
  - 耐震壁をバランスよく配置した強度型の建物とし、大地震に遭遇した際の躯体・仕上げ材・設備の被災を最小限に留めるものとします。
  - また、求められる空間に対して適切な横架材を選択し、平面計画との整合性を図ります。
- b. 系統だった設備計画**
  - 縦経路の各階の水平方向の受け持ち範囲を設定し、明確な設備の縦経路を確保します。設備経路の単純化を図ることを前提に、平面計画と設備計画の整合性を図ります。

#### 2) 平面計画の考え方

##### a. システムティックな構成

- 全体および各部において、恣意的な寸法要素を排除し、求められる機能を組織的に系統立てて構成します。具体的には、寸法計画の基本モジュールを前提として、全体から部分に至るまでの寸法体系を形成し、その寸法秩序に基づいて構造計画・設備計画との整合性を図ります。

##### b. 明快なゾーン分け

- ダイヤグラムに従い、類似する機能を集約した明確なゾーンを形成し、各々のゾーン相互のつながりを考慮しながら、各ゾーンを適切な位置に配置にします。

##### c. メディアセンターを中心に据える

- メディアセンターは、学習活動の中核機能として校舎の中心に据え、他のゾーンと有機的なつながりをもたせます。

### (3) 防犯計画

#### a. 敷地外周の囲障

学校敷地外周には丈夫なフェンスを施し、不審者が侵入しにくいものとします。

#### b. 防犯カメラ

適切な位置に監視カメラを設置し、不審者の侵入を監視します。

#### c. 死角を最小限にとどめる

建物と敷地外周フェンスの間には、死角になる部分が発生します。この部分を最小限に留めます。

## (4) 寸法計画

### 1) 小学校における寸法の考え方

#### a. 学年ごとの身体寸法

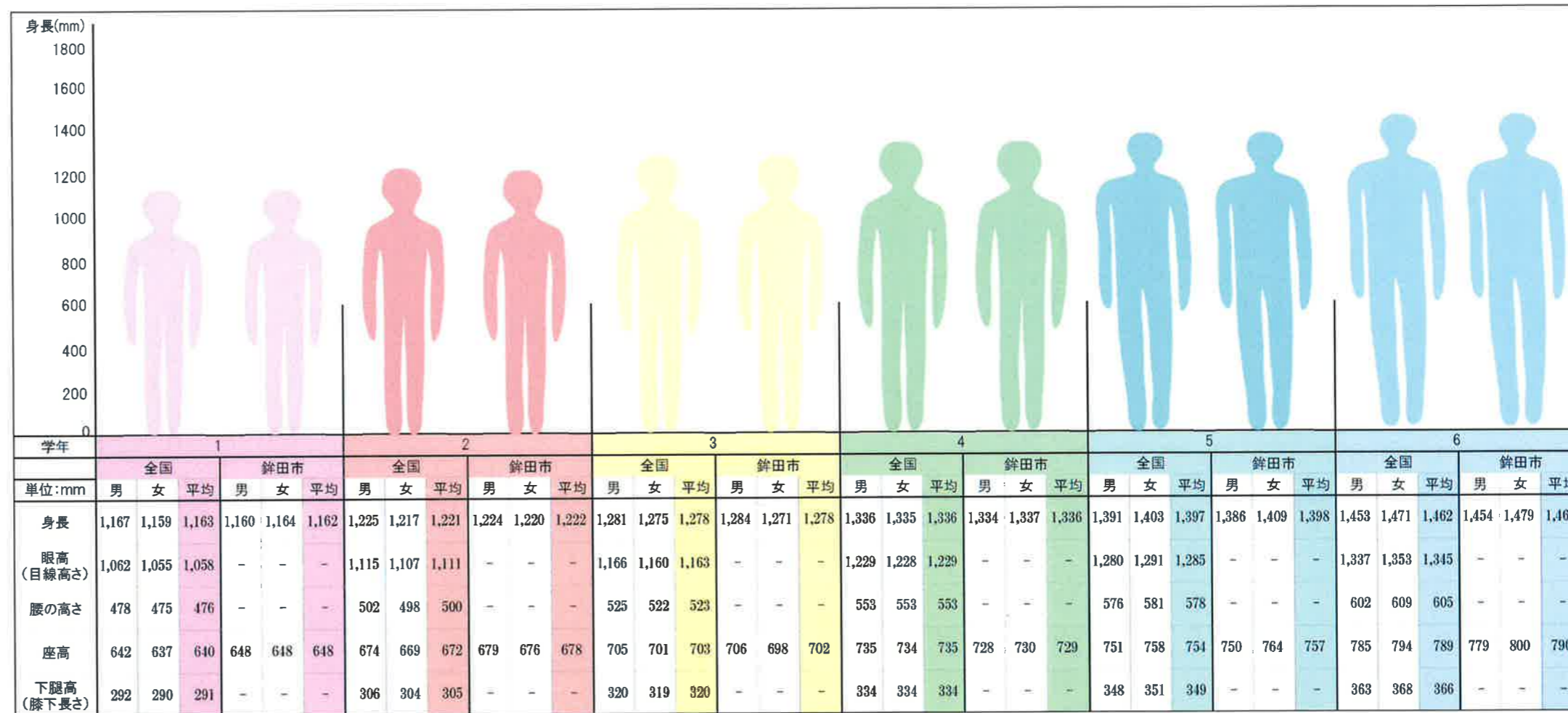
- 小学生は6歳～12歳の成長段階であり、身体大きさが最も変化する時期です。
- 小学生の身長は全国的には、
  - ・低学年平均115cm～125cm
  - ・中学年平均125cm～135cm
  - ・高学年平均135cm～145cmです。
- 銚田市と全国平均の成長曲線はほぼ同等です。

#### b. 身体寸法に合わせた計画

- 小学校の各部の寸法は、各年齢に合った計画とすることにします。
- 開口部の内法高さは2,000mmに設定し、高さ方法の基準とします。
- 洋式化の進んだ今日においても、室の広さを畳何帖として示されることから、平面寸法は1,800mm×1,800mm(約1坪)を基準とすることにします。

#### c. 身体寸法に合わせた家具

- 年齢により身長が大きく異なるため、年齢により家具等の寸法を合わせなくてはなりません。特別教室等、異学年が使用する教室の机・イスは、使用頻度の高い学年に合わせて、フレキシブルな家具計画が必要です。



※全国平均：第3版コンパクト建築設計資料集\_千葉工業大学上野研究室資料より  
銚田市平均：スポーツテスト(銚田市)より

### 2) 材料寸法と建物寸法

校舎を計画するにあたって、

- ・資源を消費する建設工事において資源を有効活用し、環境への負荷を軽減する。
  - ・無駄をなくして、建設費を抑制する
- ということを念頭において、寸法を設定します。  
主たる使用材料の定尺寸法は以下の通りです。

#### a. 躯体材料

型枠 : 900mm×1,800mm

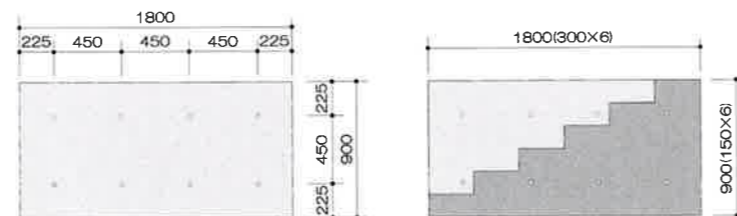
#### b. 仕上材料

合板類 : 910mm×1,820mm

ボード類 : 910mm×1,820mm

岩綿吸音板 : 455mm× 910mm

カーペットタイル : 500mm× 500mm



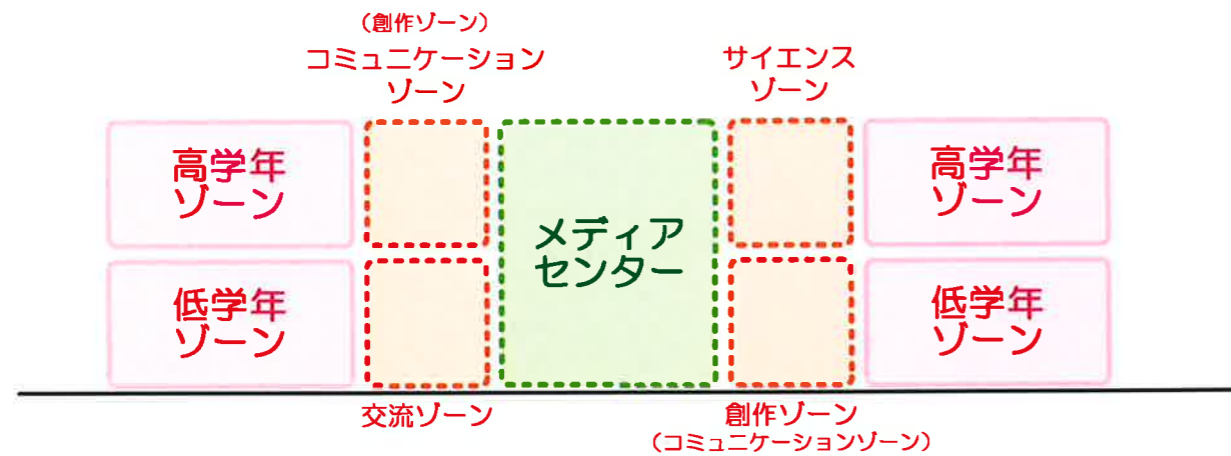
## (5) 機能構成の展開

### 1) メディアセンターを中心に据える

『第Ⅱ章-2. コンセプトの具体化』にあるように、メディアセンターを施設の中心とし各機能への展開を図ります。また、配置計画においては『第Ⅲ章-2. 施設配置計画』のE案をベースに施設内のゾーニングを計画します。

### 2) メディアセンターが中心の断面計画

メディアセンターを中心に、特別教室・学年ゾーンを配置します。メディアセンターの情報システムと連携し、多様な授業形態に対応できるとともに、学年を超えたコミュニケーションが誘発されるような計画とします。

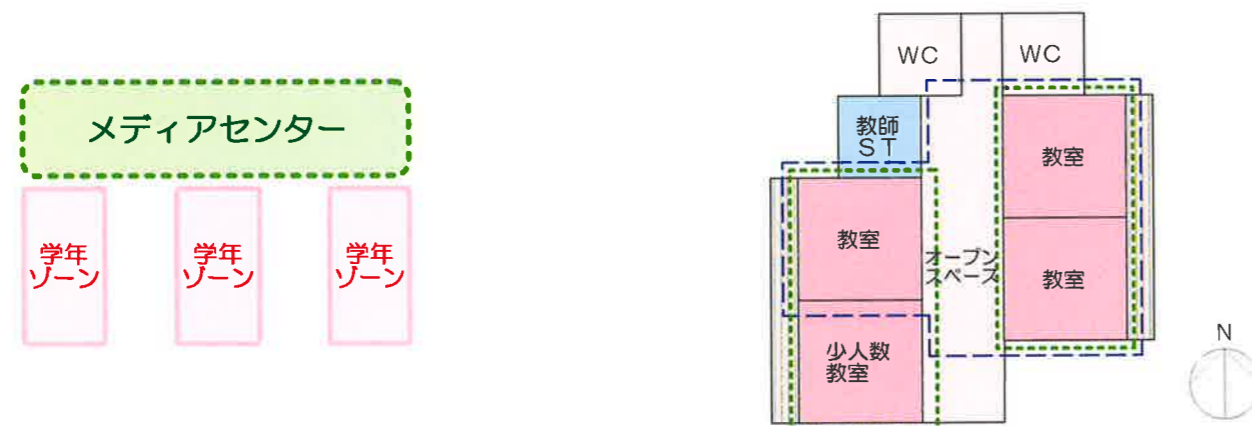


### 3) 普通教室の配置検討

『第Ⅱ章-2. コンセプトの具体化(3) 普通教室まわりの構成』にあるように、

- ① オープンスペースを挟んで教室が対面する配置
  - ② 片側にオープンスペースがある配置
- を以下のように検討しました。

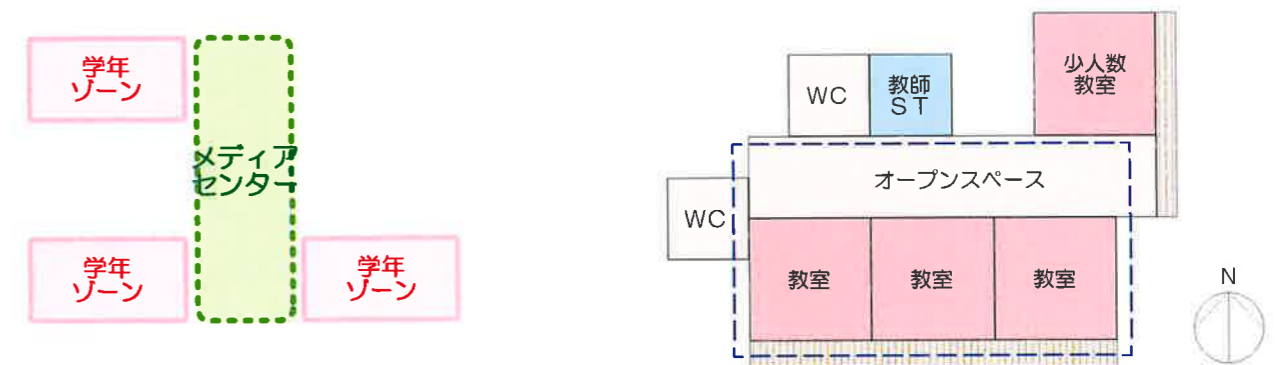
#### ① オープンスペースを挟んで教室が対面する配置



メディアセンターを東西軸に正対させると①のような学年ゾーンが構成されます。

- オープンスペースを挟んで教室を対面させることで各教室間の距離が近くなります。
- 少人数教室も合わせると2教室ずつのクラスターを構成できるので児童数の増減によって教室の形態を変化させやすくなります。

#### ② 片側にオープンスペースがある配置

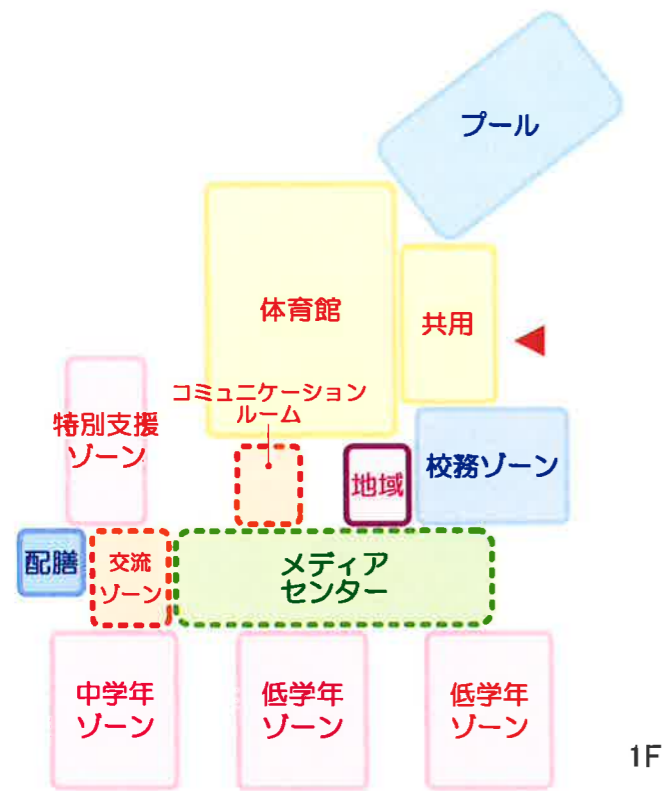


メディアセンターを南北軸に正対させると②のような学年ゾーンが構成されます。

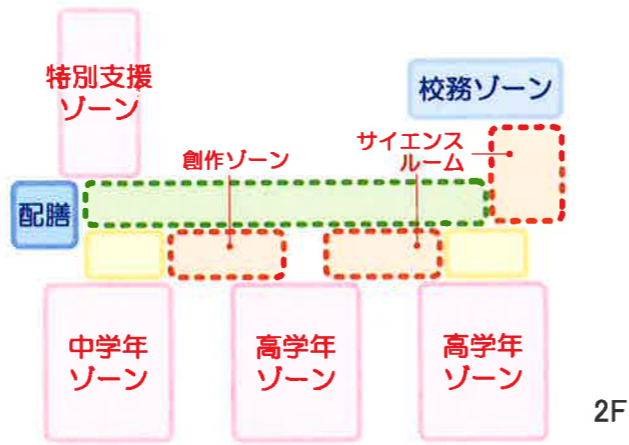
- 3教室それぞれに均等にオープンスペースを配分することが可能です。
- 少人数教室が独立しているので目的に合わせて仕様を変化しやすくなります。
- 普通教室を全て南面に向けることが可能です。

4) E案の比較検討

- E-(1)
  - ①で示した学年ゾーンとメディアセンターの関係から施設全体のゾーニング計画をします。

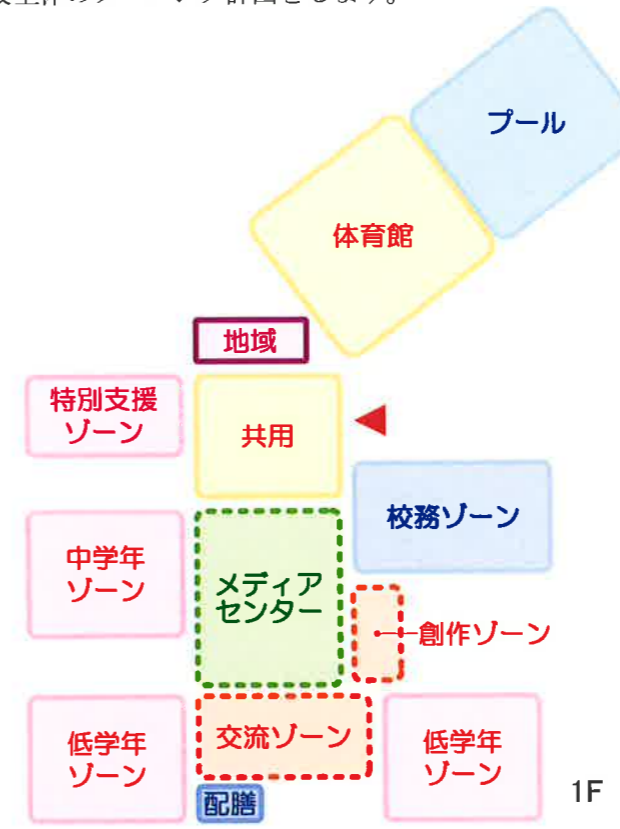


1F

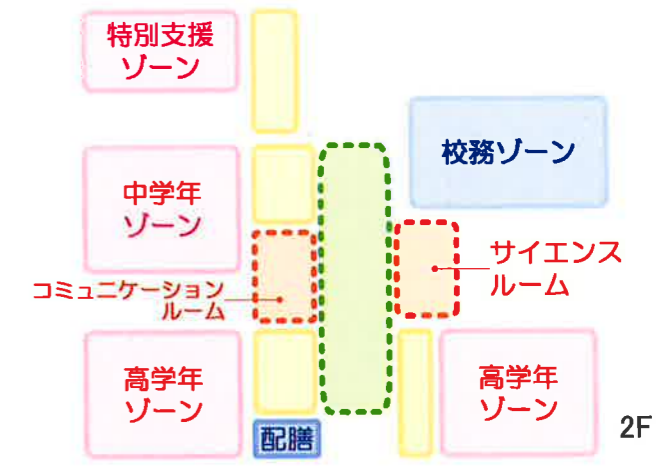


2F

- E-(2)
  - ②で示した学年ゾーンとメディアセンターの関係から施設全体のゾーニング計画をします。

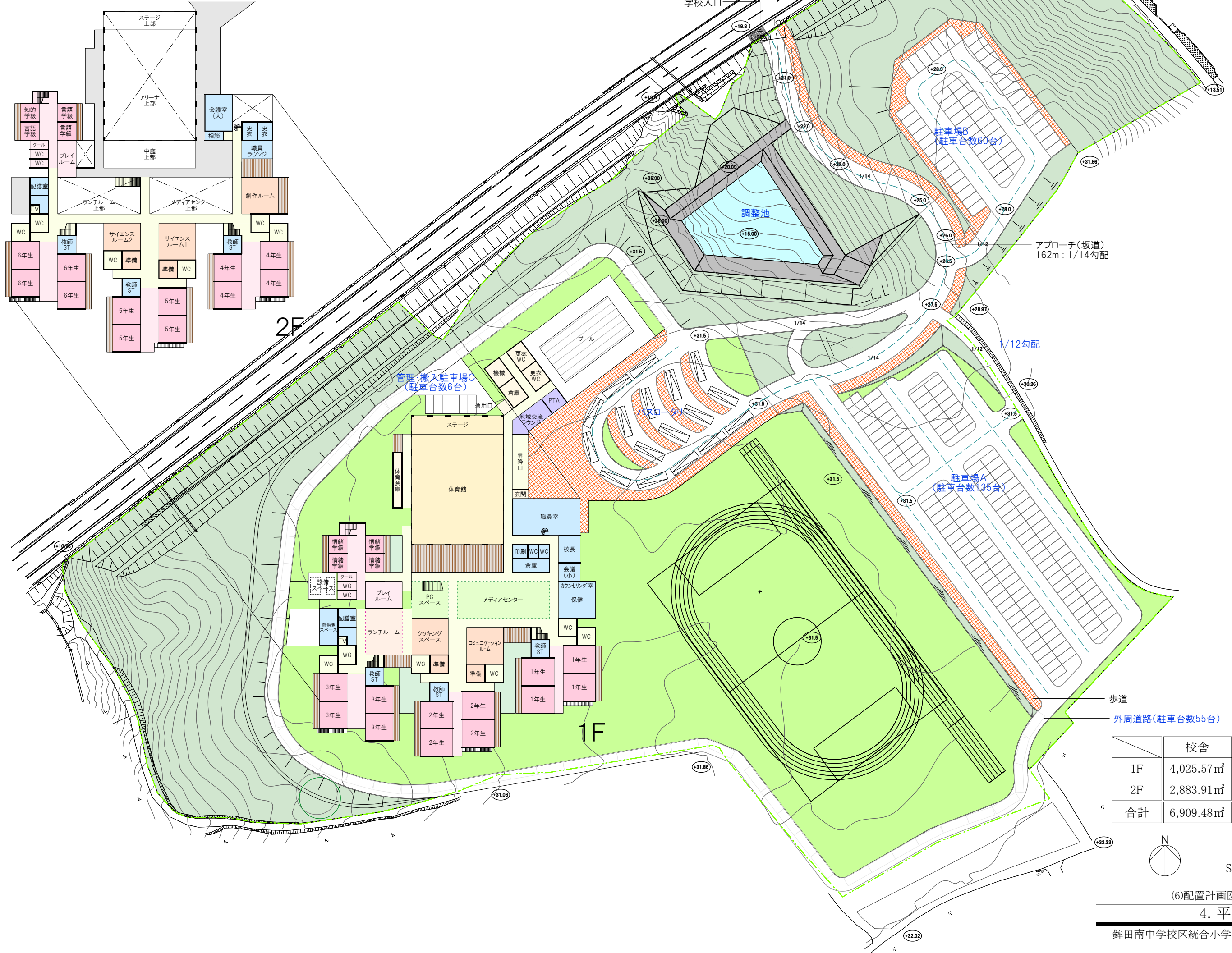


1F

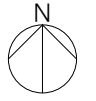


2F

(6) 配置計画図 E-(1)



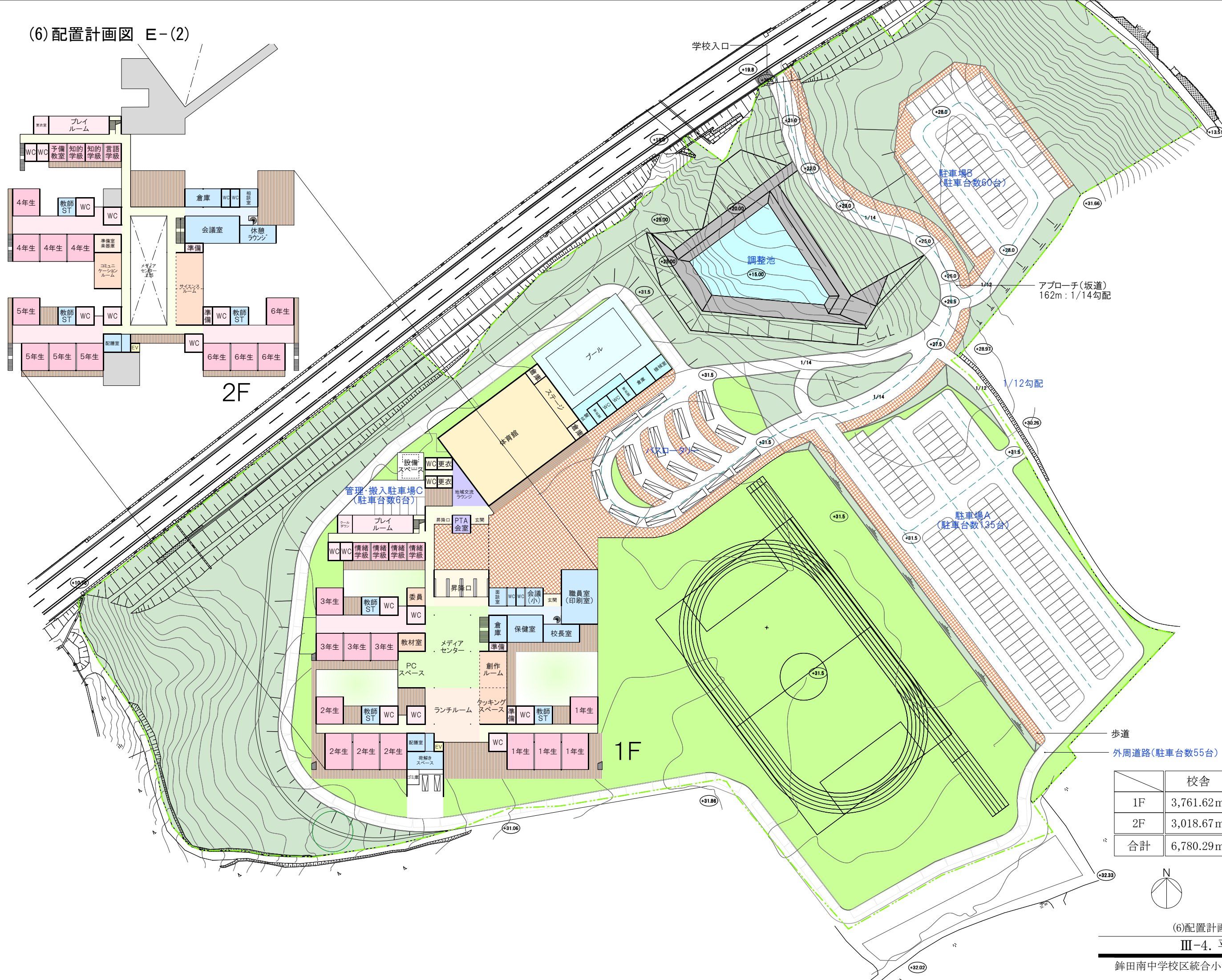
	校舎	体育館・その他
1F	4,025.57㎡	1,452.47㎡
2F	2,883.91㎡	-
合計	6,909.48㎡	1,452.47㎡



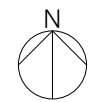
S=1:1,000

(6)配置計画図 E-(1)  
4. 平面計画

(6) 配置計画図 E-(2)



	校舎	体育館・その他
1F	3,761.62㎡	1,409.62㎡
2F	3,018.67㎡	-
合計	6,780.29㎡	1,409.62㎡



S=1:1,000



---

## 5. 内部空間の計画

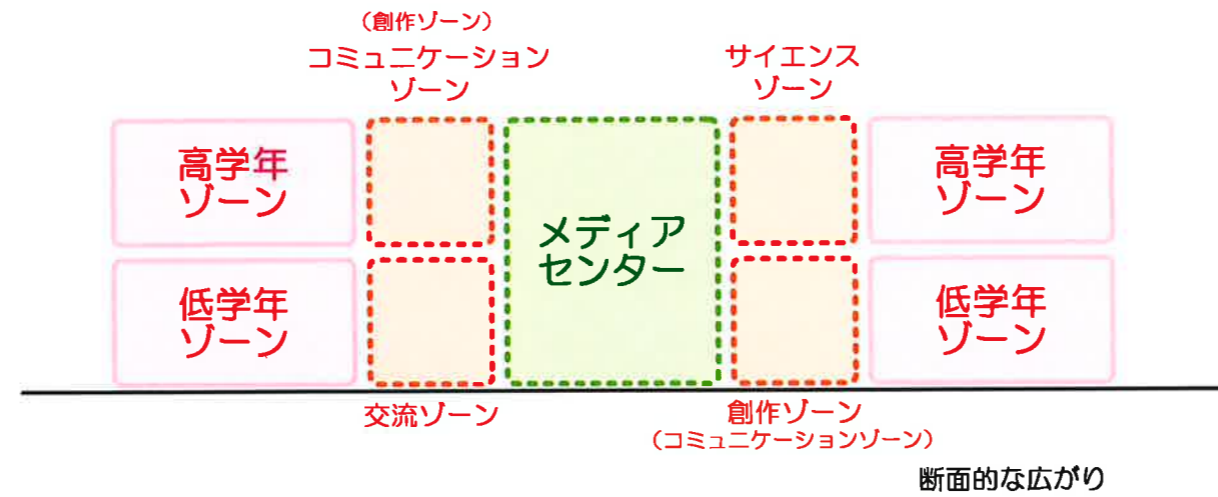
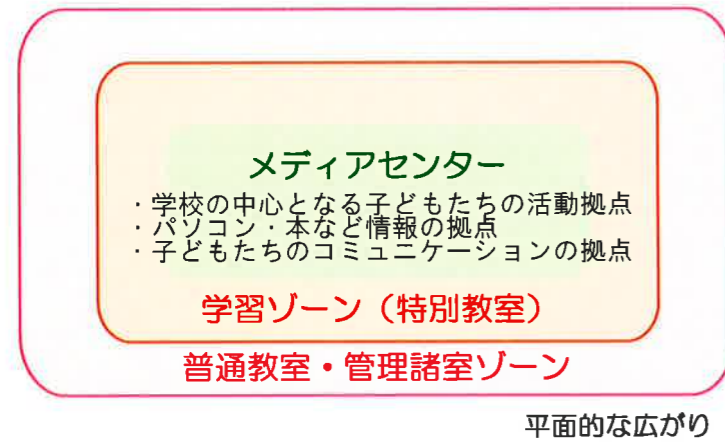
- (1) 内部空間の基本的な考え方
- (2) 内部仕上げの計画
- (3) 計画概要

## 5. 内部空間の計画

### (1) 内部空間の基本的な考え方

#### 1) メディアセンターの位置づけと基本条件

##### a. メディアセンターから広がる学習・交流のイメージ



### “読む・話す・調べる・発表する・発信する”

本・メディアが集積するメディアセンターを中心に多様な学習活動が展開していくような空間を目指します。

#### b. 連続性のある空間

メディアセンターを、学校施設の中核機能として学校の中心に位置づけます。

すべての特別教室に対して動線的・視覚的・機能的に連続性のある関係を持たせることで、学習・交流の幅が広がっていくような計画とします。

#### c. メディアセンターの特性



本・メディアに特別教室の要素と交じり合うイメージ



本・メディアの属性

#### コンピュータ・語学

情報化社会に生きる現代の子どもにとって、コンピュータの使用は当たり前になっています。一方で、大きな危険に巻き込まれる可能性もあります。正しい使い方を学ぶ授業としてPCルームを設けます。また、このスペースは視聴覚資料として、本にはない“動き”と“音”を利用した語学等の学習にも対応できるスペースとします。

#### レファレンス

本やメディアからは多くの情報を得ることが可能です。そこから自分に必要な情報を取捨選択することは、学習面において非常に重要な行為です。PCルーム・ラウンジルームを調べ学習に対応できるレファレンスエリアとして開放します。

#### 地域と交わる

地域の郷土資料や統合される小学校の歴史についての資料コーナーを設けます。国際的な教育を進めるには、自分の周りの環境を知ることも重要な役割を果たします。銚田の地域文化をはぐくむ人を育てます。

#### 本に親しむ

小学校低学年の国語の授業は“もじ”を学ぶことから始まります。低学年のうちから本を読む習慣を養うことを目的として、本に触れる機会を増やす計画とします。絵本を中心とした図書資料を「本に親しむエリア」として低学年ゾーンの近くに配置します。

## (2) 内部仕上げの計画

### 1) 内部仕上げの基本的な考え方

#### ・児童に寄り添う仕上げ

内部の仕上げは、子どもたちが毎日生活する空間を取り囲む大切な要素です。  
以下のことがらに配慮しながら、スペースの機能に応じた仕上げ材を選定します。

#### a. 健康的安全性

- ・子どもたちの健康を第一に考え、建築基準法に規定される仕上げ材のシックハウス対策は当然のこととして、下地材や接着剤なども有害物質を含有しない材料を選定します。

#### b. 日常的安全性

- ・校内を走り回ったり、友だちとふざけ合ったり…。  
子どもの日常生活には予測不可能な行動が多く存在します。
- ・そうした行動を教育として抑制するのではなく、子どもたちの成長の過程において必ずしも否定すべきものではないと考えます。それは裏を返せば健康であることの表出と捉えるべきです。



- ・子どもたちが衝突したり、転倒しても、大きな怪我に至らないように、床面・壁面に突起をつくらず、また、頭部よりも低い位置にある流し台や作業台などの家具の端部の処理に注意します。

#### c. 快適性

- ・毎日、落ち着いた生活ができるように、子どもたちの心理や情緒に配慮して仕上げ材を選定します。具体的には、工業製品の無機質材料を最小限に留め、木材を主体とした自然素材によって内部空間を仕上げます。

#### d. メンテナンス性

- ・清掃も子どもたちの重要な学習のひとつであるという前提に立って、清掃しやすい材料を選定します。

### 2) 内部仕上げの概要

#### ・ゾーン毎に適切な仕上げを施す

内部仕上げは、ゾーン毎に適切な材料を選択します。また、オープンスクールとしての難点となる反響などの音の影響を和らげるために、適切な吸音・遮音の処置を施すものとします。

#### a. 学年ゾーン

- ・親しみやすさと安らぎを与える木質系材料を主体として計画します。
- ・具体的には、床はフローリング、天井はオープンな空間の特性に配慮して吸音性の高い材料を用います。壁は木質材料（板材または合板）とし、壁面全部を掲示スペースとして使用できるものとします。

#### b. 学習ゾーン（メディアセンター・特別教室）

##### ①メディアセンター

- ・メディアセンターは印刷資料と電子情報を共存させるため、床はフリーアクセスフロアを前提として計画します。
- ・また、天井面は連続する空間の反響を緩和するために、吸音性の高い材料を用います。

##### ②ランチ・クッキングルーム

- ・床は、清掃のしやすさと和やかに食事をする環境を両立する材料とします。
- ・天井は、大勢の子どもたちが同時に食事をする際に発する音を吸収するために、吸音性の高い材料とします。
- ・壁面は、落ち着いた雰囲気のある食育空間とするために、木質系の材料を用います。

##### ③創作ルーム

- ・水彩画等で使用する水をこぼした場合の清掃のしやすさに配慮して、フローリングとします。
- ・壁面は、図画などを掲示することを前提として、画鋸の効く木質系材料とします。

##### ④サイエンスルーム

- ・実験・実習で使用する水をこぼした場合の清掃のしやすさに配慮して、フローリングとします。
- ・壁面は、各種資料などを掲示することを前提として、画鋸の効く木質系材料とします。

##### ⑤コミュニケーションルーム

- ・壁・天井は、残響に配慮し、反射面と吸音面を適切に配置します。
- ・壁面は、木質系材料を主体としながら、学年ゾーンとは異なる雰囲気を形成します。

#### c. 体育ゾーン

##### ①体育館

- ・床は、鋼製床下地のうえ、体育館用フローリング（ウレタン塗装）とします。
- ・壁・天井は、体育・スポーツの使用と講堂としての使用を両立させる仕上げ材を選択します。  
特に、音響設備を使用した際や音楽発表の際の適切な残響と運動の際に発生する音や声の反響に配慮します。



壁面下部：衝突の衝撃を和らげると同時に、破損しにくい木質系材料とし、柱型等の出隅をつくりません。

壁面上部：ボールをぶつけても破損せず、かつ吸音性のある材料を用います。

天井面：ボールをぶつけても破損せず、かつ吸音性のあるグラスウールボード等の材料を用います。

##### ②プール

- ・床は、耐水性が高く、清掃もしやすく、滑りにくい、磁器質タイルもしくは、塗床とします。

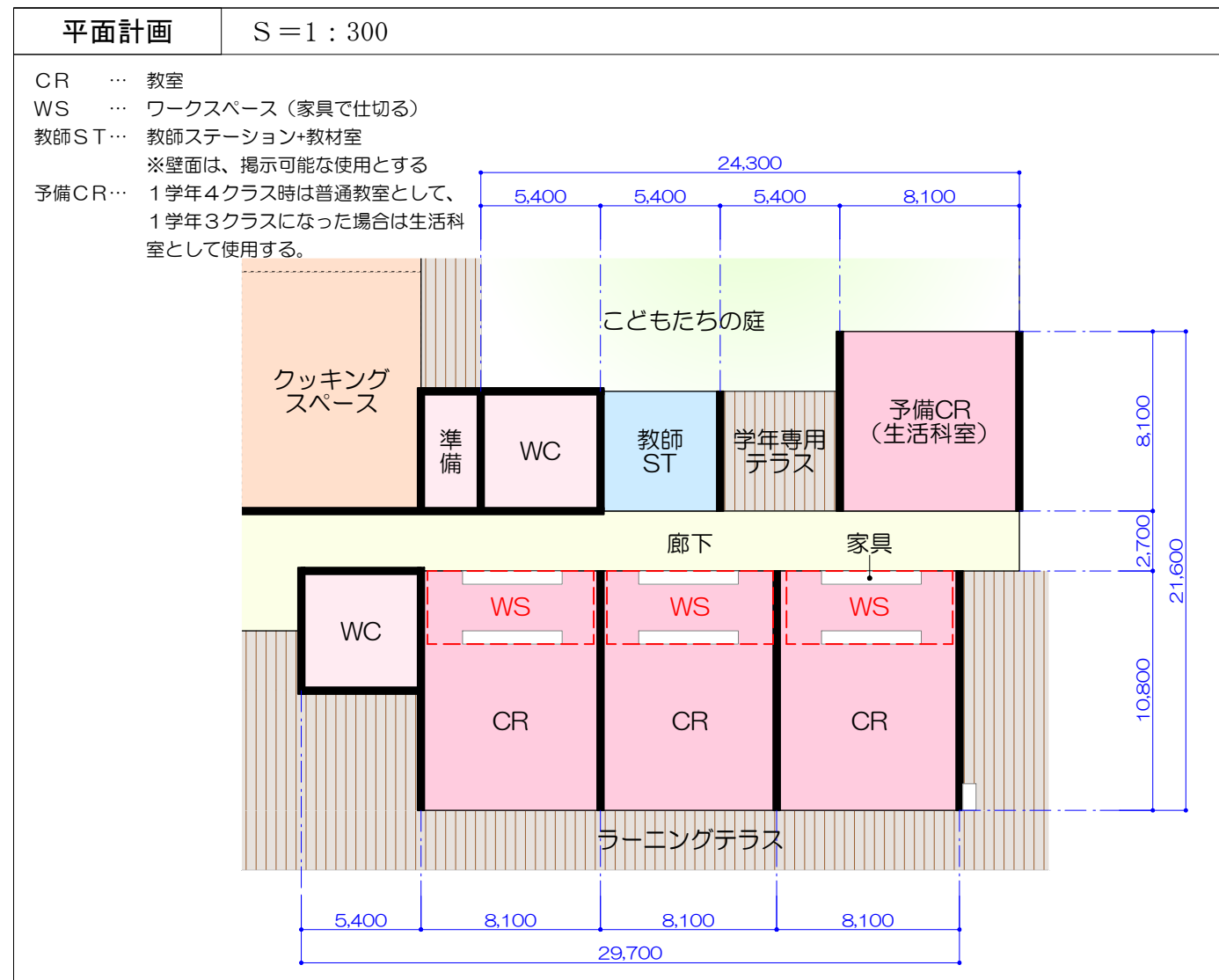
#### d. 昇降口・地域交流ゾーン

- ・子どもたちにとっても、先生にとっても、保護者にとっても、地域開放においても、外部と内部の接点となることから、床は耐水性、耐摩耗性に優れ、また雨天時の防滑性も兼ねた材料とします。

(3) 計画概要 (E-2案)

1) 低学年ゾーン

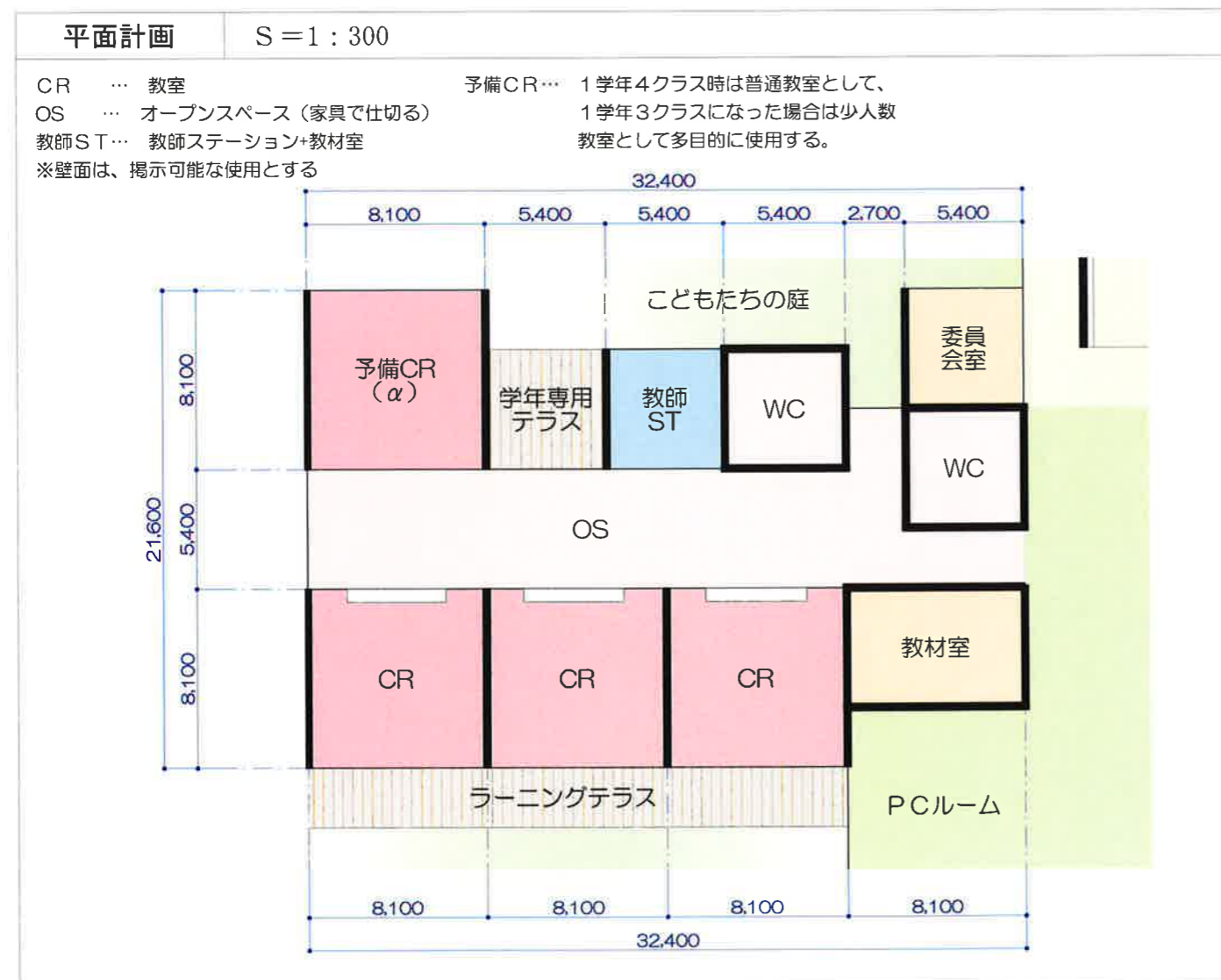
ゾーン	学習・生活ゾーン
分類	低学年
ゾーンの数	2 (1・2年生)
利用目的	-
基本方針	低学年教室は総合教室として、中高学年教室に比べて一回り大きな面積を確保し、授業・一般学習スペースに加えてワークスペースを取り込む。可動式の家具で教室内を区切ること少人数学習等に対応する。 また、3クラスの南面にテラスを設けて、教室・ワークスペースと一体的に使用することも可能にする。
ゾーンの面積	503.01㎡



室名	普通教室	教師ステーション	WC	
室数	3/学年ゾーン	1/学年ゾーン	2/学年ゾーン (男女別)	
室面積	87.48㎡	29.16㎡	29.16㎡	
最大定員	40名	-	-	
天井高	2.7m	2.7m	2.4m	
用途	児童の生活・学習の拠点。学校生活のホームベースになる場所。	休み時間等に先生が待機する場所。また、授業に必要な教材スペース。	-	
基本方針	総合教室型を前提とし、ワークスペースを教室に設置する。	開かれたスペースとし、児童の質問や相談を気軽に受けることができる。	明るく清潔な場所とする。1学年最大160人として、便器・手洗の数を設定する。	
仕上	床	フローリング	カーペットタイル (フリーアクセスフロア)	ビニルシート
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	コンクリート打ち放し仕上
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板	化粧石膏ボード
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報・プロジェクタ	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報	照明・コンセント・自火報
	給排水	手洗い	なし	衛生器具 (洋式トイレ)
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備	換気設備
装備	黒板	ホワイトボード	-	-
	収納	収納棚	-	-
	清掃用具	清掃用具入れ	-	清掃用具入れ
	掲示	-	-	-
	カーテンブラインド	カーテンレール	カーテンレール	-
	他			大型鏡
備品	机・イス	児童用机・イス×40	テーブル・イス	-
	収納	児童用ロッカー (40名分)	可動式収納ボックス	-
	掲示	-	可動式掲示板・ホワイトボード	-
	カーテンブラインド	カーテン	カーテン	-
	他			
備考	ラーニングテラスに流しを設置			

2) 中学年ゾーン

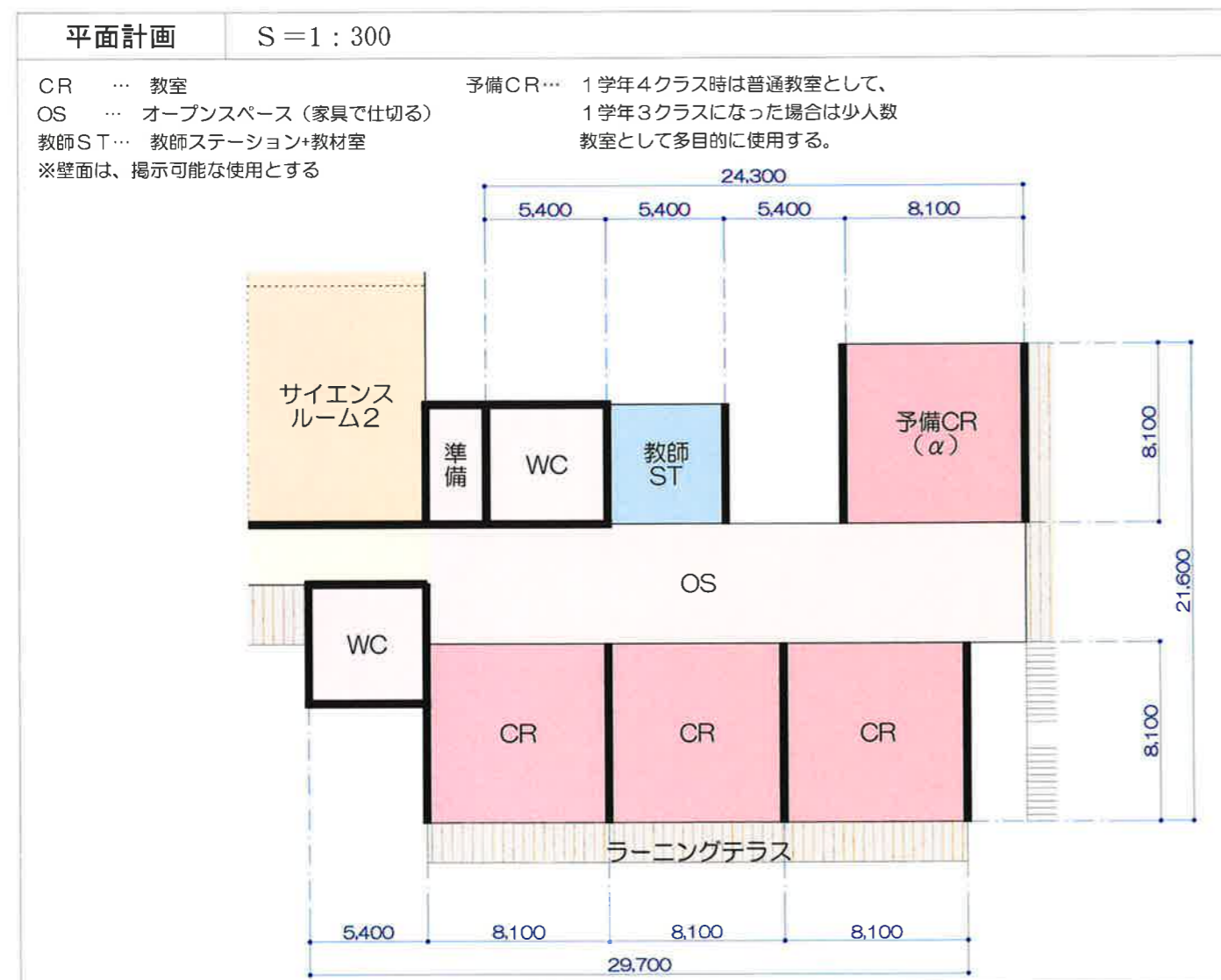
ゾーン	生活・学習ゾーン
分類	中学年
ゾーンの数	2 (3・4年生)
利用目的	-
基本方針	中高学年は授業・一般学習に加えて、グループ学習や自由学習、少人数学習等多様な学習システムに対応できるように、オープンスペースを設ける。可動式の家具で教室内を区切ることで普通教室としても対応することが可能。また、3クラスの南面にテラスを設けて、教室・オープンスペースと一体的に使用することも可能にする。
ゾーンの面積	517.59㎡



室名	普通教室	教師ステーション	WC
室数	3/学年ゾーン	1/学年ゾーン	2/学年ゾーン (男女別)
室面積	65.61㎡	29.16㎡	29.16㎡
最大定員	40名	-	-
天井高	2.7m	2.7m	2.4m
用途	児童の生活・学習の拠点。学校生活のホームベースになる場所。	休み時間等に先生が待機する場所。また、授業に必要な教材スペース。	-
基本方針	オープンスペースと一体的な利用を前提とし、可動式の家具を配列する。	開かれたスペースとし、児童の質問や相談を気軽に受けることができる。	明るく清潔な場所とする。1学年最大160人として、便器・手洗の数を設定する。
仕上	床	フローリング	カーペットタイル (フリーアクセスフロア)
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報・プロジェクタ	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報
	給排水	手洗い	なし
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	ホワイトボード	-
	収納	収納棚	-
	清掃用具	清掃用具入れ	-
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド 他	カーテンレール	カーテンレール
備品	机・イス	児童用机・イス×40	テーブル・イス
	収納	児童用ロッカー (40名分)	可動式収納ボックス
	掲示	-	可動式掲示板・ホワイトボード
	カーテン ブラインド 他	カーテン	カーテン
	備考		

3) 高学年ゾーン

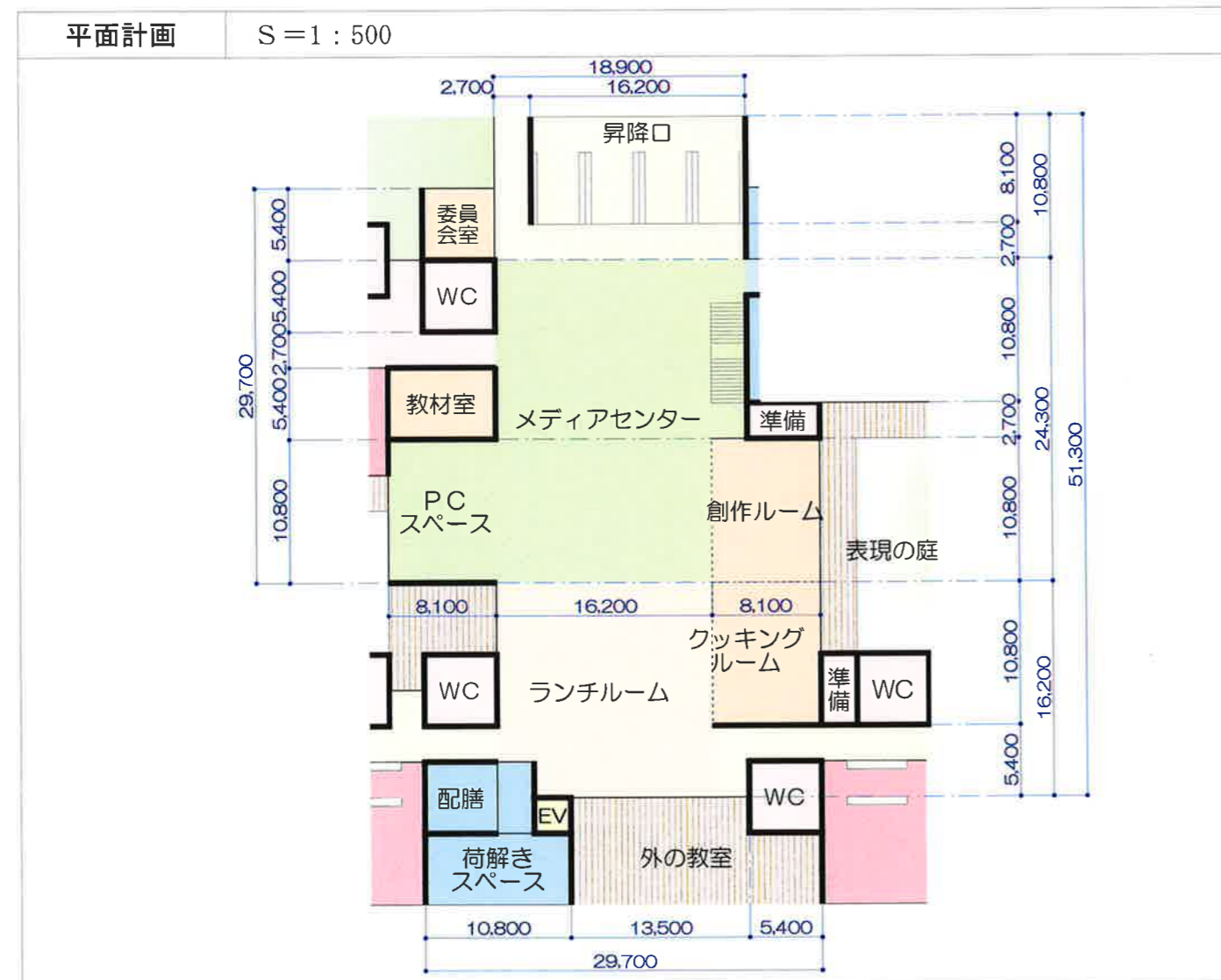
ゾーン	学習・生活ゾーン
分類	高学年
ゾーンの数	2 (5・6年生)
利用目的	-
基本方針	中高学年は授業・一般学習に加えて、グループ学習や自由学習、少人数学習等多様な学習システムに対応できるように、オープンスペースを設ける。可動式の家具で教室内を区切ることで普通教室としても対応することが可能。 また、3クラスの南面にテラスを設けて、教室・オープンスペースと一体的に使用することも可能にする。
ゾーンの面積	517.59㎡



室名	普通教室	教師ステーション	WC
室数	3/学年ゾーン	1/学年ゾーン	2/学年ゾーン (男女別)
室面積	65.61㎡	29.16㎡	29.16㎡
最大定員	40名	-	-
天井高	2.7m	2.7m	2.4m
用途	児童の生活・学習の拠点。学校生活のホームベースになる場所。	休み時間等に先生が待機する場所。また、授業に必要な教材スペース。	-
基本方針	オープンスペースと一体的な利用を前提とし、可動式の家具を配列する。	開かれたスペースとし、児童の質問や相談を気軽に受けることができる。	明るく清潔な場所とする。1学年最大160人として、便器・手洗の数を設定する。
仕上	床	フローリング	カーペットタイル (フリーアクセスフロア)
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報・プロジェクタ	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報
	給排水	手洗い	なし
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	ホワイトボード	-
	収納	収納棚	-
	清掃用具	清掃用具入れ	-
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	カーテンレール	カーテンレール
	他		大型鏡
備品	机・イス	児童用机・イス×40	テーブル・イス
	収納	児童用ロッカー (40名分)	可動式収納ボックス
	掲示	-	可動式掲示板・ホワイトボード
	カーテン ブラインド	カーテン	カーテン
	他		
備考			

4) メディアセンター

ゾーン	学習ゾーン
分類	メディアセンター
ゾーンの数	1
利用目的	-
基本方針	学習活動の中心にあつて、“読む・話す・調べる・発表する・発信する”などの多様な活動が展開できる空間とする。 読書スペース、レファレンスルーム、PCスペースを中心に、各学年ゾーンや特別教室、多目的ホールがつながりを持った状態で配置する。メディアセンターを移動空間とすることで、子どもたちが日常的にパソコンや本に触れられる環境とする。
ゾーンの面積	1020.60㎡



室名	メディアセンター	PCルーム	教材室
室数	1/学習ゾーン	1/学習ゾーン	1/学習ゾーン
室面積	430.11㎡	87.48㎡	43.74㎡
最大定員	-	-	-
天井高	3.6+2.7=6.3m(吹き抜け部含む)	2.7m	2.4m
用途	本・メディアを媒体に、学習やコミュニケーションの拠点となる。	パソコン操作の学習、様々な授業の情報を補完するスペース。	メディアセンター、PCルーム、ランチルームで使用する教材や家具の保管場所。
基本方針	施設の中心にあり、どこからでもアクセスできるオープンな環境にする。	開かれたスペースとし、日常的に利用できる学習空間となる。	メディアセンターとPCルームの近くに配置。
仕上	床	フローリング	カーペットタイル(フリーアクセスフロア)
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN ・自火報	照明・コンセント・TV・無線LAN ・自火報
	給排水	-	-
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	-	-
	収納	-	-
	清掃用具	清掃用具入れ	-
	掲示	-	ピクチャーレール
	カーテン ブラインド	-	カーテンレール
	他	-	-
備品	机・イス	閲覧机・イス・ベンチ・カウンター	テーブル・イス
	収納	書架	可動式収納ボックス
	掲示	可動式掲示板・ホワイトボード	可動式掲示板・ホワイトボード
	カーテン ブラインド	カーテン	カーテン
	他	可動式AVラック	-
備考	蔵書数：11,360冊以上 ※文部科学省 学校図書館図書標準による		

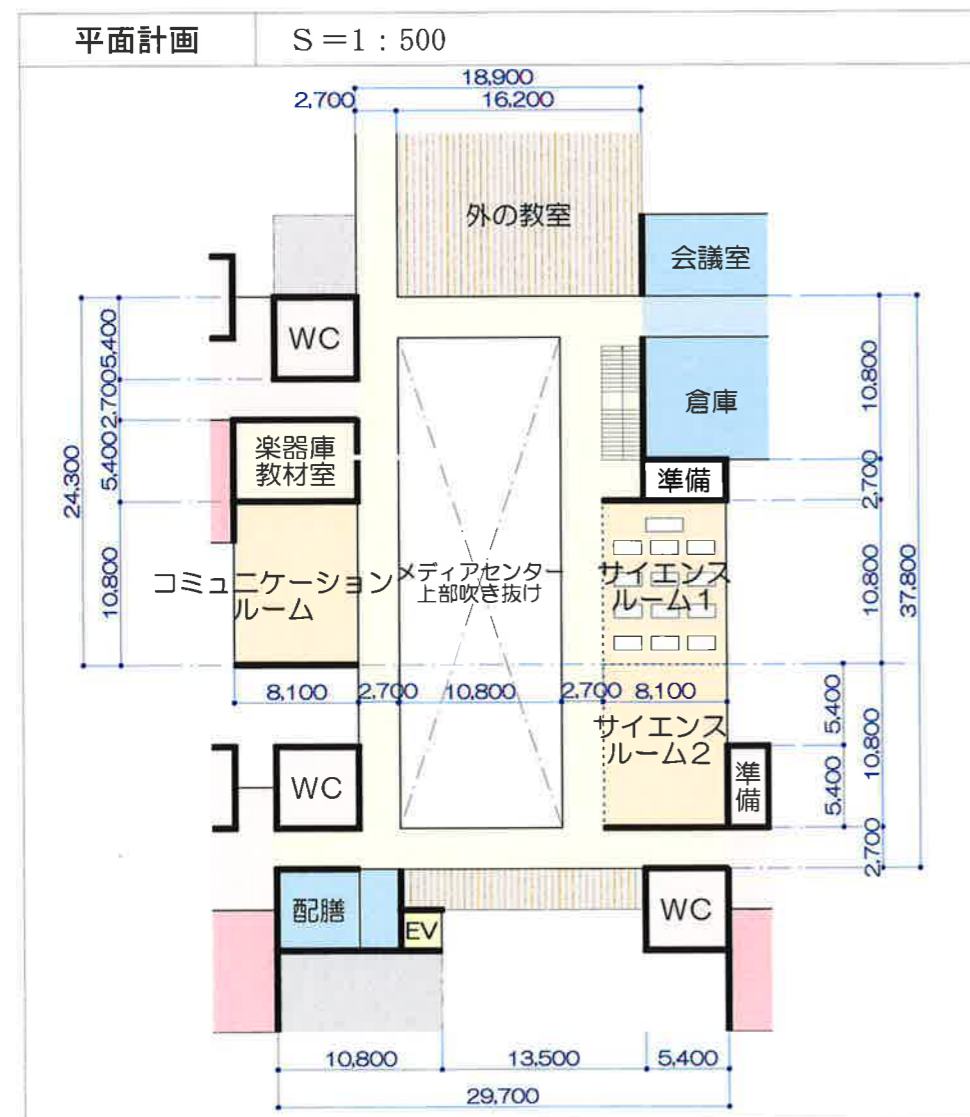
室名	ランチルーム	クッキングルーム	創作ルーム
室数	1/学習ゾーン	1/学習ゾーン	1/学習ゾーン
室面積	255.15㎡	87.48㎡	87.48㎡
最大定員	-	-	-
天井高	6.3m (吹き抜け部含む)	2.7m	2.7m
用途	クラス・学年を超えて4クラス同時に給食を取ることでできる空間。授業の一環としても使用する多目的な空間。	調理実習での使用を基本としたスペース。ランチルームとの連携を図りながら計画する。洗濯機も設置する。	中高学年の図画工作の授業が行える空間。
基本方針	メディアスペース・クッキングスペース・外部テラスとの連携を図る。	調理を目的とした部屋。洗濯、被服等に係わる授業はランチルームや創作ルームで行うことを前提とする。	オープン空間とすることで、創作活動自体を発信する。また、表現の庭を設け、外部での創作活動・発表も行う。
仕上	床	フローリング	フローリング
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN ・自火報	照明・コンセント・TV・無線LAN ・自火報・プロジェクタ
	給排水	手洗い・流し	給水・排水・流し
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	-	ホワイトボード
	収納	収納棚	食器・用具収納戸棚
	清掃用具	清掃用具入れ	清掃用具入れ
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	カーテンレール	-
	他	-	調理実習台 (IH) 教師用実習台
	機・イス	テーブル・イス	イス
備品	収納	-	-
	掲示	-	可動式掲示板・ホワイトボード
	カーテン ブラインド	カーテン	-
	他	-	冷蔵庫・電子レンジ等の調理機器 洗濯機
	備考	全学年が対応できるような家具	-

室名	準備室	配膳室+荷解きスペース	委員会室
室数	2/学習ゾーン (1F)	2/学習ゾーン (1・2F)	1/学習ゾーン
室面積	14.58㎡	102.60(1F)+43.74(2F)=146.34㎡	29.16㎡
最大定員	-	-	-
天井高	2.4m	2.4m	2.7m
用途	家庭科の授業に必要な用具・器具の保管場所。 図画工作で使用する用具・材料の保管場所。	フロア毎の各クラスへの給食配膳の拠点。	-
基本方針	包丁、はさみ等を安全に保管できるものとする。 創作ルームと隣合い直接出入りできるものとする。	最大で3学年12クラスの給食当番がほぼ同時に集中する。スムーズな運搬が行える動線、ワゴンスペースを確保する。	委員会の会議・作業スペースとする。
仕上	床	ビニルシート	ビニルシート
	壁	コンクリート打ち放し仕上	コンクリート打ち放し仕上
	天井	化粧石膏ボード	珪酸カルシウム板
設備	電気	照明・コンセント・自火報	照明・コンセント・自火報
	給排水	-	流し・温水
	空調	換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	-	-
	収納	収納戸棚 (鍵付) / 用紙保管棚	-
	清掃用具	-	清掃用具入れ
	掲示	-	給食のディスプレイ等
	カーテン ブラインド	-	-
	他	-	-
	機・イス	-	-
備品	収納	-	-
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	-	-
	他	-	カーテン
	備考	-	EVの設置 搬入時の荷解きスペース



5) サイエンスルーム・コミュニケーションルーム

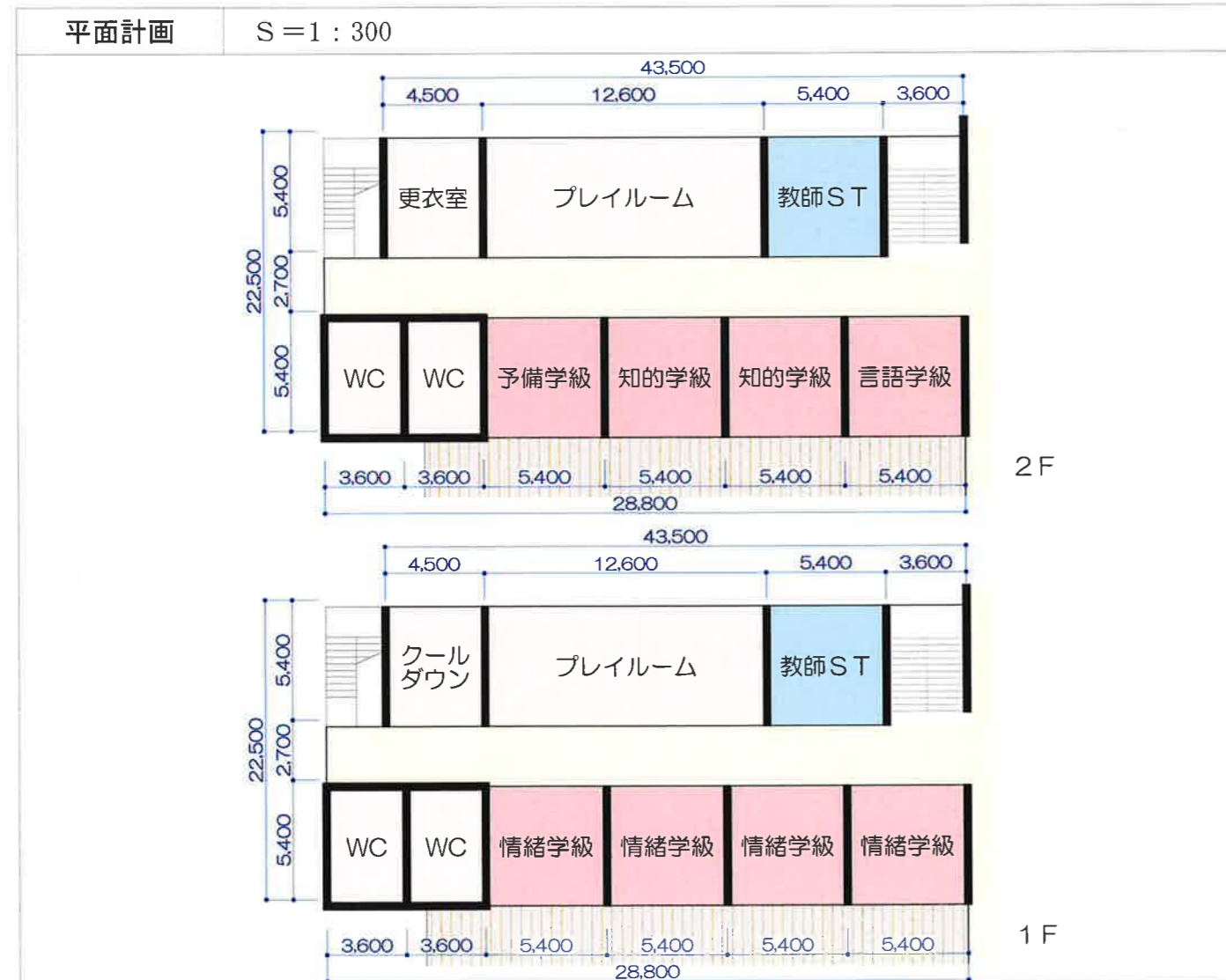
ゾーン	学習ゾーン
分類	サイエンスルーム・コミュニケーションルーム
ゾーンの数	1
利用目的	-
基本方針	メディアセンター吹き抜け上部周りに特別教室を配置する。また、北側の外の部屋では目的に応じて様々な授業展開が可能なものとする。
ゾーンの面積	670.68㎡



室名	サイエンスルーム1・2	準備室	コミュニケーションルーム	楽器庫・教材室
室数	2/学習ゾーン	2/学習ゾーン	1/学習ゾーン	1/学習ゾーン
室面積	174.96㎡	29.16㎡	87.48㎡	43.74㎡
最大定員	-	-	-	-
天井高	2.7m	2.4m	2.7m	2.4m
用途	簡易な実験・実習等の授業に使用するスペース。一体的に使用することも、2教室に分けることもできる仕様とする。	器具や薬品の保管。授業で取り扱う資料や道具を保管する。	英語教育・音楽の授業を行うスペース。	楽器の収納。音楽・英語で使用する教材の保管。
基本方針	基本的にはオープンに使用できる。薬品を扱う実験などを行う際は、閉じることのできる仕様とする。	サイエンスルームと隣り合った位置に設け、直接出入りできるものとする。	発声したり音を出す授業が中心なため、隣接するスペースへの影響を考慮する。	-
仕上	床	フローリング	ビニルシート	フローリング
	壁	木質系仕上げ+可動間仕切り ※掲示可能な壁面	コンクリート打ち放し仕上	木質系仕上げ ※掲示可能・吸音性の高い壁面
	天井	岩綿吸音板	化粧石膏ボード	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報・プロジェクタ	照明・コンセント・自火報	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報・プロジェクタ
	給排水	給水・排水・流し	-	流し
	空調	冷暖房・換気設備	換気設備	冷暖房・換気設備
	黒板	ホワイトボード	-	ホワイトボード・五線入り黒板
装備	収納	器具収納棚	器具収納棚・薬品庫	-
	清掃用具	清掃用具入れ	清掃用具入れ	清掃用具入れ
	掲示	-	-	ピクチャーレール
	カーテンブラインド	カーテンレール	-	カーテンレール
	他	実験台12台(3人1組) 教師用実験台	-	-
備品	机・イス	イス	-	イス
	収納	-	-	可動式収納ボックス
	掲示	-	-	可動式掲示板・ホワイトボード
	カーテンブラインド	暗幕	-	カーテン
備考	ガラスで通路と仕切る	-	ガラススクリーンまたは可動間仕切り	ピアノ

6) 特別支援ゾーン

ゾーン	学習・生活ゾーン
分類	特別支援ゾーン
ゾーンの数	1
利用目的	-
基本方針	各教室には、いすと机の他、ロッカーや手洗い、配膳台やホワイトボード等を配置する。生徒においては様々なものに興味がそれてしまうため、学習に集中できるように、出来るだけシンプルで、落ち着いたつくりとなるようにレイアウトする。 また、教師STを近接させ常に近くに大人がいる環境に計画する。 動線においても、昇降口から直接特別支援ゾーンに移動できるものとする。
ゾーンの面積	709.56㎡



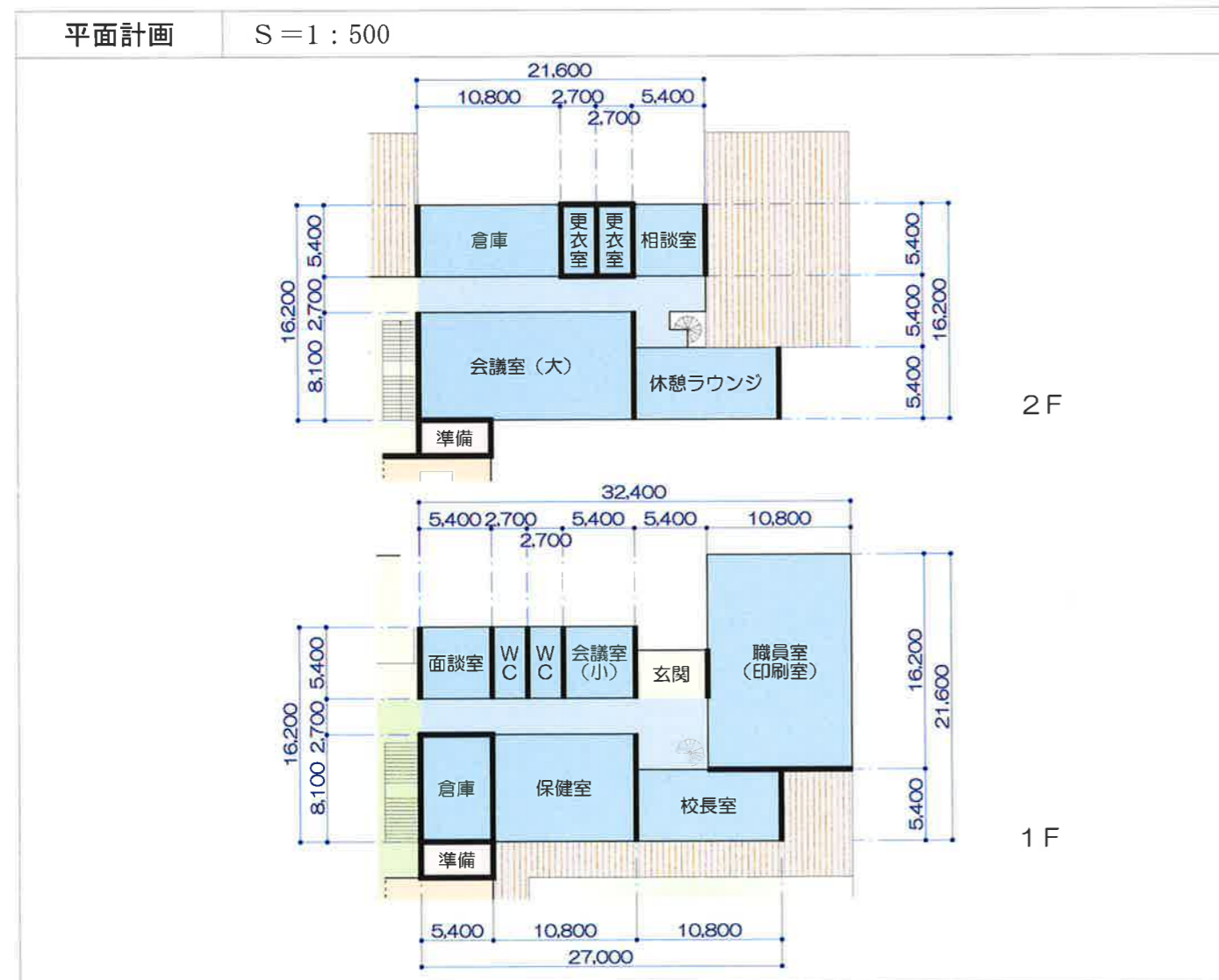
室名	特別支援学級	教師ステーション	プレイルーム
室数	8/特別支援ゾーン	2/特別支援ゾーン	2/特別支援ゾーン
室面積	29.16㎡	29.16㎡	68.04㎡
最大定員	-	-	-
天井高	2.7m	2.7m	2.7m
用途	知的・言語・情緒等、教育上特別な支援が必要な児童のための学級。	休み時間等に先生が待機する場所。また、授業に必要な教材スペース。	複数のクラスでの学習や、簡易な作業、イベントなど、多様な使い方が出来る空間として計画する。
基本方針	学習・生活において気が散らないようなレイアウト・工夫を施す。	児童の出入りを把握できるように特別支援ゾーン入り口付近に設ける。	落ち着いたある清潔な場所とする。
仕上	床	フローリング	カーペットタイル (フリーアクセスフロア)
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN ・自火報・プロジェクタ	照明・コンセント・TV・無線LAN ・自火報
	給排水	流し・手洗い	なし
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	ホワイトボード	-
	収納	収納棚	-
	清掃用具	清掃用具入れ	-
	掲示	ピクチャーレール	ピクチャーレール
	カーテン ブラインド	カーテンレール	カーテンレール
	他		
備品	机・イス	児童用机・イス/教師用机・イス	テーブル・イス
	収納	児童用ロッカー	可動式収納ボックス
	掲示	-	可動式掲示板・ホワイトボード
	カーテン ブラインド	カーテン	カーテン
	他		
備考			

室名	クールダウンルーム	更衣室	WC
室数	1/特別支援ゾーン	1/特別支援ゾーン	4/特別支援ゾーン(男女別)
室面積	24.30㎡	24.30㎡	29.16㎡
最大定員	-	-	-
天井高	2.4m	2.4m	2.4m
用途	落ち着いたある北側に配置。主に情緒学級の児童が利用するものとする。	主に情緒学級の児童が利用するものとする。	-
基本方針	落ち着いた内装とする。	明るく、通気性のよい環境とする。	明るく清潔な場所とする。広めのトイレに加えてシャワールーム・汚物流し・洗濯機置き場を設置する。
仕上	床	フローリング	フローリング
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ
	天井	岩綿吸音板	化粧石膏ボード
設備	電気	照明・コンセント・自火報	照明・コンセント・自火報
	給排水	-	給水・排水・手洗い
	空調	冷暖房・換気設備	換気設備
装備	黒板	-	-
	収納	-	-
	清掃用具	-	清掃用具入れ
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	カーテンレール	-
	他	-	大型鏡
			-
備品	机・イス	ソファ	-
	収納	-	-
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	カーテン	-
	他		
備考	言語学級には観察室を設置。 (1.8m×1.8m程度)		

室名			
室数			
室面積			
最大定員			
天井高			
用途			
基本方針			
仕上	床		
	壁		
	天井		
設備	電気		
	給排水		
	空調		
装備	黒板		
	収納		
	清掃用具		
	掲示		
	カーテン ブラインド		
	他		
備品	机・イス		
	収納		
	掲示		
	カーテン ブラインド		
	他		
備考			

7) 校務ゾーン

ゾーン	校務ゾーン
分類	校務センター
ゾーンの数	2 (1・2F)
利用目的	教師の活動・交流拠点
基本方針	子どもの登下校や来校者の出入りが把握しやすいように主たる諸室は地上階に設ける。
ゾーンの面積	1092.89㎡



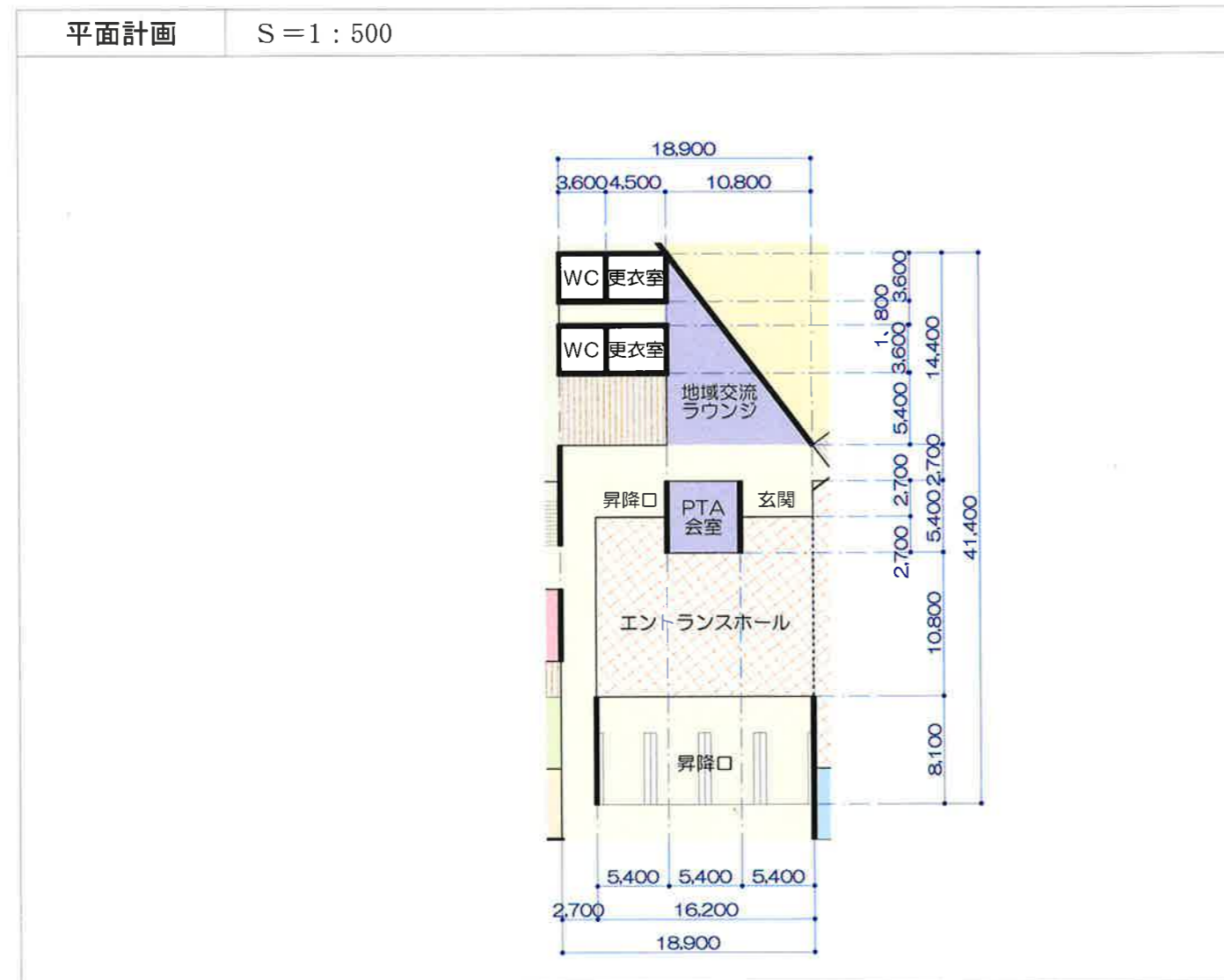
室名	職員室 (印刷室)	校長室	保健室 (+カウンセリング室)
室数	1/校務ゾーン	1/校務ゾーン	1/校務ゾーン
室面積	174.96㎡	58.32㎡	87.48㎡
最大定員	-	-	-
天井高	2.7m	2.7m	2.7m
用途	先生の活動拠点となる。また、印刷室・放送室を併設する。	来客時の応接室としても使用できるものとする。	児童の健康管理・病気や怪我の手当てを行う。また、室内にはWC・シャワーを設置する。
基本方針	運動場・昇降口などの外部の様子が見渡せ、校舎内各所への移動が容易な位置に設ける。	職員室に隣接させる。職員室と廊下の両方から出入りできるものとする。	外部から直接出入りできる出入り口を設ける。明るく落ち着いたインテリアとする。
仕上	床	カーペットタイル (フリーアクセスフロア)	カーペットタイル (フリーアクセスフロア)
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ
設備	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板
	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN・TEL・自火報・放送卓・総合防災盤	照明・コンセント・TV・無線LAN・TEL・自火報
	給排水	手洗い	給湯・給水・排水・シャワー・汚物流し
装備	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備
	黒板	行事予定ホワイトボード	ホワイトボード
	収納	収納棚	書類収納棚・ロッカー
	清掃用具	清掃用具入れ	計測器収納棚・薬品戸棚
	掲示	掲示板	掲示板・ピクチャーレール
	カーテンブラインド	カーテンレール	カーテンレール (ベッド廻り)
	他	-	洗面化粧台
備品	机・イス	ワーキングテーブル・イス×40~50	ワーキングテーブル・イス
	収納	書類キャビネット・職員用ロッカー	応接イス・応接テーブル
	掲示	-	可動式パーティション
	カーテンブラインド	カーテン	カーテン
備考	-	-	収納式ベッド×3
	-	-	治療用長いす・診察台
	-	-	計測機器
	-	-	外部テラスに足洗い設置

室名	休憩ラウンジ	会議室（大）	会議室（小）	
室数	1/校務ゾーン	1/校務ゾーン	1/校務ゾーン	
室面積	58.32㎡	131.22㎡	29.16㎡	
最大定員	-	-	-	
天井高	2.7m	2.7m	2.7m	
用途	職員に休憩・談話スペース。 給湯室を兼ねる。	職員会議等の各種会議を行うスペース。	-	
基本方針	職員同士のコミュニケーションが取りやすいように掲示板やキッチンを装備する。	全体会議を行えるようにする。職員全員が収容できるスペースを確保。	個人面談や少人数で行われる打合せ等で使用する。相談室・面談室との併用も考慮する。	
仕上	床	フローリング	カーペットタイル (フリーアクセスフロア)	フローリング
	壁	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面	木質系仕上げ	木質系仕上げ
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報・プロジェクタ	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報
	給排水	給湯・給水・排水	-	-
	空調	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	ホワイトボード	-	-
	収納	収納棚	-	-
	清掃用具	-	-	-
	掲示	-	ピクチャーレール	ピクチャーレール
	カーテン ブラインド	カーテンレール	カーテンレール	カーテンレール
	他	システムキッチン	-	-
	-	-	-	-
備品	机・イス	テーブル・イス	長テーブル・イス	テーブル・イス
	収納	食器戸棚	-	-
	掲示	-	可動式掲示板・ホワイトボード	可動式掲示板・ホワイトボード
	カーテン ブラインド	カーテン	カーテン	カーテン
	他	冷蔵庫・電子レンジ	-	-
備考	-	-	-	
-	-	-	-	

室名	倉庫	職員用WC	玄関	
室数	2/校務ゾーン（1・2F）	2/校務ゾーン（1・2F）	1/校務ゾーン	
室面積	102.06㎡（1・2F合わせて）	14.58㎡	19.44㎡	
最大定員	-	-	-	
天井高	2.4m	2.4m	2.7m	
用途	学校の資料関係や備品を保管するスペース。	-	-	
基本方針	整理しやすいようなレイアウトにする。また、書庫としての機能も果たす。	来客用WCも兼用する。また、多目的WCを備える。	職員・来客用玄関。	
仕上	床	ビニルシート	フローリング	磁器質タイル（乾式）
	壁	コンクリート打ち放し仕上	コンクリート打ち放し仕上	コンクリート打ち放し仕上
	天井	化粧石膏ボード	化粧石膏ボード	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・自火報	照明・コンセント・自火報	照明・コンセント・自火報
	給排水	-	衛生器具（洋式トイレ）	-
	空調	換気設備	換気設備	換気設備
装備	黒板	-	-	-
	収納	収納戸棚（鍵付）/用紙保管棚	-	下足入れ
	清掃用具	-	清掃用具入れ	清掃用具入れ
	掲示	-	-	-
	カーテン ブラインド	-	-	-
	他	-	鏡	傘立て・大型鏡
	-	-	-	-
備品	机・イス	-	-	-
	収納	-	-	-
	掲示	-	-	-
	カーテン ブラインド	-	-	-
	他	-	-	-
備考	-	-	-	
-	-	-	-	

8) 昇降口・地域交流

ゾーン	地域・共用ゾーン
分類	昇降口・地域交流
ゾーンの数	1
利用目的	-
基本方針	校舎内（校務ゾーンを除く）の出入り口を1つのゾーンに集約する。児童・特別支援学級・地域解放時の来校者の昇降口を個別に持ちながらも、1つのゾーンに集約し、この学校施設の顔としての役割を果たす。このエントランスホールは半外部空間とし、イベント等の際に全校児童が集まれるような場とする。
ゾーンの面積	741.96㎡



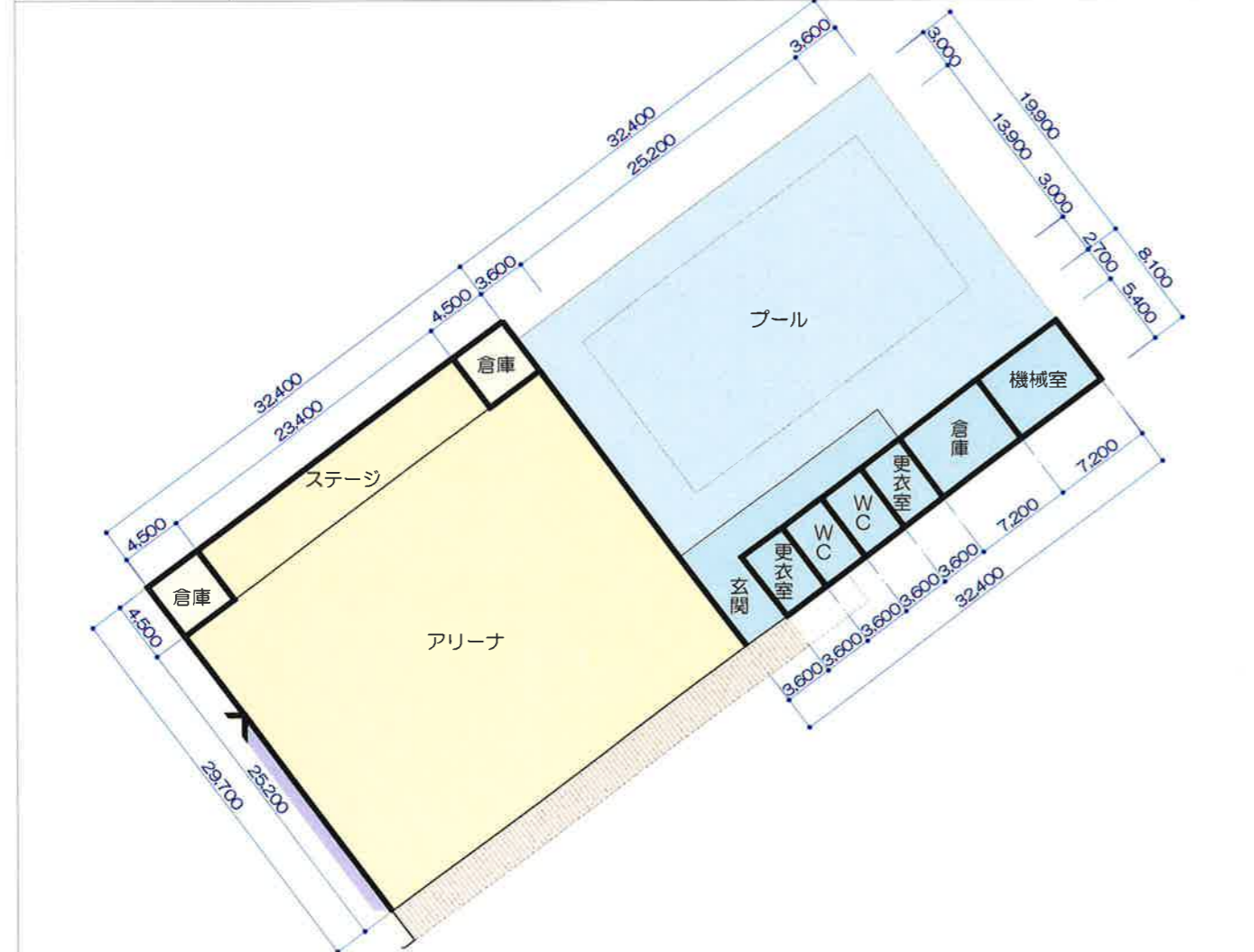
室名	昇降口・昇降口(特別支援)・玄関	P T A会室	地域交流ラウンジ
室数	3 / 昇降口	1 / 地域交流ゾーン	1 / 地域交流ゾーン
室面積	-	29.16㎡	77.76㎡
最大定員	-	-	-
天井高	2.7m	2.7m	2.7m
用途	学校の玄関。半外部のエントランスホールは、雨天時には全校集会も行える。	P T Aの会合・作業のためのスペース	地域の方の打合せや作業等で使用する。また、地域の方同士や地域の方と児童の団欒スペース。
基本方針	児童・特別支援学級・地域解放時の来校者の昇降口は分けて、地域開放の際には他のゾーン出入りできない処置を講じる。	玄関に近く、保護者が出入りしやすい位置に設ける。	玄関近くにオープンなスペースとして配置する。統合する7校のメモリアルホールでもある。
仕上	床	磁器質タイル(乾式)	フローリング
	壁	コンクリート打ち放し仕上	木質系仕上げ ※掲示可能な壁面
	天井	岩綿吸音板	岩綿吸音板
設備	電気	照明・コンセント・自火報	照明・コンセント・TV・無線LAN・自火報
	給排水	-	-
	空調	換気設備	冷暖房・換気設備
装備	黒板	-	-
	収納	下足入れ	収納戸棚
	清掃用具	清掃用具入れ	清掃用具入れ
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	-	カーテンレール
	他	傘立て	-
備品	机・イス	-	テーブル・イス
	収納	-	-
	掲示	-	可動式ホワイトボード
	カーテン ブラインド	-	カーテン
備考	-	-	-

9) 体育館・プール

ゾーン	運動施設ゾーン
-----	---------

分類	体育館・プール
ゾーンの数	1
利用目的	体育の授業・地域開放
基本方針	体育の授業の際に移動がスムーズになるような動線を考慮する地域開放をする際には、校内のほかの部分と区画ができる処置を講じる。
ゾーンの面積	517.59㎡

平面計画	S=1:500
------	---------



室名	アリーナ・ステージ	倉庫	
室数	1/体育館ゾーン	2/体育館ゾーン	
室面積	921.78㎡	20.25㎡	
最大定員	-	-	
天井高	10.8m	2.4m	
用途	体育の授業。 地域開放。	休み時間等に先生が待機する場所。また、授業に必要な教材スペース。	
基本方針	大勢の人数が移動する際に対応できるような動線を確保する。また、体育館で発生する音に対して考慮する。	開かれたスペースとし、児童の質問や相談を気軽に受けることができる。	
仕上	床	フローリング（鋼製床下地）	ビニルシート
	壁	コンクリート打ち放し仕上	コンクリート打ち放し仕上
	天井	グラスウールボード	コンクリート打ち放し仕上
設備	電気	照明・コンセント・無線LAN・自火報・放送卓・放送機器	照明・コンセント・自火報
	給排水	-	-
	空調	換気設備	換気設備
装備	黒板	-	-
	収納	-	-
	清掃用具	-	清掃用具入れ
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	暗幕	-
	他	イス収納台車・舞台装置	-
備品	机・イス	パイプイス	-
	収納	-	-
	掲示	-	可動式ホワイトボード
	カーテン ブラインド	-	-
	他	スクリーン	-
備考	ステージ（暗幕あり）	-	-
	-	-	-

室名	プール	玄関	更衣室
室数	1/プールゾーン	1/プールゾーン	2/プールゾーン
室面積	-	29.16㎡	19.44㎡
最大定員	-	-	-
天井高	-	2.4m	2.4m
用途	-	-	-
基本方針	25m6コースを用意する。 プールサイドは適切な広さを確保する。	-	明るく清潔な場所とする。
仕上	床	タイル、塗床	タイル（乾式）
	壁	-	コンクリート打ち放し仕上
	天井	-	コンクリート打ち放し仕上
設備	電気	-	照明・コンセント・自火報
	給排水	シャワー・循環ろ過設備	手洗い
	空調	-	冷暖房・換気設備
装備	黒板	-	-
	収納	-	-
	清掃用具	-	清掃用具入れ
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	-	-
	他	-	大型鏡
	-	-	-
備品	机・イス	-	-
	収納	-	ロッカー
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	-	-
	他	-	-
備考	シャワーコーナー	-	-
		-	-

室名	WC	倉庫	機械室
室数	2/プールゾーン	1/プールゾーン	1/プールゾーン
室面積	19.44㎡	38.88㎡	38.88㎡
最大定員	-	-	-
天井高	2.4m	2.4m	2.4m
用途	-	コースロープ・ビート板等、 授業で使用する用具の保管。	-
基本方針	更衣室に併設する。	プールサイドに面して設ける。	-
仕上	床	タイル（乾式）・塗床	塗床
	壁	コンクリート打ち放し仕上	コンクリート打ち放し仕上
	天井	珪酸カルシウム板	珪酸カルシウム板
設備	電気	照明・コンセント・自火報	照明・コンセント・自火報
	給排水	衛生機器（洋式トイレ）・手洗い	なし
	空調	換気設備	換気設備
装備	黒板	-	-
	収納	-	-
	清掃用具	清掃用具入れ	清掃用具入れ
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	-	-
	他	鏡	-
	-	-	-
備品	机・イス	-	-
	収納	-	-
	掲示	-	-
	カーテン ブラインド	-	-
	他	-	-
備考	-	-	-
	-	-	-



---

## 6. 構造計画

### (1) 構造種別の比較検討

## 6. 構造計画

### (1) 構造種別の比較検討

- ・ 構造種別を以下のように比較し、コンクリート造を基本とした計画とします。

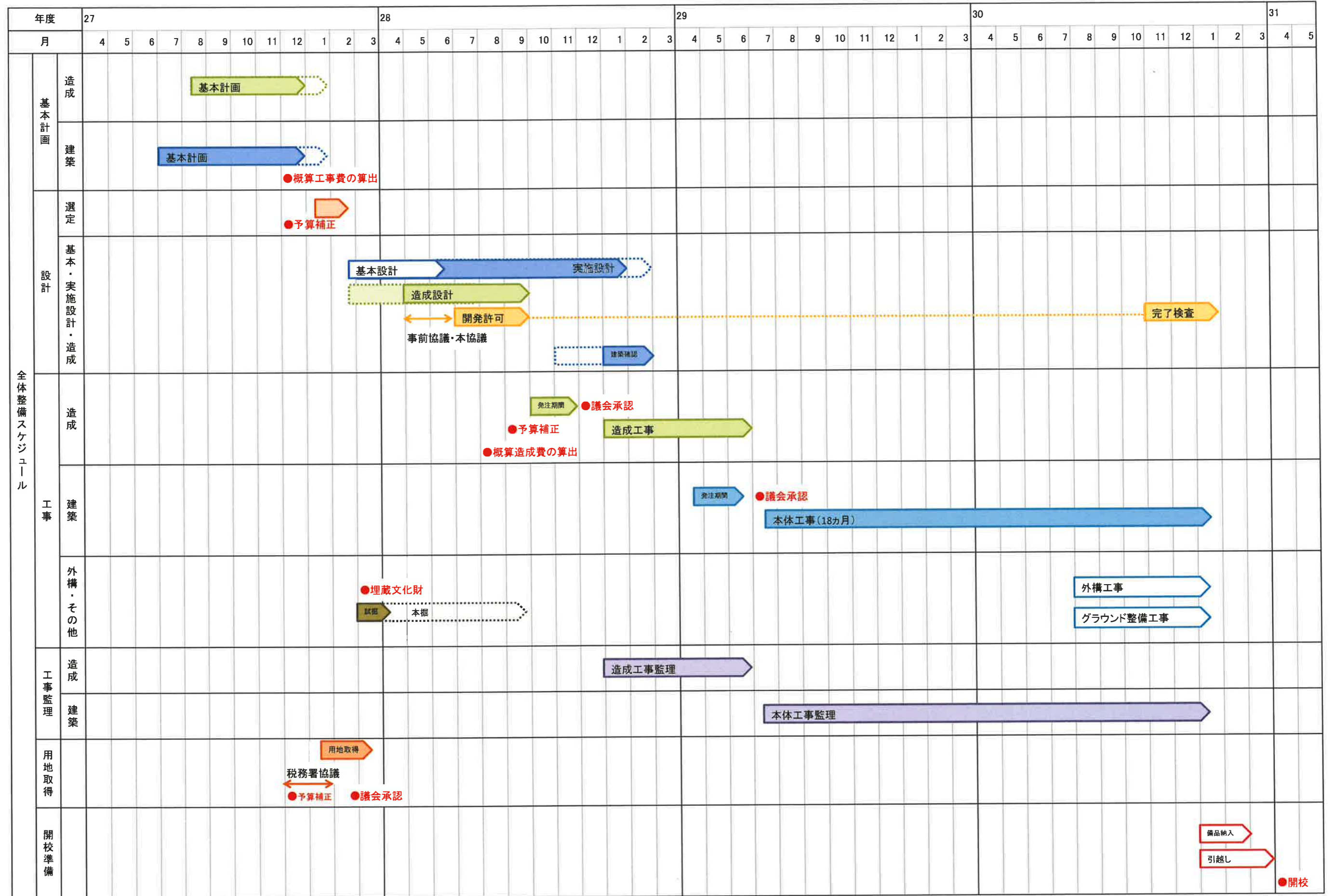
種類		RC造		鉄骨造	
コスト (直接工事費)	躯体	80,000円/㎡		65,000円/㎡	
	仕上	80,000円/㎡	外部 40,000円/㎡	95,000円/㎡	外部 55,000円/㎡
			内部 40,000円/㎡		内部 40,000円/㎡
	電気設備	25,000円/㎡		25,000円/㎡	
	機械設備	35,000円/㎡		35,000円/㎡	
合計	220,000円/㎡		220,000円/㎡		
法令への 対応	防火区画	○	壁はRC壁でよく、他の壁との取合いが単純である。 開口部の防火戸、防火シャッターは、RC躯体に取付けることで、納まりが単純になる。	△	壁は乾式となり、鉄骨との取合い部等が複雑になる。取合い部の隙間は、ボードやロックウール等で塞ぐ必要がある。 開口部の防火戸、防火シャッターは、鉄骨に取り付けても区画が完結しないので、ボードやロックウール等で隙間を塞ぐ必要がある。
	防火上主要な 間仕切	○	RC壁としても、乾式の壁としても、RC壁に接すれば完結するので、納まりが単純である。	△	防火上主要な間仕切り壁と、鉄骨との取合い部等で、納まりが複雑になる。
防衛省防音補助 工事への対応 (防音3級の場合)	躯体	○	120mm厚以上のRC壁でよい。	△	RC造と同等の防音性能を確保するためには、厚60mm押出成形セメント板、厚50mmグラスウール、厚50mm空気層、厚12mm石膏ボードと4層の層構成が必要である。
	開口部	○	防音サッシ(3級用)を設ける。	△	防音サッシ(3級用)となるが、RC造用のサッシしかないため、役物が必要となり、コスト増になる。
メンテナンス の容易性	外壁	○	外壁は一体的で、取合い部が少ないため、漏水可能性が低い。	△	外壁が乾式となり、シーリング取合いが多い。

## 第IV章. 実現のための検討

---

1. 全体事業スケジュール
2. 概算工事費
3. 維持管理計画

# 1. 全体事業スケジュール



## 2. 概算工事費

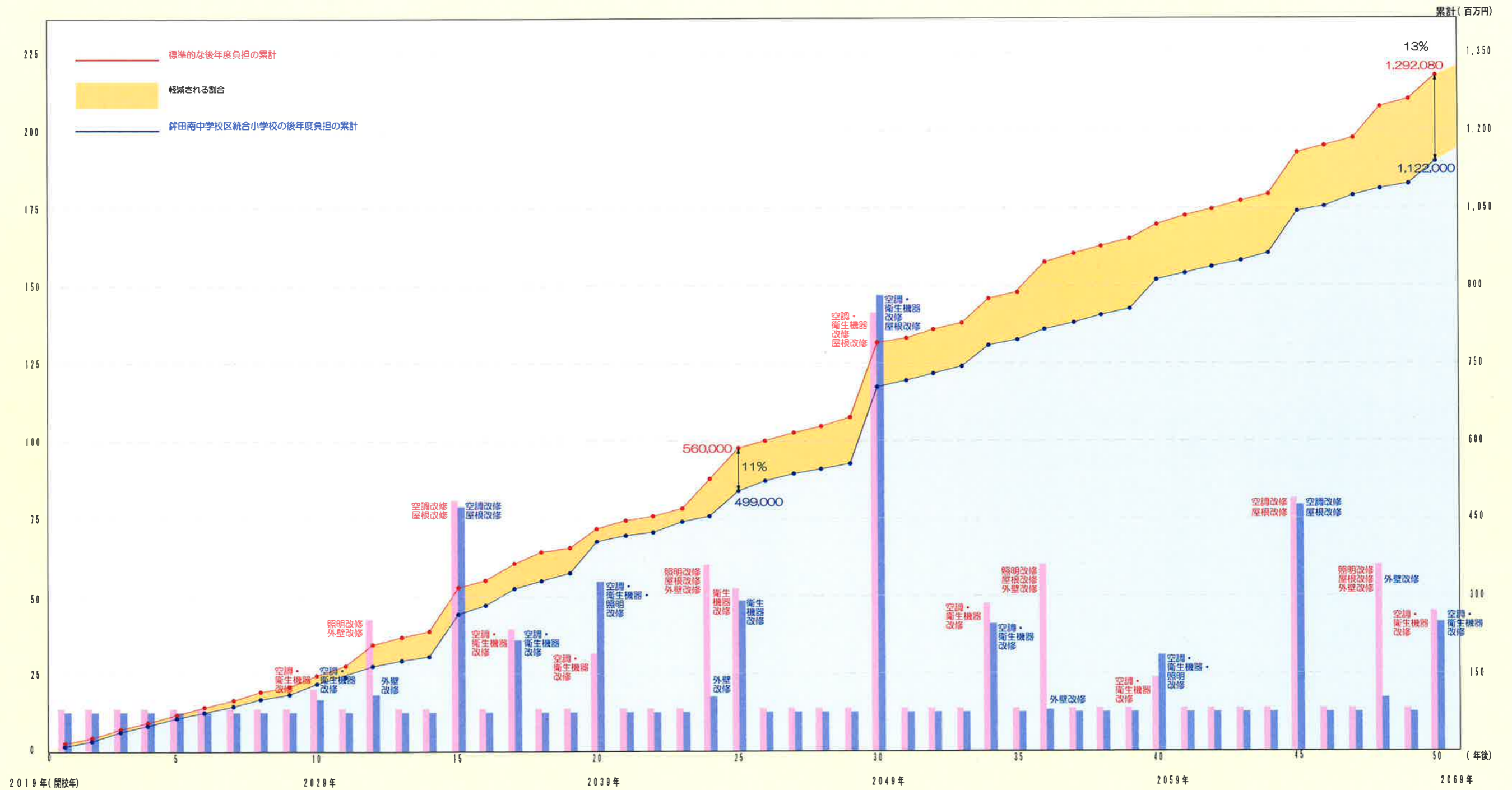
工事種別		概算費(千円)	計算根拠	備考
校舎	建築工事	1,170,000		
	電気設備工事	180,000		
	機械設備工事	240,000		
	昇降機設備工事	10,000		
	直接工事費	1,600,000		
	共通費	344,000	直接工事費の 21%	
	工事価格	1,944,000		延床面積の上限:約7200㎡ 工事価格の単価:270,000円/㎡
	消費税	194,400	消費税 10%	
	<b>工事費計</b>	<b>2,138,400</b>		
体育館	建築工事	320,000		
	電気設備工事	40,000		
	機械設備工事	12,000		
	直接工事費	372,000		
	共通費	78,000	直接工事費の 21%	
	工事価格	450,000		延床面積の上限:約1500㎡ 工事価格の単価:300,000円/㎡
	消費税	45,000	消費税 10%	
		<b>工事費計</b>	<b>495,000</b>	
敷地内 プール	建築工事	110,000		
	電気設備工事	4,000		
	機械設備工事	13,000		
	直接工事費	127,000		
	共通費	27,000	直接工事費の 21%	
	工事価格	154,000		
	消費税	15,400	消費税 10%	
		<b>工事費計</b>	<b>169,400</b>	
太陽光発電	直接工事費 計	60,000	10,000,000 円/10kw × 60kw	
	共通費	9,000	直接工事費の 15%	
	工事価格	69,000		
	消費税 8%	6,900	消費税 10%	
	<b>工事費計</b>	<b>75,900</b>		
外構工事	直接工事費 計	110,000		
	共通費	22,000	直接工事費の 20%	
	工事価格	132,000		
	消費税	13,200	消費税 10%	
	<b>工事費計</b>	<b>145,200</b>		
造成工事	直接工事費 計	90,000		
	共通費	54,000	直接工事費の 60%	
	工事価格	144,000		
	消費税	14,400	消費税 10%	
	<b>工事費計</b>	<b>158,400</b>		
<b>工事費総計</b>		<b>3,182,300</b>		
敷地外 上水工事	直接工事費 計			
	共通費			
	工事価格			
	消費税			
	<b>工事費計</b>			
敷地外 下水工事	直接工事費 計			
	共通費			
	工事価格			
	消費税			
	<b>工事費計</b>			
敷地外 給排水工事	直接工事費 計			
	共通費			
	工事価格			
	消費税			
	<b>工事費計</b>			

### 3. 維持管理計画

#### (1) 維持管理計画比較表

鉾田南中学校区統合小学校と従来型の標準的な小学校の後年度負担についての比較は以下の表の通りです。  
鉾田南中学校区統合小学校は、建築的工夫・設備的工夫によりエネルギーコストを軽減し、設備更新に伴う内装改修・仮設費用を抑制し、材料・器具の長寿命化を図っています。  
鉾田南中学校区統合小学校の後年度負担額の詳細はP67、従来型の標準的な小学校の年度負担額の詳細はP68によります。

各年の負担(百万円)

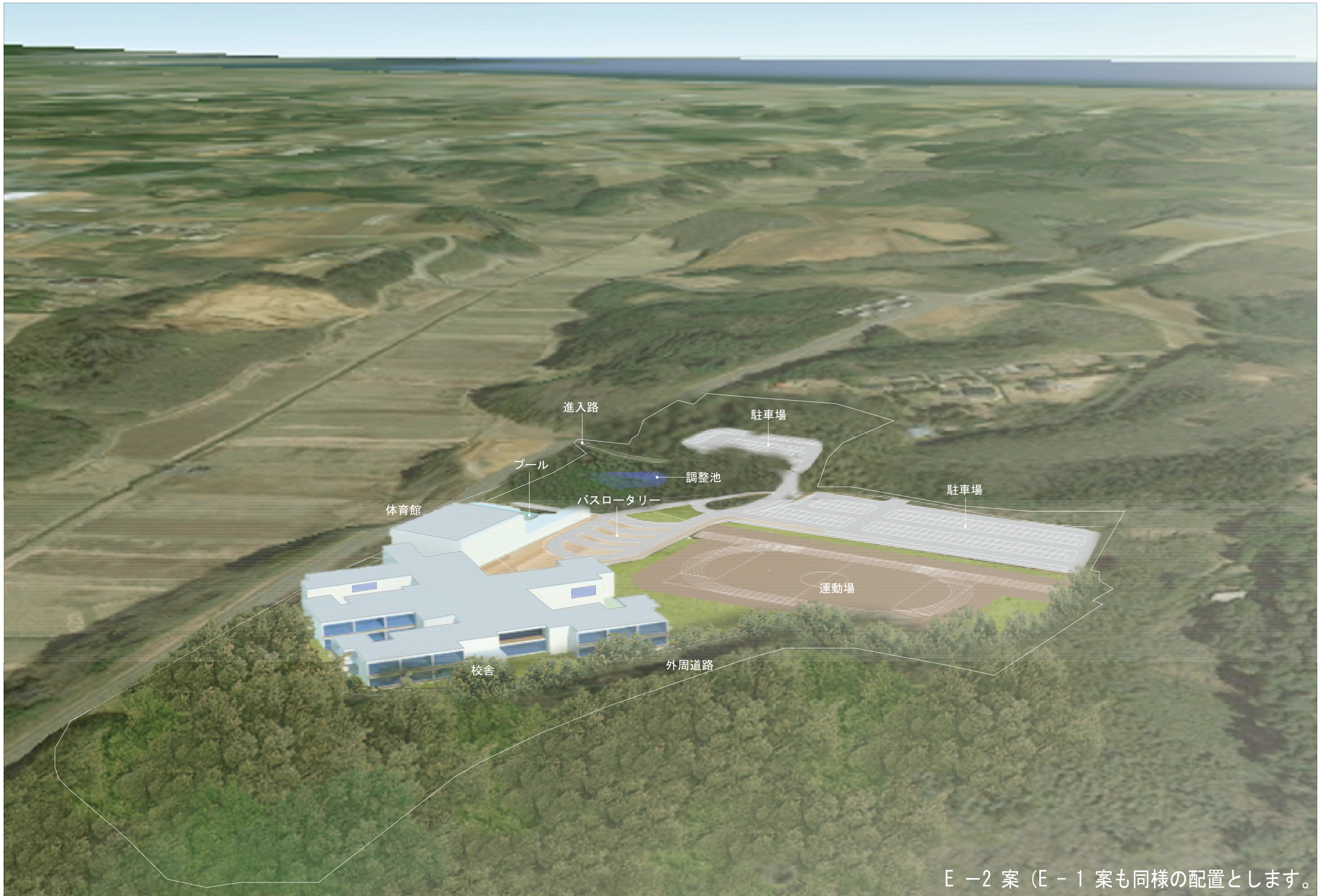


※太陽光発電設備による発電を考慮せずに算出しています。









E-2 案 (E-1 案も同様の配置とします。)

※具体的な建物のイメージではなく、配置を表現するものです。

## 付録

---

1. 参考事例の調査
2. 「鉾田南中学校区統合小学校検討委員会」協議録
3. 鉾田南中学校区 各小学校概要

---

## 1. 参考事例の調査

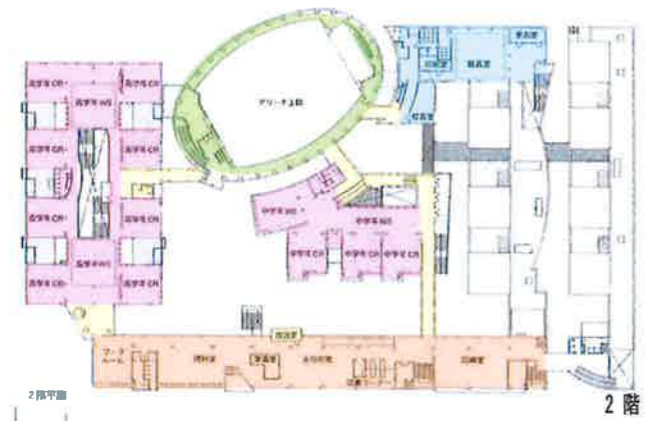
# 1. 参考事例の調査

## (1) 参考事例目次

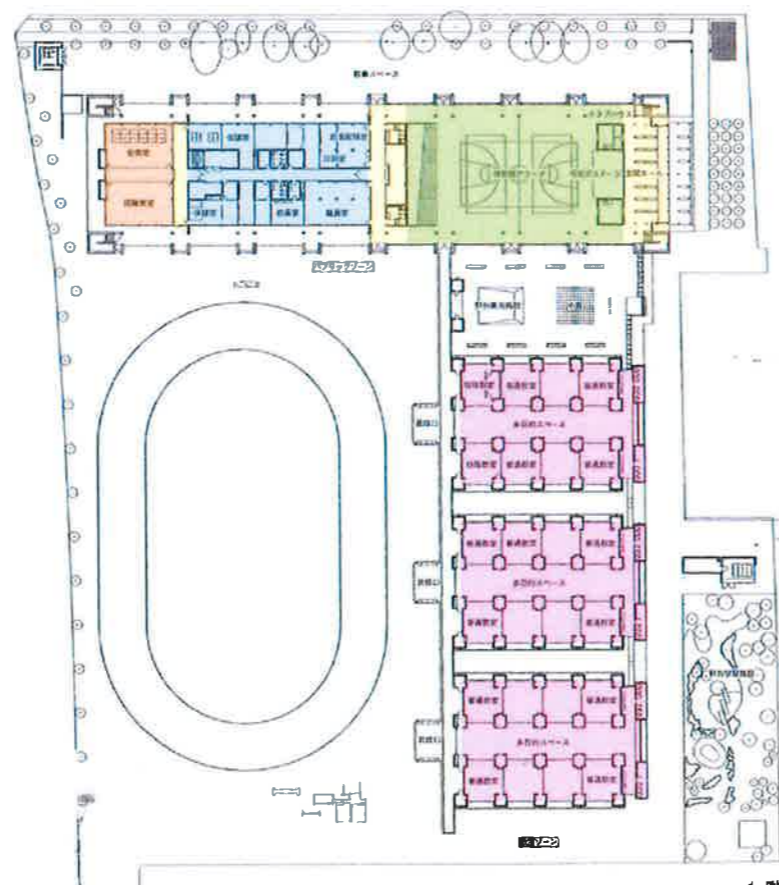
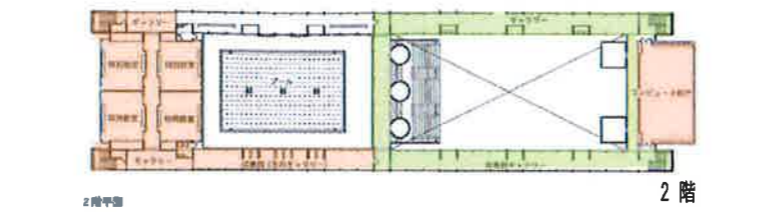
1995年以降国内に作られたオープンスクールタイプの小学校を調査対象として収集しました。  
学年ゾーンのつくり方、特別教室ゾーンのつくり方、体育館の位置等の視点から分析を行いました。

学校名	所在地	竣工年	クラス数	面積 (㎡)	階数		構造	図版出典	普通教室ゾーン		特別教室ゾーン	体育館
					地上	地下			ゾーンの構成	向き・配置	ゾーンの構成	他の棟との関係
1 打瀬小学校	千葉県千葉市	1995	18	7,584	2階	-	RC造一部S造	新建築1995年7月	低学年、中学年、高学年毎にクラスターを構成。低学年ゾーンは1階、中学年ゾーンは1・2階、高学年ゾーンは2階に配置。	普通教室は方位に関係なく、OSの両側に配置。南面に、OSの片側に配置。	ゾーン毎に配置。ゾーン内の各教室はオープン、又は、ギャラリーで接続。	校舎と一体。
2 白石市立第二小学校	宮城県白石市	1996	24	8,823	2階	-	RC造一部S造	新建築1996年11月	低学年、中学年、高学年毎にクラスターを構成。全学年ゾーンは1階に配置。	普通教室は方位に関係なく、OSの両側に配置。	ゾーン毎に配置。ゾーン内の各教室はギャラリーで接続。	校舎と一体。
3 千川小学校	東京都武蔵野市	1997	15	10,091	4階	1階	RC造	新建築1997年11月	低学年、中学年、高学年毎にクラスターを構成。低学年ゾーンは1階、中学年ゾーンは2階、高学年ゾーンは3階に配置。	普通教室は南面・東面に、OSの片側に配置。	ゾーン毎に配置。ゾーン内はオープン、又は、ギャラリーで接続。	校舎と分離。
4 桜丘小学校	東京都世田谷区	1999	21	9,406	4階	-	RC造一部S造	建築設計資料集成[教育・図書]	低学年、中学年、高学年毎にクラスターを構成。低学年ゾーンは2階、中学年ゾーンは3階、高学年ゾーンは4階に配置。	普通教室は南面に、OSの片側に配置。	ゾーン毎に配置。ゾーン内の各教室はクロード。	校舎と一体。
5 若葉台小学校	東京都稲城市	1999	20	6,340	2階	1階	RC造+木造	新建築1999年6月	学年毎にクラスターを構成。123年生ゾーンは1階、456年生ゾーンは2階に配置。	普通教室は方位に関係なく、OSの両側に配置。	ゾーン毎に配置。ゾーン内の各教室はオープンに接続。	校舎と分離。
6 品野台小学校	愛知県瀬戸市	1999	8	5,649	2階	-	RC造一部S造	新建築1999年12月	全学年一体で1階に配置。	普通教室は南面に、OSの片側に配置。	一体的に配置。各教室はホールで接続。	校舎と分離。
7 いには野小学校	千葉県印西市	2000	18(1)	7,100	3階	-	RC造SRC造S造	建築設計資料105学校3	低学年、中学年、高学年毎にクラスターを構成。低中学年ゾーンは1階、高学年ゾーンは2階に配置。	低学年の普通教室は南面・東面に、OSの片側に配置。中高学年の普通教室は方位に関係なく、OSの両側に配置。	ゾーン毎に配置。ゾーン内の各教室はオープンに接続。	校舎と分離。
8 博多小学校	福岡県福岡市	2001	18	12,358	5階	-	RC造一部S造	建築設計資料105学校3	低学年、中学年、高学年毎にクラスターを構成。低学年ゾーンは2階、中学年ゾーンは3階、高学年ゾーンは4階に配置。	普通教室は方位に関係なく、OSの両側に配置。	ゾーン毎に配置。ゾーン内の各教室はオープンに接続。	校舎と分離。
9 芦原小学校	埼玉県戸田市	2004	18(6)	11,245	3階	-	RC造SRC造S造	建築設計資料105学校3	低学年、中学年、高学年毎にクラスターを構成。低学年ゾーンは1階、中高学年ゾーンは3階に配置。	低学年教室は南面に、OSの片側に配置。中高学年教室は方位に関係なく、OSの片側に配置。	一体的に配置。各教室はオープン。	校舎と一体。
10 美浜打瀬小学校	千葉県千葉市	2006	24	9,206	2階	-	RC造一部S造	日経7-777177特別編集版	学年毎にクラスターを構成。123年生ゾーンは1階、456年生ゾーンは両側に配置。	普通教室は方位に関係なく、OSの両側に配置。	ゾーン毎に配置。ゾーン内の各教室はギャラリーで接続。	校舎と一体。
11 宇土小学校	熊本県宇土市	2011	24	8,570	2階	-	RC造一部S造	新建築2012年5月	低学年、中学年、高学年毎にクラスターを構成。低学年ゾーンは1階、中高学年ゾーンは2階に配置。	低中学年教室は南面に、OSの片側に配置。高学年教室は方位に関係なく、OSの三方に配置。	一体的に配置。各教室はオープン。	校舎と一体。
12 山鹿小学校	熊本県山鹿市	2015	24(3)	8,167	2階	-	RC造一部W造	新建築2012年12月	低学年、中学年、高学年毎にクラスターを構成。低中学年ゾーンは1階、高学年ゾーンは2階に配置。	普通教室は南面に、OSの片側に配置。	ゾーン毎に配置。各教室は、クロード。	校舎と分離。

クラス数の( )内の数字は、特別支援教室の数を示します。



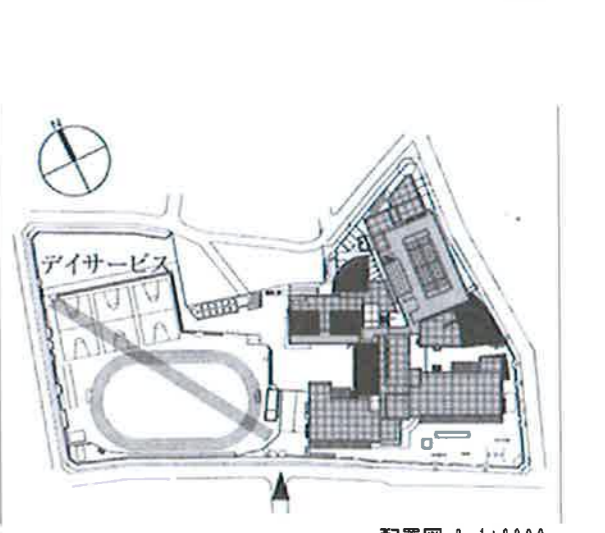
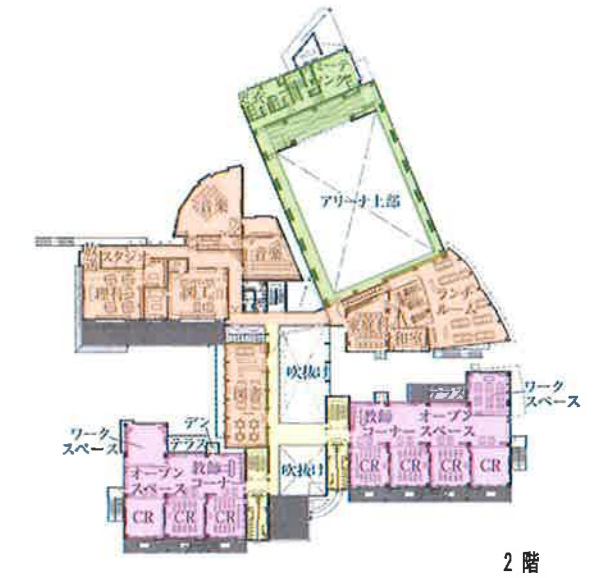
配置図 S=1:3000  
千葉県千葉市立打瀬小学校 (1995年)



1階平面 縮尺1/1,000  
宮城県白石市立白石第二小学校 (1996年)



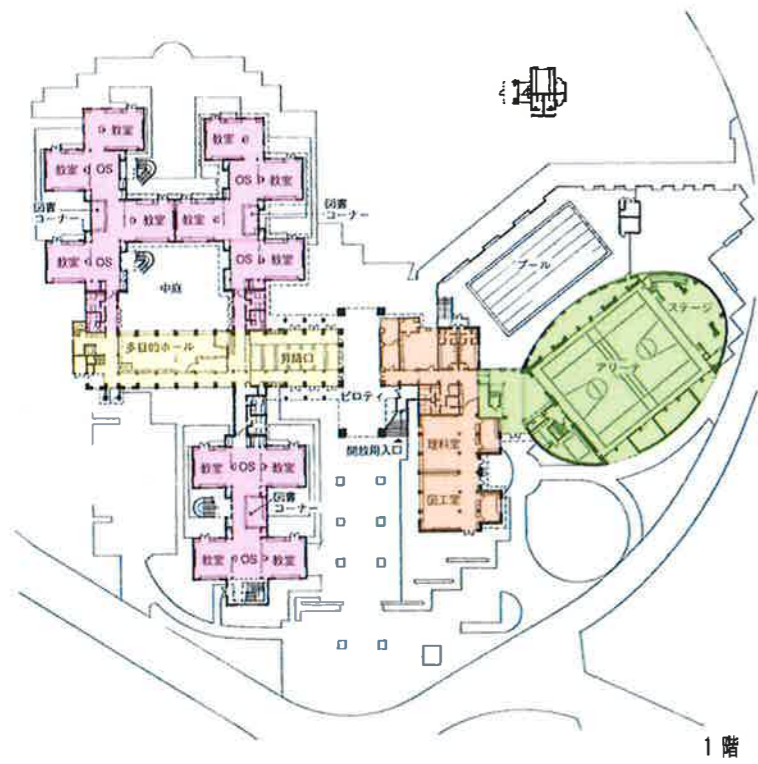
1階  
東京都武蔵野市立千川小学校 (1997年)



配置図 S=1:3000  
東京都世田谷区立桜丘小学校 (1999年)

凡例	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #FFB6C1; border: 1px solid black;"></span> 普通教室	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #FFDAB9; border: 1px solid black;"></span> 特別教室	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #ADD8E6; border: 1px solid black;"></span> 管理諸室	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #90EE90; border: 1px solid black;"></span> 体育館	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border: 1px solid black;"></span> その他のスペース
----	---	---	---	--	--

S=1:1500

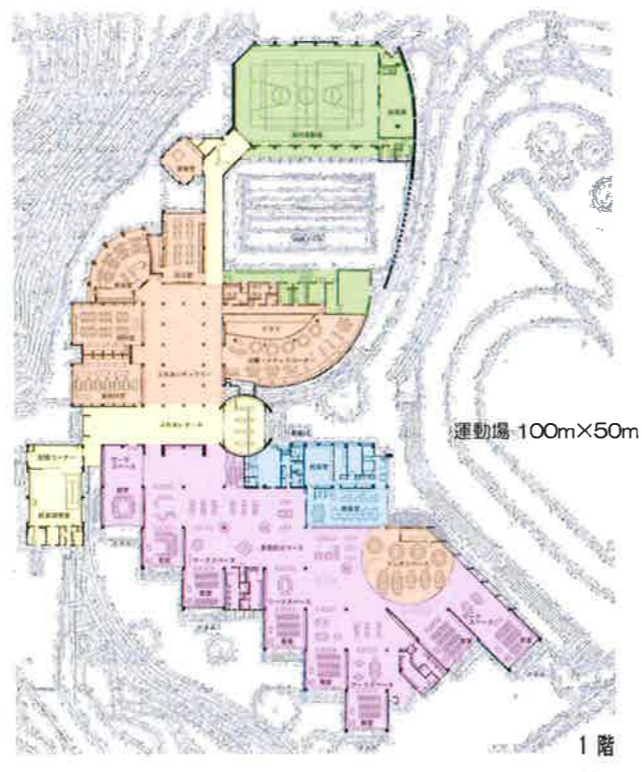


1階



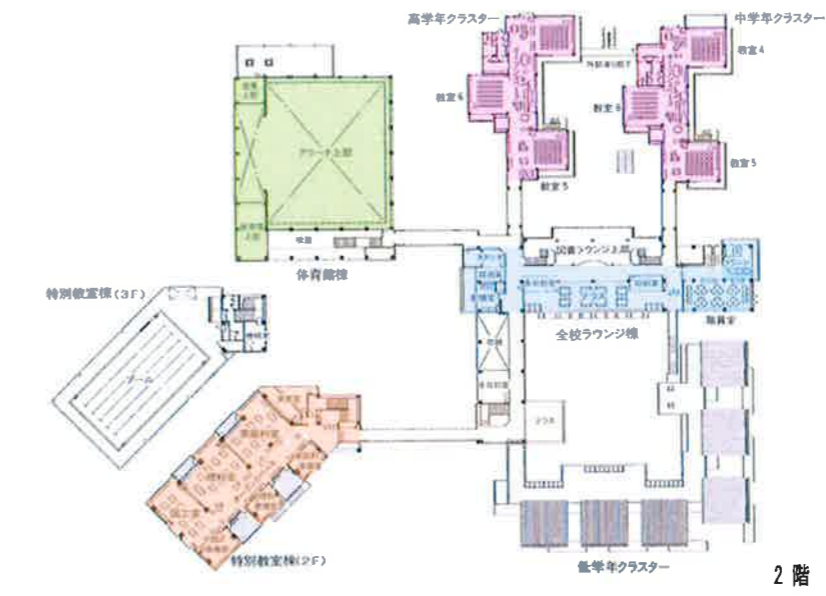
配置図 S=1:3000

東京都稲城市立若葉台小学校 (1999年)



1階

愛知県瀬戸市立品野台小学校 (1999年)

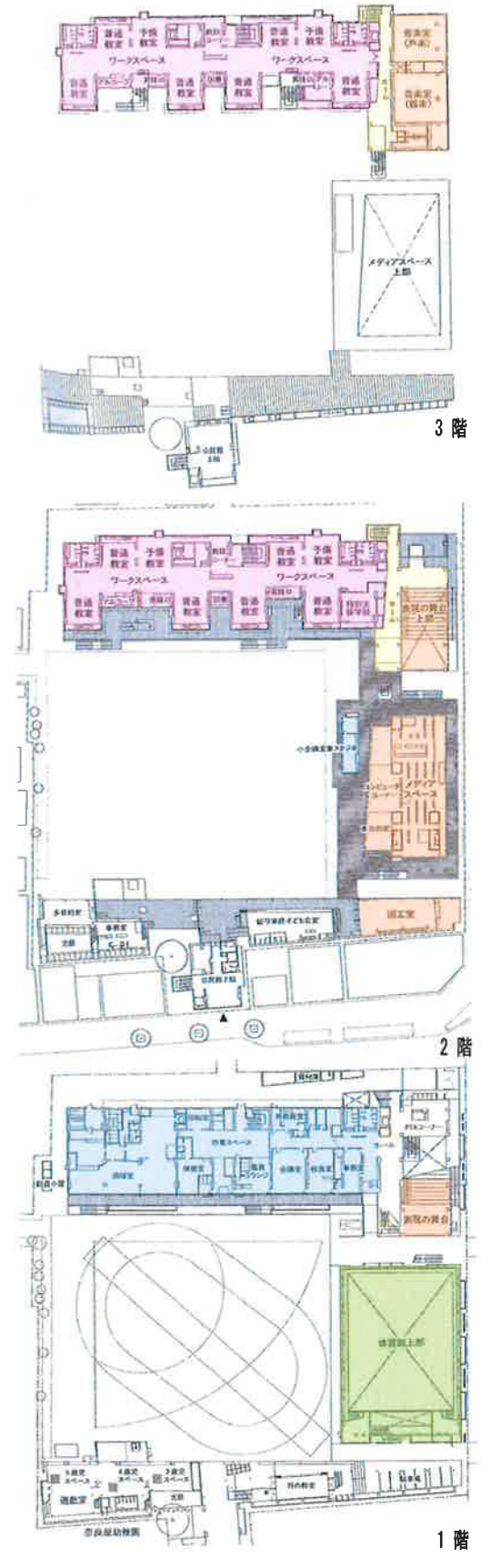


2階

千葉県印西市立いには野小学校 (2000年)



1階



1階

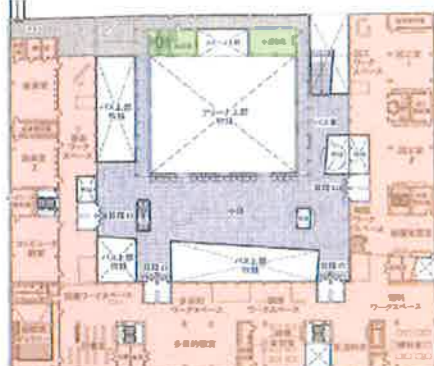
福岡県福岡市立博多小学校 (2001年)

S=1:1500

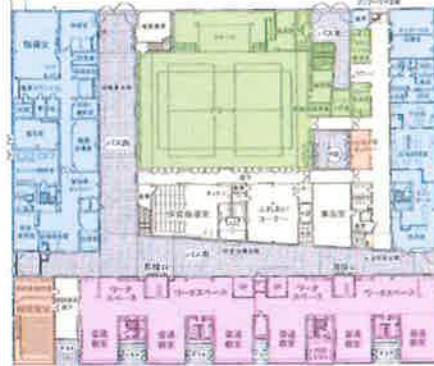
凡例	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #FFC0CB; border: 1px solid black;"></span> 普通教室	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #FFDAB9; border: 1px solid black;"></span> 特別教室	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #ADD8E6; border: 1px solid black;"></span> 管理諸室	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #90EE90; border: 1px solid black;"></span> 体育館	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border: 1px solid black;"></span> その他のスペース
----	---	---	---	--	--



3階平面図 1/800 3階



2階平面図 2階

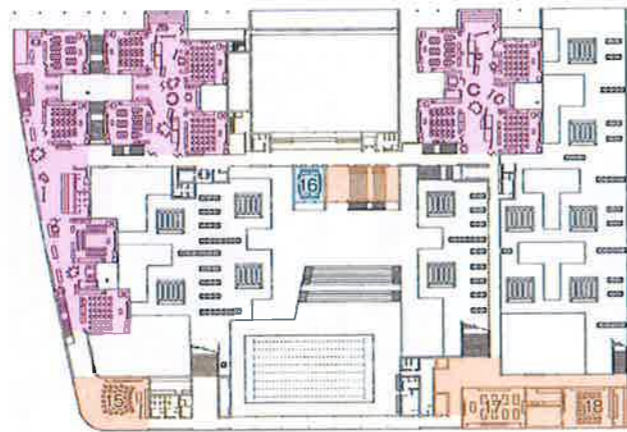


1階平面図 1/800 1階

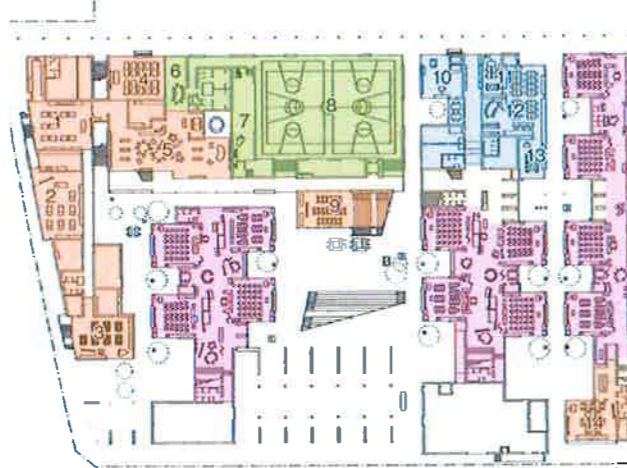


配置図 S=1:3000

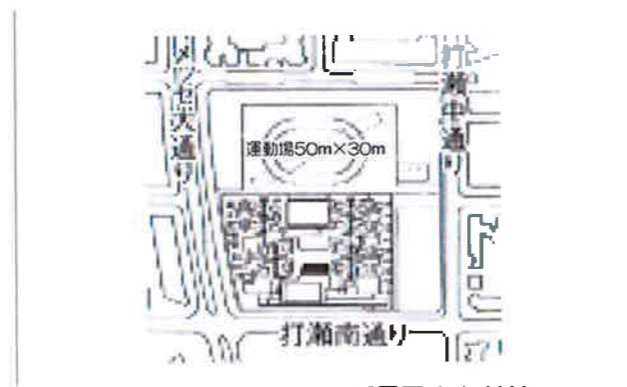
埼玉県戸田市立芦原小学校 (2004年)



2階

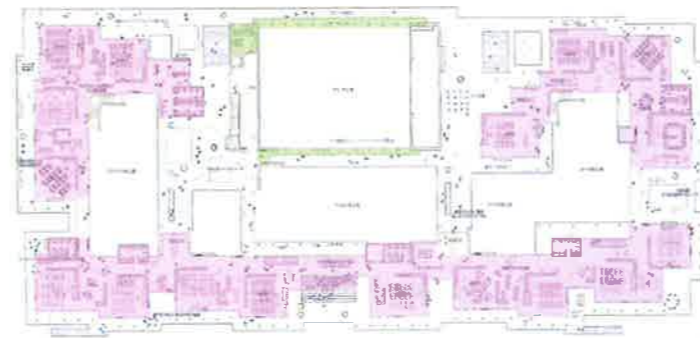


1階

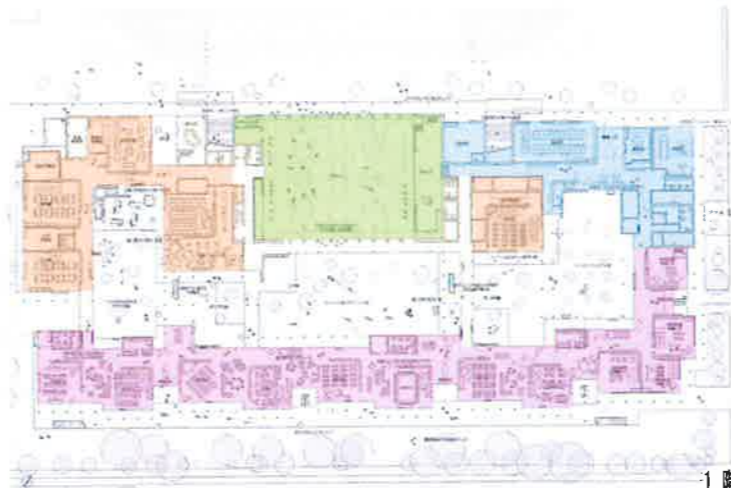


配置図 S=1:3000

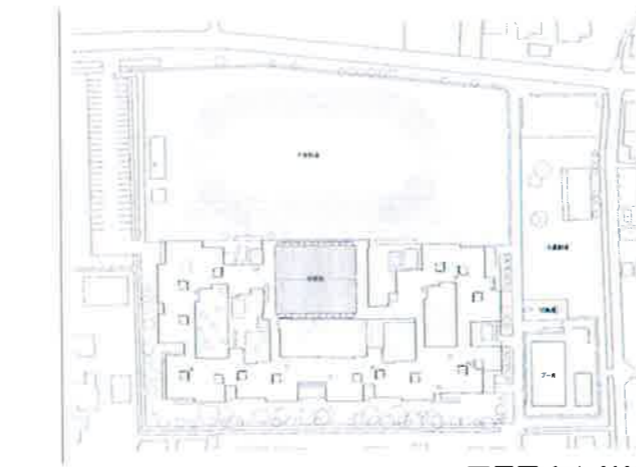
千葉県千葉市立美浜打瀬小学校 (2006年)



2階

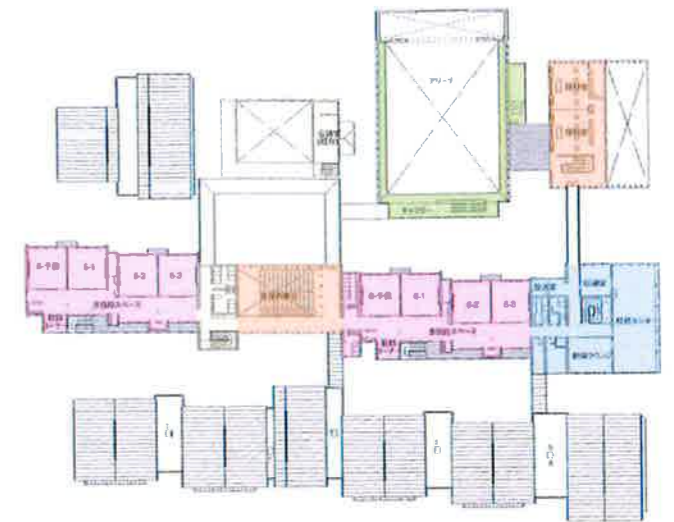


1階



配置図 S=1:3000

熊本県宇土市立宇土小学校 (2011年)



2階



1階

1/1,000

グラウンド

熊本県山鹿市立山鹿小学校 (2013年)



S=1:1500

- 凡例
- 普通教室
  - 特別教室
  - 管理諸室
  - 体育館
  - その他のスペース

---

## 2. 「鉾田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会」協議録

(1) 鉾田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会の記録

(2) 鉾田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会 委員会名簿



業務名：銚田南中学校区統合小学校基本計画策定業務

■ 打合せ記録 (第1回 銚田南中学校区統合小学校 施設整備検討委員会) 作成日 2015年8月25日  
 □ その他 ( ) 受付  
 作成者 新堀 琢己

日時：2015年8月24日19時00分～	承認	確認	
場所：銚田市福祉事務所2階会議室	所長	各担当者	PL・PS
建築主：銚田市長 鬼沢 保平 様	/	/	/

出席者  
 建築主(担当者):銚田市教育委員会  
 鬼澤教育長、根本教育部長、大場課長、長峰室長、  
 田中室長補佐、大川係長、菊地係長、薄井主事  
 検討委員：委員名簿参照  
 三上建築事務所：益子、大井、新堀  
 日本大学工学部：浦部准教授

適切性の確認者：

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
<b>I. 協議事項</b> 1. 開会 2. 委嘱状交付 (1) 鬼澤教育長より、委嘱状が交付された。 3. 教育長あいさつ (1) 現在、銚田南中学校区統合小学校(以下、本校)の基本計画を平成31年4月の開校に向けて順調に進めている。 (2) 銚田北小学校は小中学校が同敷地内にあり、小中連携が図りやすい状況である。本校は別々の敷地になるので、できるだけ小中の連携ができるように計画していく。 (3) 本校は7校が統合するので、銚田北小学校の建設より課題が多くなることが予想される。 (4) 現在、建設用地が決定して、これから新しい学校をどのようにつくっていくか検討を重ねていくので、よりよい環境づくりを目指してご協力いただきたい。 (5) これからの社会はグローバル化し、世界に目を向ける時代になる。銚田市は農業が中心のまちであるが、子どもたちが今までと発想を変えて生きていけるように教育していかなければならない。 (6) 国の改革は進んでおり、小学校での英語教育の導入が進んでいる。 (7) 新たな発想で、基本を外さない学校教育を目指す。					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
(8) 環境が人をつくる。環境は、物的、人的、心理的、社会的など様々ある。よりよい環境づくりとして、まず施設づくり、またソフト面もしっかり見据えて学校づくりをしていく。 (9) 未来を拓く子どもたちの育成のために、ご協力いただければありがたく思う。 4. 委員長、副委員長選出 (1) 諏訪小学校の大山校長を委員長に推薦する。(銚田小・中村校長) →異議なし。(一同) →委員長を諏訪小学校の大山校長に決定する。(教育委員会・鬼澤教育長) (2) 7校の中で最も規模が大きい小学校ということで、銚田小学校のPTA会長山口氏を副委員長に推薦する。(大山委員長) →異議なし。(一同) →副委員長を銚田小PTA会長山口氏に決定する。(大山委員長) 5. 委員長・副委員長あいさつ (1) 大役であるが、スムーズに会が進行するように、ご協力いただきたい。(大山委員長) (2) 出来る限り頑張っていく。(山口副委員長) 6. 協議事項 1) 先進事例の紹介 「学校建築の現在を考える」 (日本大学工学部 准教授 浦部智義) a. 自己紹介 (1) 普段はラフな格好で学生と近い距離で接するようになっている。 (2) 専門は劇場ホールである。 (3) 東京電機大学 船越徹研究室出身である。 b. 学校建築の流れ (1) 西戸山小学校 (1950) ・鉄筋コンクリート造のモデルプランが日本中に広がる。 (2) 宮前小学校 (1955) ・両面採光、ワークスペース設置 ・低学年、高学年棟の分離 ・低学年専用の校庭確保 (3) 施設デザインの新たな動き (1960～)					


協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・量の確保から質の充実へ</li> <li>・標準設計から多様なデザインへ</li> <li>・研究成果に基づく計画・デザインへ</li> <li>・城南小学校（1965）クラスター型、屋外空間との対応</li> <li>・三沢市立第5中学校（1965）教科教室型、イギリス型</li> </ul> <p>(4) 加藤学園初等学校（1972）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本初のオープンプランスクール</li> <li>・私立学校—アメリカのオープンプランスクールの影響</li> </ul> <p>(5) 緒川小学校（1978）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本初の公立オープンプランスクールの一つ</li> <li>・日本型のオープンプラン・教育カリキュラムの開発</li> <li>・低学年と高学年棟分離、各棟ごとに共有オープンスペース</li> </ul> <p>(6) 杉並区立第十小学校（1984）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域空間と学校空間の関係の在り方に1つのモデルを示した。</li> <li>・公園と一体化したオープンな学校</li> <li>・地域の防災拠点</li> <li>・体育館とプールを上下に一体化した計画</li> </ul> <p>(7) 宮代町立笠原小学校（1982）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「多様な空間が集まる小宇宙」</li> <li>・子供たちにとって多様な居場所をつくる</li> <li>・普通教室を大きくとり、様々な仕掛けを設けている</li> </ul> <p>c. 近年の小学校建築</p> <p>(1) 打瀬小学校（1995）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・門も塀もない、街と一体化したオープンスクール</li> <li>・子供のアクティビティを誘発する空間</li> <li>・オープンなクラスルーム</li> <li>・オープンスペースと一体化した特別教室</li> <li>・壁のない特別教室はアイランド状の準備室で仕切る</li> <li>・外部空間へのアクセシビリティが高い</li> <li>・子供たちの活動が室内に限定されないことを目指した</li> </ul> <p>(2) 宇土小学校（2011）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンなクラスルーム</li> <li>・L壁で囲われた教室空間</li> <li>・切れ目のない教室とオープンスペース</li> <li>・外部に開かれた小学校、教室からすぐ外に出ら</li> </ul>					


協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
<p>れる</p> <p>(3) おおたかの森小・中学校（2015）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に開かれた学校</li> <li>・複雑化したL壁空間</li> <li>・小中別々の2層の体育館</li> </ul> <p>(4) 博多小学校（2001）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昇降口を別々に設けて、子どもたちが外に出やすくしている</li> <li>・18クラスから25クラスまで対応するプランニング</li> <li>・教室とオープンスペースには隔てる壁がない</li> <li>・教室とワークスペースの関係性を重視</li> <li>・クラスルームを南北に配置し、学年単位でのまとまり感の構築を意識している</li> <li>・アルコーブとワークスペースと予備教室を設置</li> <li>・表現の舞台</li> <li>→アクティブラーニングの場</li> <li>・それぞれの棟を結ぶデッキ空間</li> </ul> <p>(5) 飛鳥学園（2010）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫校、4・3・2制の実施</li> <li>・コンパクトな特別教室の使い方（アトリエは図工・技術・美術等どんな作業にも使える空間）</li> </ul> <p>(6) 保原小学校（2006）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校を地域に開放し、「学校と地域が融合する」</li> <li>・スクールコミュニティ構想</li> <li>・地域に開放した講堂</li> <li>・階段室を拡張した階段状シアター</li> </ul> <p>d. 木質空間の小学校</p> <p>(1) 弘道小学校（1991）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄骨キール・トラスに集成材の小梁が掛けられた体育館</li> <li>・低学年棟、高学年棟の木架構</li> </ul> <p>(2) 九十九小学校（2006）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木造で試みたオープンスペース</li> <li>・普通教室を小さくした計画</li> </ul> <p>(3) いには野小学校（2000）</p> <p>(4) 平良小学校（2002）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の出会いの場、交流の場</li> <li>・学校全体を認識できる空間、コリドール</li> <li>・大断面集成材の活用</li> </ul> <p>e. 小中一貫校の事例</p> <p>(1) 鹿北小学校（2014）</p>					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
<ul style="list-style-type: none"> <li>・木造とRC造のハイブリッド</li> <li>・体育館、プールは町の施設を利用</li> </ul> <p>(2) 芝園小学校・中学校 (2008)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体を貫くアトリウム空間</li> </ul> <p>(3) 高松第一小学校・高松第一中学校 (2010)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年・教員の交流を育む仕掛け</li> <li>・中庭に面したステッププラザ</li> </ul> <p>f. オープンプランスクール出身者の意見</p> <p>(1) 白石市立第二小学校 (1996)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下が広いのでよく遊んだ。</li> <li>・教室の使い方は先生によって違い、オープンに授業している先生もいたが、そうでない先生もいた。</li> <li>・オープンプランスクールはフレキシブルにしておけば、オープンでも対応できるのではないか。(浦部氏の意見)</li> </ul> <p>g. 廃校小学校のハードの活用</p> <p>(1) 氷見庁舎 (2014)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機高校から庁舎へ</li> <li>・あまり手をかけずに活用する</li> </ul> <p>h. 被災地小学校復興プロポーザル</p> <p>(1) 鶴住居</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な避難施設としての学校</li> <li>・原風景を保存した安心のシンボルとしての学校</li> <li>・地域に開かれた学校</li> <li>・災害に強く、自然エネルギーを利用した学校</li> <li>・2足制</li> <li>・間仕切り壁は解体移築可能な乾式工法</li> <li>・家具による簡易な仕切りで生徒、教師の居場所をつくる</li> <li>→用途変更にも柔軟に対応</li> <li>・オープンスペースは学年共通に使うことができる部屋のような通りの空間</li> <li>・教師のコーナーを設置</li> </ul> <p>2) 質疑応答</p> <p>(1) 先進事例ではクラスルームが独立しているような学校があるが、地域の方が戸惑うのではないか。(教育委員会・鬼澤教育長)</p> <p>→計画に骨格空間があれば、自分の居場所が分かり、利用者は認識しやすいのではないか。(浦部准教授)</p> <p>(2) 新しい学校の利用方法として、設計者と利用者で共通認識していくことが課題と考える。また、時</p>					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
<p>間の経過に伴って共通認識をすることは難しいと思うが、どう考えているか。(教育委員会・鬼澤教育長)</p> <p>→普通教室、特別教室をフレキシブルに利用できるように計画することで、時間の経過による利用方法の変化に耐えられるのではないか。また、それが教室の稼働率を上げることにもなる。(浦部准教授)</p> <p>(3) 一般的に今の学校の耐用年数はどのくらいになるか。(大竹小・柏葉校長)</p> <p>→現在、学校施設の耐用年数の目安は60年程度である。これからは、100年使い続けられる学校である必要がある。そのために、しっかり手入れをしていくことが大切である。(三上建築事務所・益子)</p> <p>→建設当初は永久校舎と呼ばれた建物が、30年程度で改修されている。木造とRC造ではどちらが長く使い続けられるのか。(大竹小・柏葉校長)</p> <p>→どちらも、建設後の手入れ次第で長く使続けられる可能性がある。(三上建築事務所・益子)</p> <p>(4) 現在、新しい学校の計画をどのようなイメージで進めているか。(大山委員長)</p> <p>→全く白紙の状態である。検討委員会で議論して頂き、それを取りまとめながら進めていく。(三上建築事務所・益子)</p> <p>3) 基本方針</p> <p>所長の益子が銚田南中学校区統合小学校の学校づくりの基本方針について説明を行った。以下に、協議内容を示す。</p> <p>(1) 常磐小学校は町のコミュニティーセンターが学校内に複合されている。新しい小学校では、図書館や公民館など学校以外の公共施設が一緒になり、地域の人たちがそこに集えるような場があるとよいと思う。(野友小・長谷川校長)</p> <p>(2) 敷地面積の5haはどのくらいの面積になるか。(新宮小・高橋氏)</p> <p>→銚田北小学校・中学校の敷地が約5haである。(教育委員会・長峰氏)</p> <p>(3) 高低差のある地形を活かして、建物をスキップフロアにするのはどうか。(串挽小・岡野氏)</p> <p>→そのような計画にすることも可能だが、敷地の高低差を均すと約3.5haほどの平場が確保できると見込んでいる。その際には、スキップフロアの計画にすることはないと考える。(三上建築事</p>					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
<p>務所・益子)</p> <p>(4) 前面道路との高低差が約 15m 程度あるので学校の敷地内にどのように登って行くかが課題である。(三上建築事務所・益子)</p> <p>(5) 先程の先進事例の学校でもあるように、普通教室は必ずしも南に向かなくてもよい。教室が南面しない場合は直射日光を遮ることができて、教室の環境としてはよくなるといえる。(三上建築事務所・益子)</p> <p>(6) 何階建ての校舎になるか。(串挽小・岡野氏) →現在検討中であるが、2階建てか3階建てが妥当だと考えている。平屋建ては建築面積が大きくなり、校庭が小さくなってしまうので難しい。(三上建築事務所・益子)</p> <p>(7) 校庭は狭くならないか。(串挽小・田神校長) →茨城県の一般的な小学校は、200mトラックが確保できる程度の広さである。本計画もそのぐらいの広さは確保できる。(三上建築事務所・益子)</p> <p>(8) 大断面集成材を利用した空間があるとよい。(串挽小・岡野氏)</p> <p>(9) 鉾田北小学校の校舎は普通の校舎である。(串挽小・岡野氏) →鉾田北小学校もこのような議論を経た結果である。(三上建築事務所・益子)</p> <p>(10) 駐車場をたくさん設ける必要があるのではないか。(新宮小・高橋氏) →確かに駐車場をたくさん確保することは重要であるが、それだけ子どもたちが活動するスペースが減ることにもなる。子どもたちの場所を優先させ、小さい駐車場をどう活用するかを大人が考えることが大切だと考える。(三上建築事務所・益子)</p> <p>(11) 特別支援教室は現在4クラスぐらいあるが、新しい学校ではどれぐらい必要になるか。(串挽小・田神校長) →本校が開校する平成31年度に、何クラス必要になるかは、今後検討していく。(教育委員会・</p>					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
<p>長峰氏)</p> <p>4) その他</p> <p>(1) 本日の協議の内容を一度持ち帰っていただき、認識を再度確認していただきたい。その上で、次回の検討委員会までに事務局に意見をいただければと思う。(教育委員会・長峰氏)</p> <p>(2) 今後、先生方や地域の方々の想いをすり合わせて、いい学校をつくるために、提案ができるとうい。(新宮小・小澤校長) →今回は7校の統合ということで、一校一校を回って先生方、地域の方々のヒアリングをしていくことは難しい。したがって、各学校、地域で議論していただき、まとめた意見を基に、この検討委員会で協議することが重要である。(三上建築事務所・益子)</p> <p>(3) 今後、意見がなるべく出しやすくなるような仕組みを考えていく。(教育委員会・長峰氏)</p> <p>7. 閉会</p> <p>(1) 次回の予定 10月の初旬に予定したいと考えている。日程に関する意見も頂きたい。(教育委員会・長峰氏)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>					
					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
 <p>打合せの状況</p>					

業務名：銚田南中学校区統合小学校基本計画策定業務

■ 打合せ記録 (第2回 銚田南中学校区統合小学校 施設整備検討委員会) 作成日 2015年10月31日  
 □ その他 ( ) 受付  
 作成者 新堀 琢己

日時：2015年10月30日 19:00～21:00	承認	確認	
場所：銚田市本庁舎3階第三会議室	所長	各担当者	PL・PS
建築主：銚田市長 鬼沢 保平 様	/	/	/

出席者  
 建築主(担当者):銚田市教育委員会  
 根本教育部長、大場課長、長峰室長、田中室長補佐、大川係長、菊地係長、薄井主事  
 検討委員：委員名簿参照  
 三上建築事務所：益子、大井、新堀  
 日本大学工学部：浦部准教授

適切性の確認者：

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
<b>I. 協議事項</b> 1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 協議事項 (1)業務スケジュール 所長の益子が業務スケジュールについて説明した。 (2)アンケートの整理 所長の益子が前回検討委員会後に配布したアンケートの回答を読み上げた。以下に協議内容を記す。 1) 検討委員会は第3回で終了するのか。(野友小・長谷川校長) →基本計画としては終了するが、基本設計、実施設計を行うにあたり、検討の場を設けていく。(教育委員会・長峰室長) 2) 学童クラブは整備されるか。(大竹小・柏葉校長) →銚田市子ども家庭課で学校の敷地内にあるとよいという話が出ている。現在は保育園等の民間業者が行っており、そのような業者と調整をしながら、設置の可否を決定する。(教育委員会・長峰室長) 3) 銚田小は12学級で理科室が1つだが、できれば2教室ほしい状況である。(銚田小・中村校長) →1学年4クラスだと重複率1.7になり、ほぼ常に2クラスが同時に理科の授業を行っていることになるので、2教室あった方がよい。しかし、建設コストや児童数減少などを考慮して検討する必要がある。(三上建築事務所・益子) 4) デザイン性を重視して死角となる場所が多くな					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
るより、機能的な校舎にしてほしい。(新宮小・小澤校長) 5) 準備室をはじめ、収納・スペースを十分確保してほしい。また、1年生でも出し入れしやすい収納がよい。(野友小・長谷川校長) →設計段階で備品調査などを行い必要な収納量を検討していく。(三上建築事務所・益子) 6) 和式トイレよりも洋式トイレを多く設置してほしい。(野友小・長谷川校長) →現在では衛生面上、乾式の洋式トイレとすることが一般的である。(三上建築事務所・益子) 7) 駐車場をできるだけ多く整備してほしい。(銚田小・中村校長) →行事の際に必要な台数を確保すると、建設コストがかかる上、通常時は使用されない無駄なスペースになる。外周道路を利用するなどの対応を検討するとともに、運営面でも車の台数を減らす対策を検討してほしい。(三上建築事務所・益子) →限られた予算の中なので、校舎とグラウンドを優先して整備し、出来る範囲で駐車場を整備すべきだろう。(串挽小・田神校長) →行事の時はまわりの道路に駐車するか、近くの新宮小のグラウンドを駐車場として、送迎バスを利用してピストン輸送するなどの対応策が考えられる。(野友小・長谷川校長) (3) 学校づくりの基本方針 所長の益子が学校づくりの基本方針について、以下の項目の説明を行った。 1) 銚田南中学校区統合小学校の基本計画方針(案) 2) 施設全体の構成 3) 普通教室まわりの構成 (4) 計画の具体化 所長の益子が計画の具体化について説明を行った。以下に協議内容を記す。 1) 校舎の西側はどうなっているか。(野友小・長谷川校長) →法面の坂道となっている。残地森林の規制により敷地内の山林の25%を保存することになる。(教育委員会・長峰室長) →現状25%の山林は、利用しづらい法面で確保しきれるので、土地利用上有効である。(三上建					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
<p>築事務所・益子)</p> <p>2) 進入路は県道からの一ヶ所なのか。(申挽小・岡野氏) →南側に市道があるが、現実を使用するとなると問題がある。北側にもう一つ進入路をつくることは難しい。(教育委員会・長峰室長)</p> <p>3) 避難場所としての備えはあるか。(新宮小・小澤校長) →今後、防災当局と調整を行う。(教育委員会・長峰室長)</p> <p>4) 特別支援学級の数は何学級想定しているか。今後特別支援学級の児童数が増加することを考慮して、転用可能な多目的室を備えた方が良いのではないか。(当間小・高崎校長) →特別支援学級は6クラス+プレイルームを計画している。規模は基本計画で決めるので、ご意見をいただきたい。(三上建築事務所・益子)</p> <p>5) 図面ができてからでないと思いが出しづらいが、その段階では変更がきかない状況になってしまう。(当間小・高崎校長) →基本設計、実施設計段階でも検討委員会を行って意見を聞いていく。(教育委員会・長峰室長) →基本計画での計画内容は、全体の規模をどのくらいに設定するか、またどのような室が何部屋必要なのかなどをとらえるものである。(三上建築事務所・益子)</p> <p>6) 教室の配置は、対面式と並列式でそれぞれメリット、デメリットがある。また、折衷案も考えられる。(三上建築事務所・益子) →対面式の教室配置は我々は経験がないので判断しづらい。先進事例を視察する機会がほしい。(鉾田小・中村校長)</p> <p>4. 閉会</p> <p>(1) 次回の予定 11月16日(月)19:00～ 福祉事務所2階会議室</p> <p style="text-align: right;">以上</p>					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
 <p style="text-align: center;">検討委員会の状況</p>					

業務名：銚田南中学校区統合小学校基本計画策定業務

■ 打合せ記録 (第3回 銚田南中学校区統合小学校 作成日 2015年11月16日 施設整備検討委員会) 受付	
□ その他 ( )	作成者 新堀 琢己
日時：2015年11月16日 19:00~21:00	承認
場所：銚田市本庁舎2階会議室	所長
建築主：銚田市長 鬼沢 保平 様	各担当者
出席者	PL・PS
建築主(担当者):銚田市教育委員会 根本教育部長、大場課長、長峰室長、田中室長補佐、大川係長、菊地係長、薄井主事 検討委員：委員名簿参照 三上建築事務所：益子、大井、新堀 日本大学工学部：浦部准教授	

適切性の確認者：

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
<p><b>I. 協議事項</b></p> <p>1. 開会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>3. 協議事項</p> <p>(1)業務スケジュール 所長の益子が業務スケジュールについて説明した。</p> <p>(2)アンケートの整理 所長の益子が前回までに出た意見のまとめを読み上げた。以下に協議内容を記す。</p> <p>1) トイレは洋式がよいという意見があったが、どう考えているか。(委員長) →銚田北小でも洋式を主としているので、今回計画でもそのように考えている。(教育委員会・長峰室長)</p> <p>2) 防災の備蓄については、市では一元的な管理を考えているので、学校独自の整備は考えていません。(長峰室長)</p> <p>3) 進入口が正門だけでなく通用口があった方がよいのではないか。(野友小・長谷川校長)</p> <p>4) 公衆電話があるとよい。(大竹小・飯塚氏) →現在大竹小にはあるか。(教育委員会・長峰室長) →大竹小は外部にある。(大竹小・飯塚氏) →NTTとの調整になるので、容易ではないが努力する。(教育委員会・長峰室長)</p> <p>5) 今回の検討委員会で先進事例の視察ができれば</p>					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
<p>よかった。今後、基本設計、実施設計でそのような段階で検討させていただきたいと考えています。(教育委員会・長峰室長)</p> <p>6) 児童クラブの市の所管は、福祉部になります。過去に、放課の受け皿に民間保育所へお願いした経緯がある。</p> <p>教育委員会で、私立保育園へヒアリングを行ったところ、お客さんが少なくなってしまうとの意見があった。(教育委員会・長峰室長)</p> <p>(3) 検討案について 所長の益子が検討案について説明を行った。以下に協議内容を記す。</p> <p>1) 正門から昇降口まで何メートルあるか。(新宮小・小澤校長) →約250m程度になる。(三上建築事務所・益子) →アプローチが長くないか。(新宮小・小澤校長) →階段を設けずにスロープだけだとアプローチが長くなることはやむを得ない。(三上建築事務所・益子)</p> <p>2) 西側の斜面にスロープを設けることはできないか。(串挽小・岡野氏) →スロープを設けるのは厳しいと考える。(三上建築事務所・益子) →近道をしようとする子どもがでると予想されるので、最初から近道を整備しておくべきではないか。(串挽小・岡野氏) →25%の緑地を残したまま遊歩道のようなものを整備することは可能である。(三上建築事務所・益子)</p> <p>3) 野友小学校のアプローチは急勾配だが問題ないように思う。(野友小・長谷川校長)</p> <p>4) 調整池とプールの上に階段を設けることはできないか。(野友小・堀田氏) →階段なら可能であるが、擁壁ができてしまうので検討が必要である。(三上建築事務所・益子) →今後の検討課題としてもらいたい。(委員長) →安全面を考慮して検討していく。(三上建築事務所・益子)</p> <p>5) 調整池の深さは何メートルか。(野友小・長谷川校長)</p>					



協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
<p>→3~4m程度になると想定している。(三上建築事務所・益子)</p> <p>6) 日当たりが良いのはどちらの案か。(新宮小・高橋氏) →E-2 案はクラスルームに直射日光が入るがE-1 案は入らない。したがって、E-1 案の場合は熱負荷が低減され比較的省エネルギーになる。(三上建築事務所・益子)</p> <p>7) E-1 案の方が、吹抜けなどが多く、スペースとしてよいと考える。(串巻小・岡野氏) →E-1 案は体育館がクラスルームから近いことも利点である。(三上建築事務所・益子)</p> <p>8) E-2 案は落ち葉の処理が大変なのではないか。(野友小・長谷川校長) →どちらも風の影響は避けられない。E-2 案のメリットは昇降口の前に大屋根が付いた広場を設けられる点である。(三上建築事務所・益子)</p> <p>9) 建設コストはどちらの案もほぼ同じと考えている。したがって、どちらが基本方針の実現に対応しいかを検討していただきたい。(三上建築事務所・益子)</p> <p>4. 講評 (浦部准教授)</p> <p>1) 本検討委員会はよい流れで進んでいると思う。意見も活発に出て、よい検討案が2案上がっている。</p> <p>2) 学校の骨格となる空間と体育館のあり方が学校を特徴づけると考える。</p> <p>3) 地域にとって良い学校ができる素地ができたと考ええる。</p> <p>4) クラスルームや学年のグルーピングが大切である。</p> <p>5) アプローチの長さは、通学しながら子どもの体力を鍛えられると考えることもできる。</p> <p>5. 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>					

協議事項	Input	Output	検証		
			日付	検証者	判定
 <p style="text-align: center;">検討委員会の状況</p>					

銚田南中学校区統合小学校施設整備検討委員会委員名簿

(順不同)

No.	職名	氏名	備考
1	銚田小学校校長	中村 裕幸	
2	銚田小学校PTA会長	山口 功	
3	諏訪小学校校長	大山 祐司	
4	諏訪小学校PTA会長	佐々木 絵美	
5	大竹小学校校長	柏葉 正夫	
6	大竹小学校PTA会長	飯塚 正好	
7	新宮小学校校長	小澤 信三	
8	新宮小学校PTA会長	高橋 亨	
9	串挽小学校校長	田神 修一	
10	串挽小学校PTA会長	岡野 勝	
11	野友小学校校長	長谷川 馨	
12	野友小学校PTA会長	堀田 一	
13	当間小学校校長	高崎 敏雄	
14	当間小学校PTA会長	木内 秀樹	
15	銚田市教育委員会教育部長	根本 研司	
16	銚田市教育委員会教育総務課長	大場 渉	

事務局

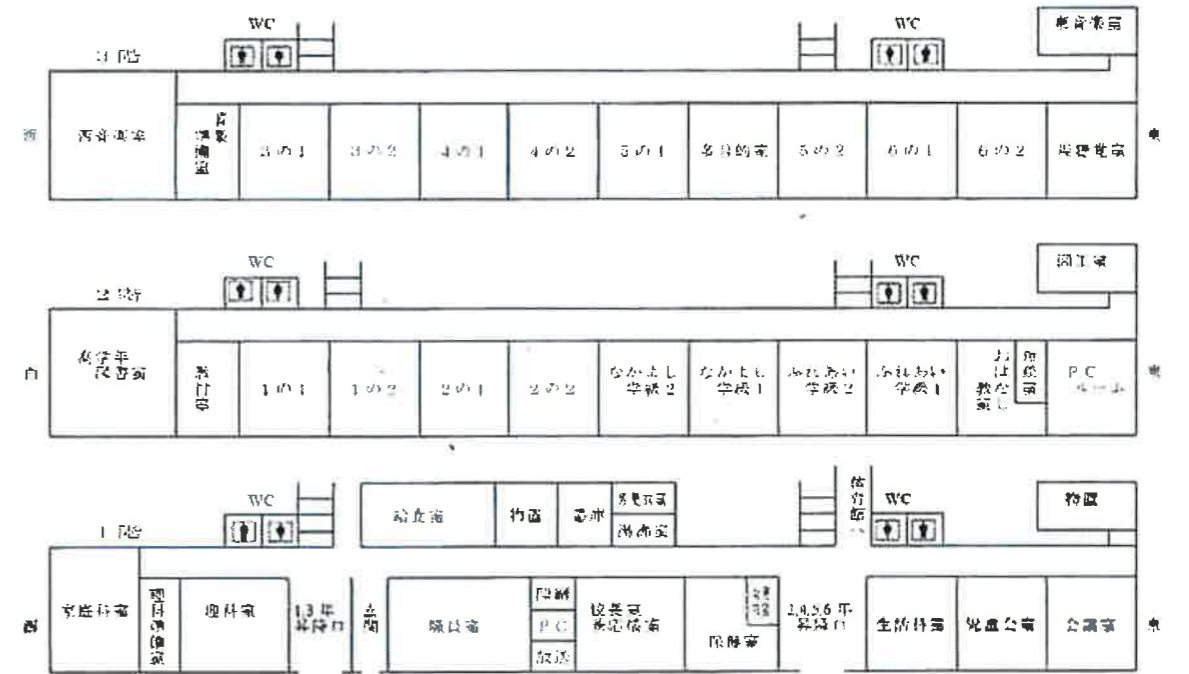
No.	職名	氏名	備考
1	新しい学校づくり推進室長	長峰 道男	
2	新しい学校づくり推進室長補佐	田中 義則	
3	新しい学校づくり推進室施設整備係長	大川 修	
4	新しい学校づくり推進室推進係長	菊地 優貴	
5	新しい学校づくり推進室主事	薄井 利昭	

---

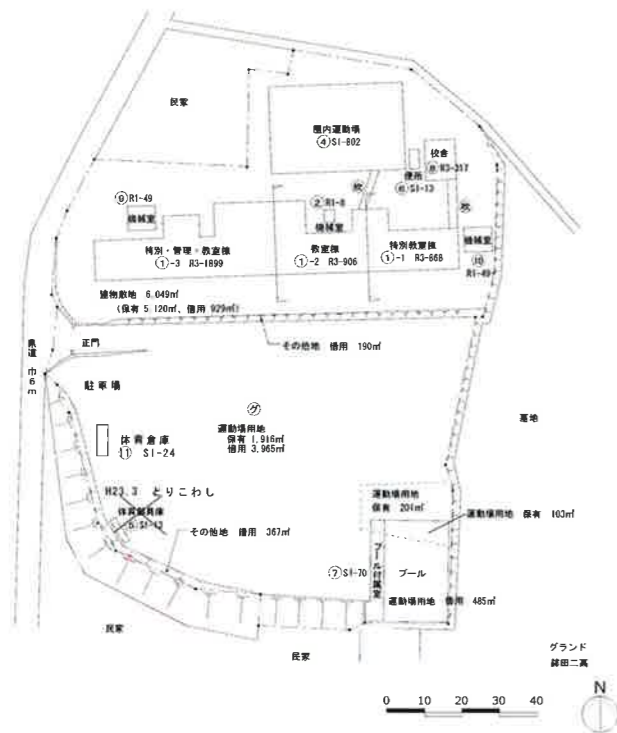
### 3. 鉾田南中学校区 各小学校概要

- (1) 鉾田小学校
- (2) 諏訪小学校
- (3) 新宮小学校
- (4) 大竹小学校
- (5) 当間小学校
- (6) 野友小学校
- (7) 串挽小学校

(1) 鉾田小学校



敷地面積：13,276㎡  
 延床面積：3,990㎡  
 階数：3階建て



a. 学校沿革の概要

- 明治 7.12.19 三光院内に鉾田家塾設立（創立記念日）
- 8. 鉾田小学校と称する
- 昭和32. 校歌・応援歌作成
- 46. 6. 1 校舎工事完成（現校舎）
- 47. 5.31 体育館竣工
- 49. 10. 1 プール完成
- 49. 12.19 100周年記念式典並びに記念事業
- 平成 9. 8. 1 コンピュータ22台設定（PCルーム）
- 9. 10.16 学校給食文部大臣表彰
- 10. 11.18 優良PTA文部大臣表彰
- 16. 11.21 花と緑の環境美化コンクール県知事賞
- 17. 12.20 霞ヶ浦水質浄化振興財団賞
- 18. 2.23 幡谷教育振興財団賞
- 18. 3.31 豊かな体験活動推進校（文部科学省）
- 20. 3.31 小・中連携教育実践研究事業推進校
- 23. 3.31 学力向上実践研究推進事業（文部科学省）

b. 児童数

■現在（平成27年度）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男	38	24	33	31	21	32	179
女	27	30	26	35	32	38	188
計	65	54	59	66	53	70	367

■開校時（平成31年度）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男女合計	47	53	36	50	65	54	305

c. 教職員数

31人

d. 学校の特徴（特長）

鉾田小学校は、1874年明治7年三光院内に鉾田外57村にて、鉾田家塾として設立し、142年の歴史を有し、現在も児童数367人の中規模校です。周辺には、鉾田一高、鉾田二高、鉾田南中、鉾田幼稚園、市役所、県出先機関があります。また、学校と地域で鉾小まつりが行なわれています。

e. 教育目標

- ほんきに考え こころ美しく たくましい ほこたの子
- 目指す学校の姿
  1. 子どもが主役で活力のある学校
  2. 明るいあいさつを交わし、楽しい学校
  3. 環境が整備され、保護者・地域が支え、連携・努力が図られている学校
- 目指す児童の姿
  1. 自ら考え学び合う子
    - ・課題を見つけ、進んで学習に取り組む子
  2. 思いやりのある子
    - ・友達と仲良くし、素直でよく働く子
  3. 健康でねばり強い子
    - ・最後までねばり強くやりとげる子
- 目指す教師の姿
  1. 子どもを愛し、子どもの心がわかる人間性豊かな教師
  2. 授業を大切にし、授業で勝負する指導力のある教師
  3. 知性と教養に富み、品位のある活力に満ちた教師

a. 普通教室(低学年)

■正面



■廊下側



■背面

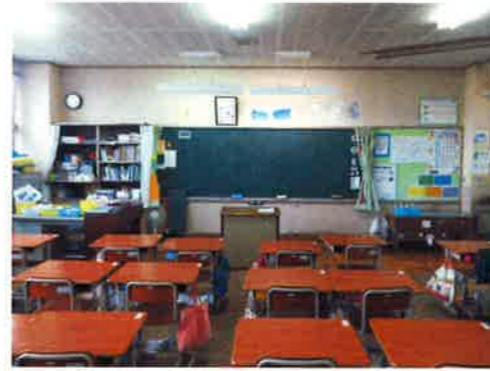


■窓側



b. 普通教室(中学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



c. 普通教室(高学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



d. 特別支援教室

■正面



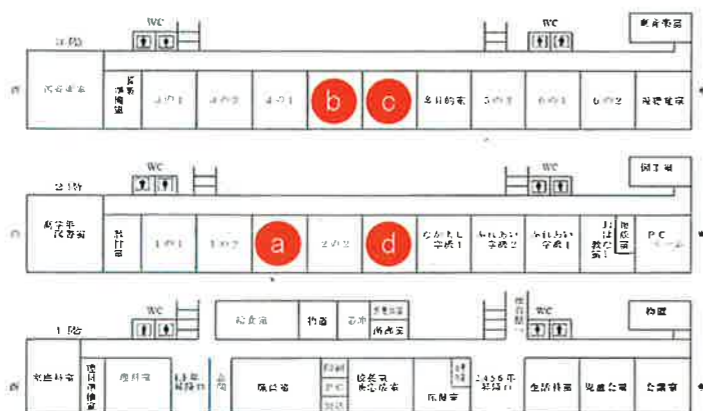
■廊下側



■背面



■窓側



e. 理科室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



f. 家庭科室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



g. 図工室  
■正面



h. PC室  
■正面



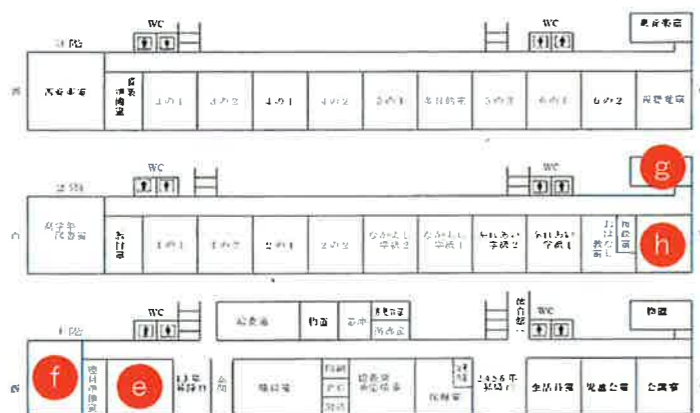
■廊下側



■背面



■窓側



i. 西音楽室

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



j. 東音楽室

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



k. 図書室

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



l. 体育館

■正面



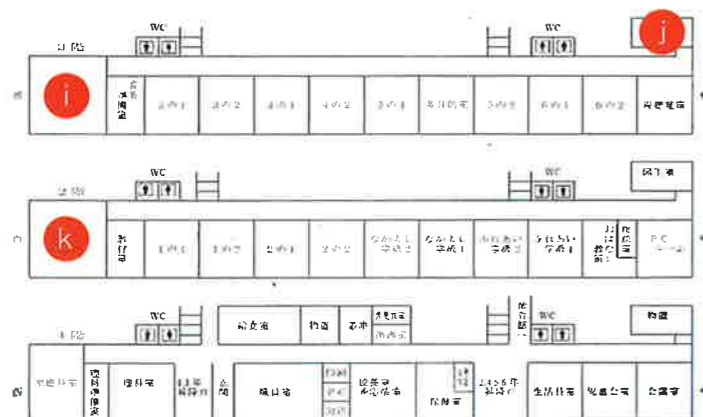
■廊下側



■背面



■窓側



m. 職員室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



n. 管理諸室  
■保健室



■配膳スペース



o. 掲示  
■廊下



■図書室前



■教室前



■廊下



p. その他  
■ノート型PC



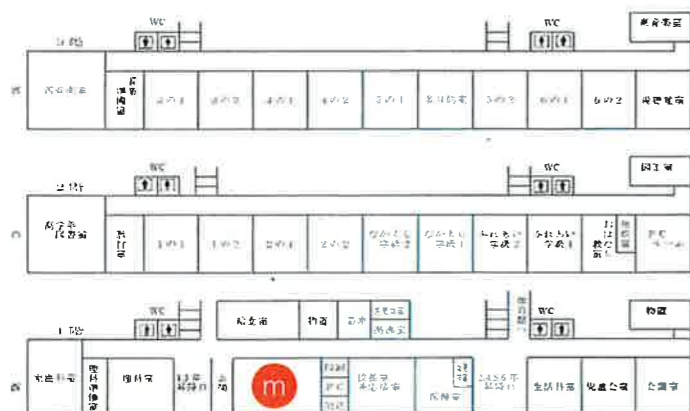
■楽器類



■ボルダリング器具

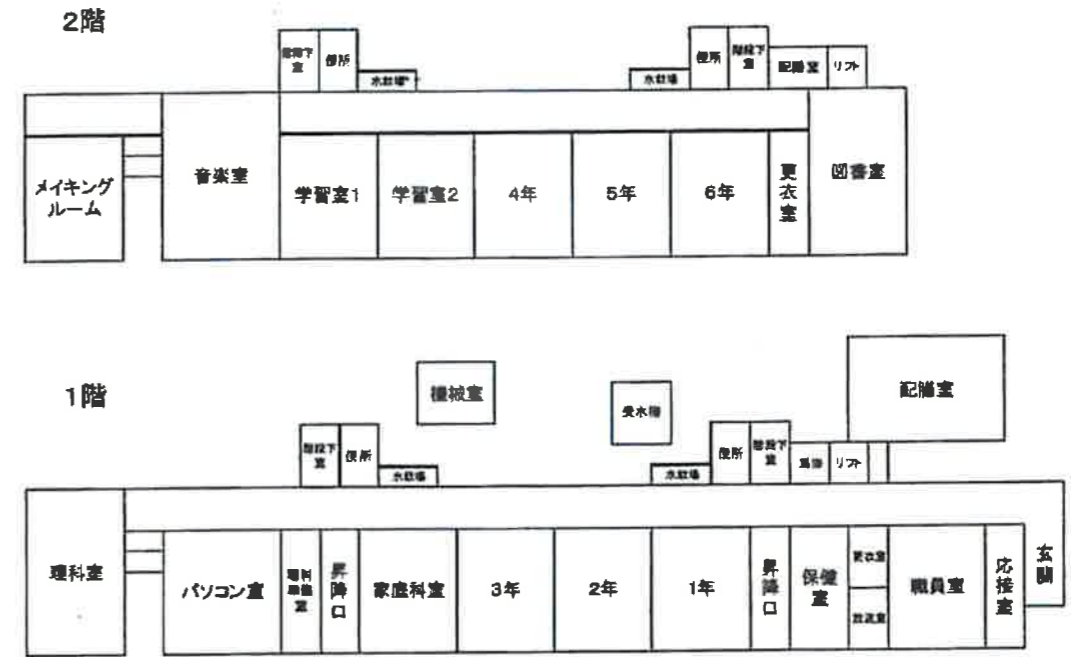


■下足入れ

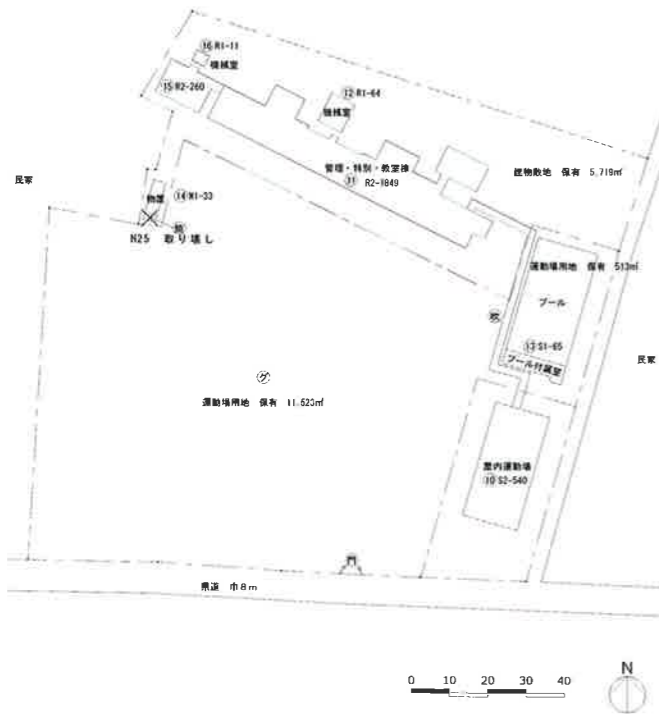




(2) 諏訪小学校



敷地面積:17,755㎡  
延床面積: 2,109㎡  
階数:2階建て



a. 学校沿革の概要

- 昭和30. 8. 10 町村合併により諏訪村は大谷村と夏海村と合併して旭村となり、諏訪村の一部の地区が鉾田町に分村合併。
- 31. 3. 14 鉾田町立鉾田第二小学校を新設、県より認可
- 31. 6. 2 開校式、創立記念日
- 40. 11. 15 完全給食開始
- 51. 3. 15 体育館完成
- 54. 3. 31 新校舎完成
- 54. 4. 1 鉾田町立諏訪小学校と校名を変更  
鉾田町立諏訪幼稚園を併設
- 54. 8. 25 プール (25m 5コース) 完成
- 54. 10. 14 防音校舎竣工式典
- 62. 1. 21 交通安全優良校受賞
- 平成 4. 10. 21 こども郵便局関東郵便局長賞
- 5. 10. 30 創立百周年記念式典挙行
- 9. 3. 31 鉾田町立諏訪幼稚園を廃園
- 15. 4. 学校獣医設置モデル事業(茨城県教育委員会指定)
- 17. 10. 17 鉾田市立諏訪小学校と改称
- 19. 4. 1 情緒障害特別支援学級を新設
- 20. 4. 小学校における武道指導実践事業
- 26. 3. 体育館耐震補強及び大規模改修工事竣工
- 26. 9. 25 動物愛護実践校件知事賞

b. 児童数

■現在(平成27年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男	13	7	14	7	5	18	62
女	5	8	7	8	7	11	46
計	18	15	19	15	12	29	108

■開校時(平成31年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男女合計	19	12	9	23	18	15	96

c. 教職員数

17人

d. 学校の特徴(特長)

諏訪小学校は、1956年昭和31年鉾田第二小学校として開校し、現在は児童数108人の小規模校です。校庭には立派な桜があり、これらは保護者、地域の方々で組織された「さくらを守る会」による手入れがされています。

e. 教育目標

○ すすんで わくみ のびのびと「学び」  
こころ美しいすわの子を育てる

■めざす児童像

- すすんで すすんで学び働く子
- わくんで わくんで中のよい子
- のびのびと のびのびと運動する子
- こころの美しい こころの美しい子

■学校経営の方針

1. 「すわの子授業スタイル」を確立し主体的な学びを引き出す指導の工夫の推進 (学力・指導力の向上)
2. 多様な交流を生かして、豊かな心を育む教育の推進 (心の教育・積極的な生徒指導の展開)
3. 健康・体力・安全に関する自己管理能力を育てる教育の推進 (体力向上・安全指導の徹底)
4. 開かれた学校の推進 (保護者や地域社会に信頼される安全・安心な学校づくり)

■組織目標

1. 「すわの子授業スタイル」を確立し、主体的に学習できる児童を育成する。
2. 多様な交流を活かして、明るい笑顔で心豊かな児童を育成する。
3. 運動が好きで、健康や安全に進んで取り組めるたくましい児童を育成する。

a. 普通教室(低学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



b. 普通教室(高学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



c. 特別支援教室

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



d. 理科室

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



2階



1階



e. 家庭科室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



f. 図工室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



g. 音楽室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



h. 図書室  
■正面



■廊下側



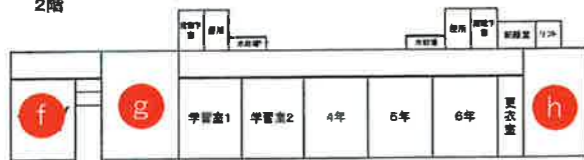
■背面



■窓側



2階



1階



i. 職員室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



j. 管理諸室  
■保健室



■放送室



■配膳室



k. 掲示  
■教室前



■階段



■流し



■廊下



l. その他  
■児童用机・イス



■TV



■体育器具



■体育館下駄箱



2階



1階

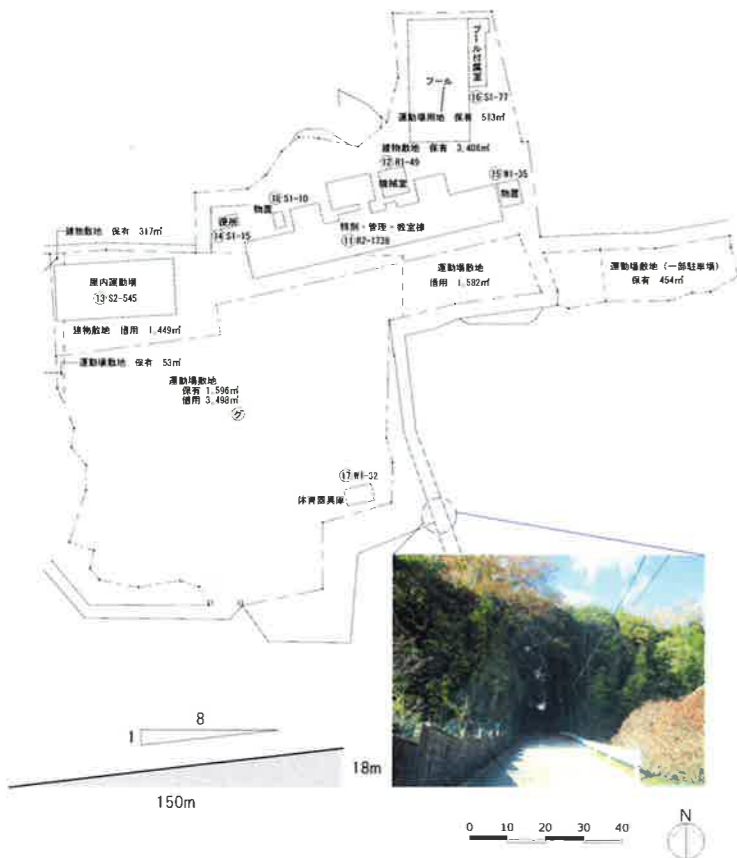


(3)新宮小学校



2 F		階段	便所				便所	階段						
5年	6年	2年	のびっ子 学級	4年	3年	教材室	音楽室							
1 F		階段	便所	給食室	便所	階段								
パソコン室	図書室	資料室	西昇降口	1年	保健室	更衣室	放送室	職員室	校長室	玄関	昇降口	準備室	家庭科室	理科室

敷地面積:12,870㎡  
延床面積:1,738㎡  
階数:2階建て



a. 学校沿革の概要

- 明治22. 7. 畑田十王地に新宮尋常小学校として開校
- 25. 10. 新宮第一尋常小学校と改称
- 44. 6. 現在地に校舎移転
- 大正 6. 4. 高等科を併設 新宮尋常高等小学校と改称
- 昭和16. 4. 新宮青年学校併設
- 22. 4. 新宮国民学校と改称(学生改革)
- 30. 3. 新宮村立新宮小学校と改称(学生改革)
- 44. 7. 銚田町立新宮小学校と改称(町村合併)
- 60. 3. 新宮幼稚園併設、体育館竣工
- 平成 1. 7. 創立百周年記念式典挙行 記念事業
- 7. 3. 銚田町立新宮幼稚園閉園
- 15. 11. 花いっぱい運動 茨城県知事賞受賞
- 15. 12. 全国花いっぱいコンクール地方審査優良賞受賞
- 16. 全国統計グラフコンクール地方審査優良賞受賞
- 18. 市町村合併により、銚田市立新宮小学校と改称
- 20. 日本PTA全国協議会表彰
- 22. 第26回 幡谷教育振興財団理科教育優良賞受賞
- 23. 全国地域安全運動ボランティア表彰
- 23. げんでん財団「学校小」受賞
- 23. 茨城県「よい歯」の表彰

b. 児童数

■現在(平成27年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男	4	8	9	6	11	8	46
女	6	5	4	7	7	2	31
計	10	13	13	13	18	10	77

■開校時(平成31年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男女合計	10	12	10	8	10	13	63

c. 教職員数

15人

d. 学校の特徴(特長)

新宮地区は古来より栄えた土地で室町時代には畑田氏がこの地に居城を構えていました。学校はその畑田城址である氷川台と呼ばれる高台に1889年明治22年畑田十王地に新宮尋常小学校が開校されました。現在も氷川まつりが行なわれています。

e. 教育目標

○ 自ら学ぶ 心豊かな たくましい 新宮の子

■求める学校像

1. 子どもたちが毎朝、喜んで登校してくる学校
2. 教師を信頼し、進んで応援してくれる学校
3. 地域にあたたかく見守られている学校

■求める児童像

1. 自ら学習に励み、学力のある児童
2. 思いやりがあり、行動力のある児童
3. 健康でたくましい児童

■求める教師像

1. 健康で明るい教師
2. 絶えず研修に積極的に取り組む教師
3. 児童と共に学び、共に遊び、共に働く教師

a. 普通教室(低学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



b. 普通教室(中学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



c. 特別支援教室

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



d. 理科・家庭科室

■正面



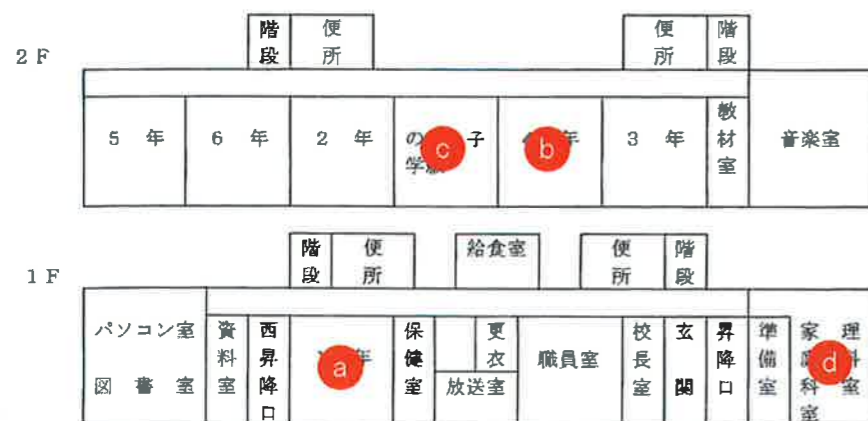
■廊下側



■背面



■窓側



e. PC・図書室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



f. 音楽室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



g. 体育館  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



h. 職員室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



2 F		階段	便所			便所	階段		
5年	6年	2年	のびっ子 学級	4年	3年	教材室	f		
1 F		階段	便所	給食室	便所	階段			
パソコン室 図書室	資料室	西昇降口	1年	保健室	更衣 放送室	校長室	玄関	昇降口	準備室 家庭科室 理科室

i. 管理諸室

■校長室



■保健室



■放送室



j. 掲示

■廊下



■階段



■理科室



k. その他

■電子黒板



■廊下の図書



■工作コーナー



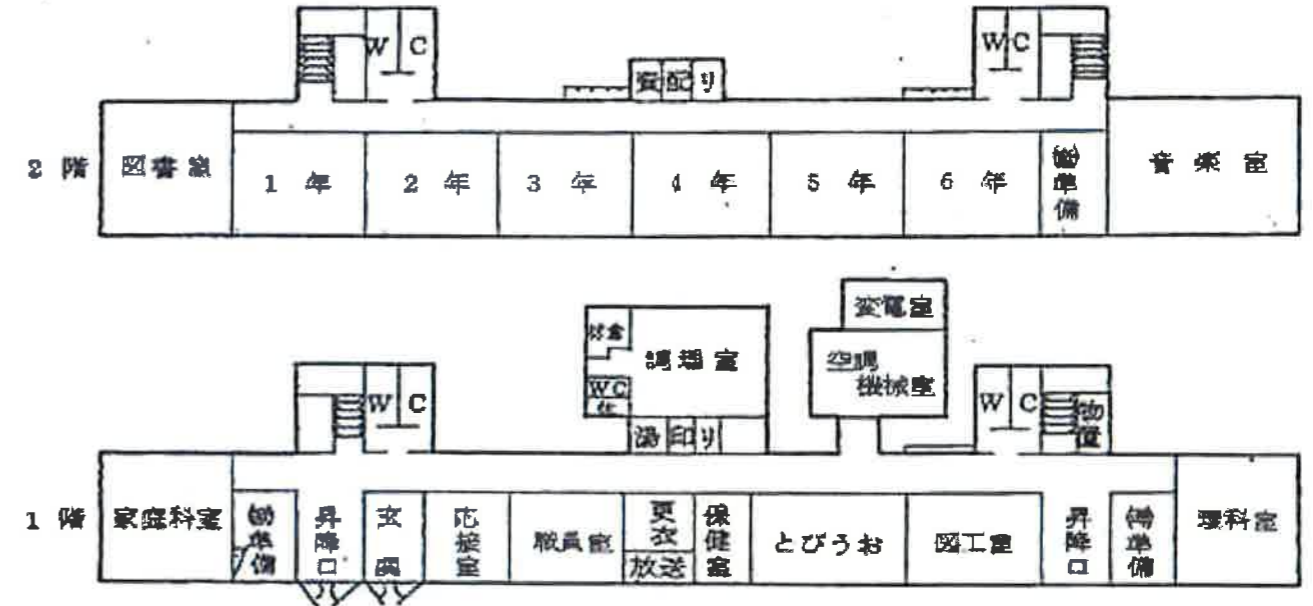
■教室内のPC



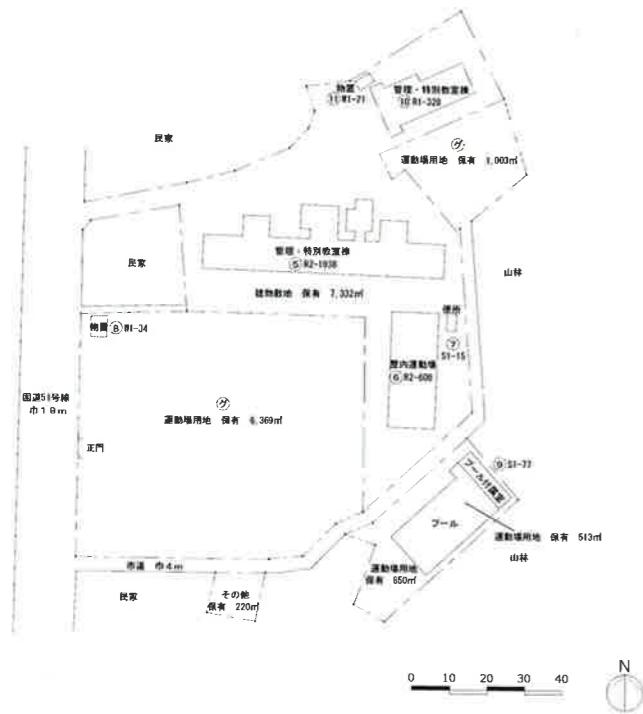
2 F		階段	便所					便所	階段				
5年	6年	2年	のびっ子 学級	4年	3年	教材室	音楽室						
1 F		階段	便所	給食室	便所	階段							
パソコン室	資料室	西昇降口	1年	保健室	更衣室	職員室	校長室	玄関	昇降口	準備室	家庭科室	理科室	
図書室				放送室									



(4)大竹小学校



敷地面積: 16,067㎡  
 延床面積: 1,938㎡  
 階数: 2階建て



a. 学校沿革の概要

- 明治 8. 2. 岡堀米の廃寺を利用して大竹小学校を開校
- 9. 3. 8 白塚宝光院を仮校舎として白塚小学校を開校
- 26. 2. 新宮第二尋常小学校開設
- 44. 6. 現在地へ移転
- 昭和 9. 4. 高等科併置、新宮東尋常小学校と改称
- 16. 4. 学校改革により新宮村立新宮東小学校となる
- 22. 4. 新学制により新宮村立新宮東小学校となる
- 30. 3. 銚田町と合併し、銚田町立新宮小学校となる
- 45. 4. 1 銚田町立大竹小学校と改称
- 46. 4. 8 銚田町立大竹幼稚園を併設
- 50. 3. 8 創立百周年記念式典挙行
- 平成 9. 9. 銚田町花いっぱいコンクール優良賞受賞
- 14. 10. 17 全国学校体育研究優良校表彰最優秀校  
文部科学大臣賞受賞全国学校体育研究優良校表彰  
銚田町立大竹幼稚園閉園
- 17. 3. 31 銚田市になり、銚田市立大竹小学校と改称
- 18. 1. 24 体力づくり優秀賞受賞(茨城県)
- 20. 1. 22 体力づくり優秀賞受賞(茨城県)
- 21. 11. 8 「茨城県歯科保健賞奨励賞」を受賞
- 24. 11. 15 花と緑の環境美化コンクール茨城県知事賞受賞
- 25. 10. 31 全国花のまちづくりコンクール 団体の部門入選
- 27. 1. 平成26年度茨城県健康推進学校最優秀賞受賞

b. 児童数

■現在(平成27年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男	10	9	5	9	7	5	45
女	11	4	6	7	7	3	38
計	21	13	11	16	14	8	83

■開校時(平成31年度)

c. 教職員数

13人

d. 学校の特徴(特長)

大竹小学校は、1875年明治8年岡堀米の廃寺を利用し開校、現在は児童数83人の小規模校です。大竹海岸、鹿島灘海浜公園があり夏には海水浴場など観光客で賑わいのある地域です。このような周辺環境を利用した様々な学習の取組があります。

e. 教育目標

○よく学び心豊かにたくましく生きる子どもの育成

■めざす学校像

1. 明るく楽しい学校
2. 児童が生き生きと活動する学校
3. 地域に開かれた学校

■めざす児童像

1. 思いやりのある子ども
2. よく考え学ぶ子ども
3. 明るくたくましい子ども

■めざす教師像

1. 人間性豊かな教師
2. 活力に満ちた教師
3. 指導力のある教師
4. 明るく積極的な教師
5. 子どもの気持ちを理解できる教師

a. 普通教室(低学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



b. 普通教室(中学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



c. 普通教室(高学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



d. 特別支援教室

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



e. 理科室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



f. 家庭科室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



g. 図工室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



h. PC室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



i. 音楽室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



j. 体育館  
■正面



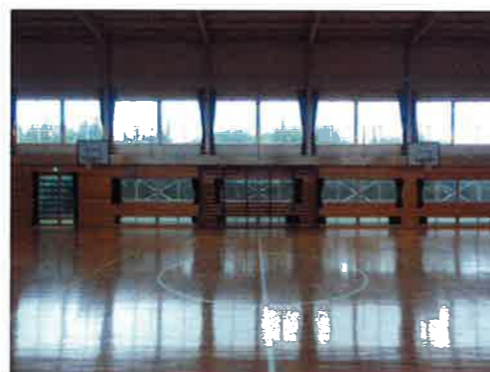
■廊下側



■背面



■窓側



k. 職員室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



l. 管理諸室  
■校長室



■保健室



■放送室



■配膳室



m. 掲示  
■廊下



n. その他  
■竹馬



■教室前



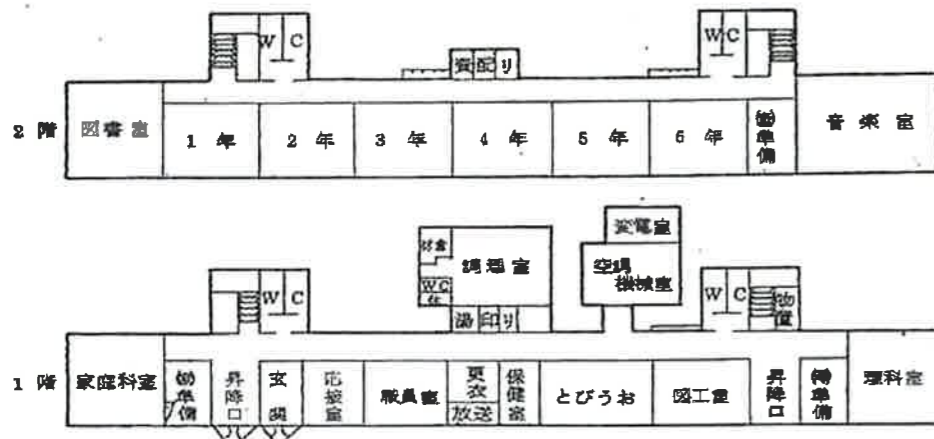
■一輪車



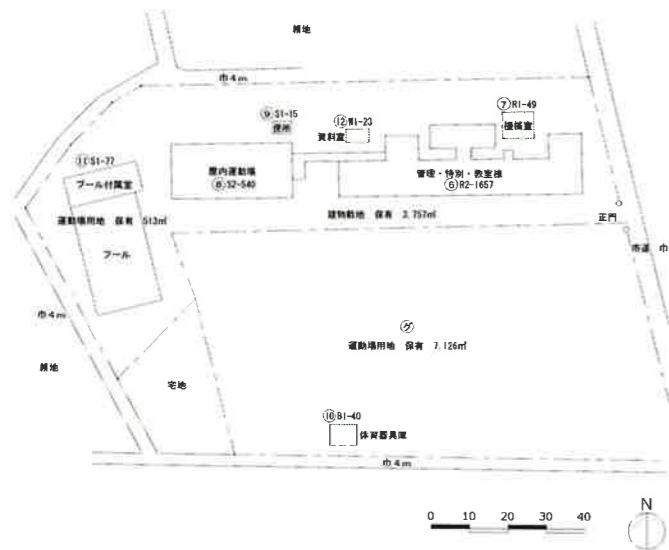
■家庭科室前



■薬品庫



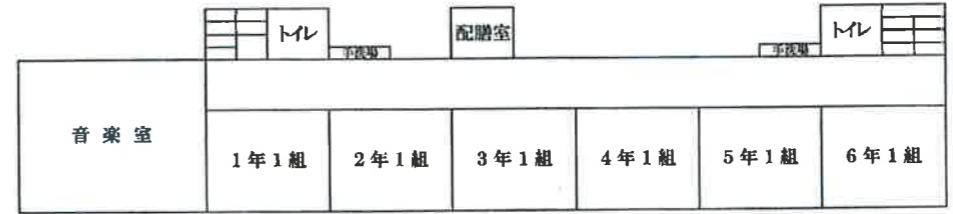
5) 当間小学校



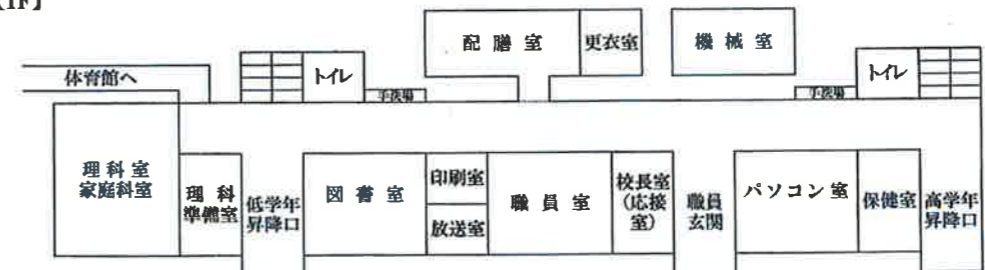
a. 学校沿革の概要

- 明治26. 3. 3 巴村大字当間1018番地旧廃寺を小学校にあて茨城県鹿島郡巴第三尋常小学校として開校
- 昭和16. 4. 1 巴村巴第三国民学校となる
- 22. 4. 1 巴村率巴第三小学校と改称
- 27. 1. 26 類焼により全校焼失
- 30. 5. 10 木造校舎（2階建て）完成
- 32. 3. 15 町制施行により銚田町立巴第三小学校となる
- 43. 4. 入学児童5名 1・2年複式
- 45. 4. 1 銚田町立当間小学校と改称
- 54. 3. 31 体育館完成
- 57. 11. 6 母親文庫の運営優秀につき表彰される
- 60. 9. 15 プール完成
- 平成 5. 5. 百周年記念式典
- 13. 4. 1 少人数学級設置
- 17. 10. 11 市制施行により銚田市立当間小学校となる
- 19. 3. 31 少人数学級廃止
- 21. 2. 2 県体力優良賞表彰
- 22～25 花いっぱいコンクール銚田市最優秀賞

【2F】



【1F】



敷地面積:11,396㎡  
延床面積:1,657㎡  
階数:2階建て

e. 教育目標

○ ともに学び 思いやりのある  
たくましい 当間の子を育てる

■めざす児童の姿

1. ともに勉強 がんばる子
2. うんどうずきで 元気な子
3. まっすぐのびる 明るい子

■めざす学校の姿

1. 活気のある楽しい学校
2. 明るくきれいな学校
3. 保護者や地域に開かれた学校

■めざす教師の姿

1. 一人一人の児童を大切にする教師
2. 課題をもち進んで自己研鑽する教師
3. 児童・保護者・地域に信頼される教師

■学校運営の方針

○ 地域を愛し 地球に愛される 輝く人となれ！

1. 子どものよさや地域のよさを生かした学校づくりに努める。
2. 「よく学び、よく遊ぶ」何事にも一生懸命取り組む子供を育てる。
3. 教育職員としての矜持と「のりしろ」をもって、誠実に日々の授業に取り組む教師集団をつくる。

■学校をとりまく環境

1. 水田や畑地が広がり、農法中心の地域である。
2. 銚田総合公園やほっとパークに近く、静かな環境にある。
3. 保護者・地域が学校に支援的である。

■思いや願い

1. 思いやりのある人になってほしい。
2. 自信をもたせたい。
3. 自立心、自主性を伸ばしたい。
4. どこでも通用する高い学力を身に付させたい。

b. 児童数

■現在(平成27年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男	6	7	3	10	10	8	43
女	7	12	6	7	7	7	47
計	13	19	9	17	16	15	90

■開校時(平成31年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男女合計	13	7	13	15	13	19	80

c. 教職員数

13人

d. 学校の特徴(特長)

当間小学校は、1893年明治26年巴第三尋常小学校として開校し、123年の歴史を有し、近年学校周辺の宅地化が進み子どもの数も増えているところです。近くには、ほっとパーク銚田、銚田総合公園があります。児童数90人の小規模校です。

a. 普通教室(中学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



b. 理科・家庭科室

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



c. PC室

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



d. 音楽室

■正面



■廊下側



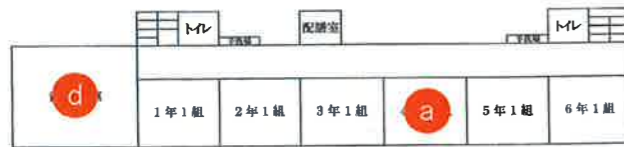
■背面



■窓側



[2F]



[1F]



e. 図書室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



f. 体育館  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



g. 職員室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



h. 管理諸室  
■校長室



■保健室



■放送室



■配膳室



【2F】



【1F】





i. 掲示  
■教室前



j. その他  
■TV



■階段



■一輪車



■天井(流し上部)



■廊下の荷物掛け



■玄関



■教室の配膳台



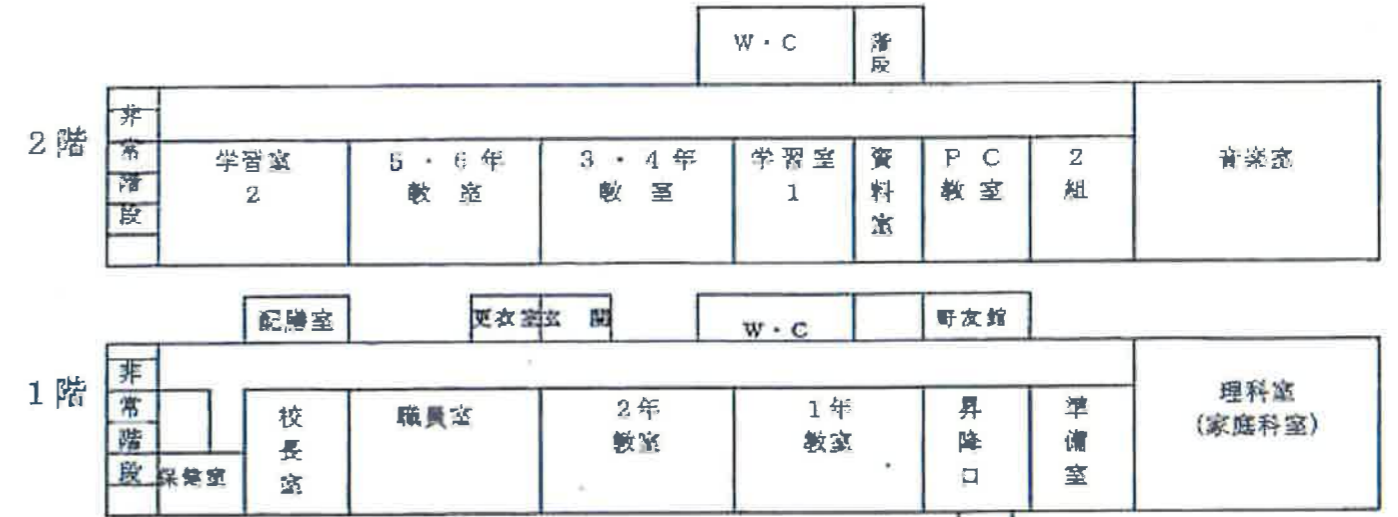
【2F】



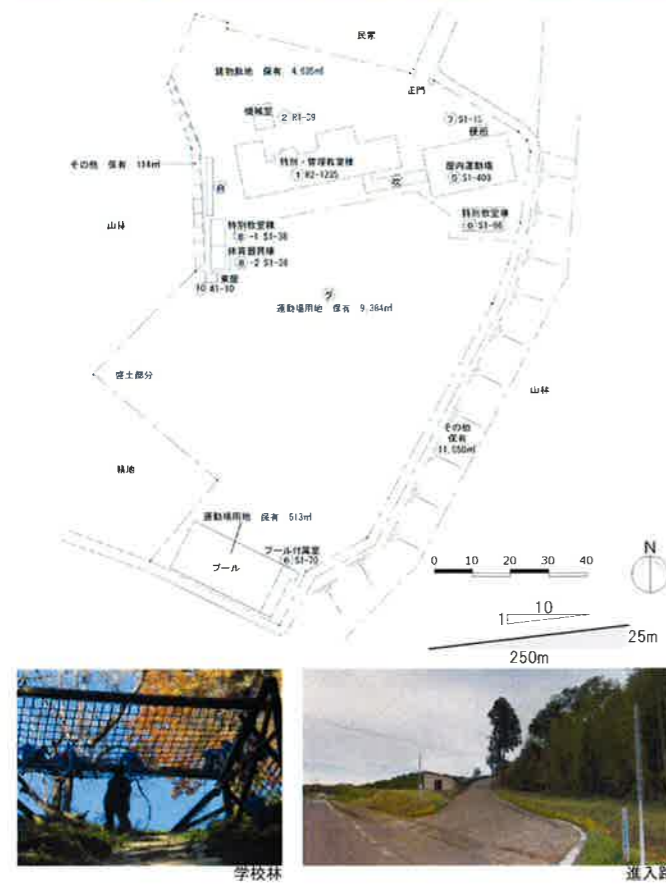
【1F】



(6)野友小学校



敷地面積:25,696㎡  
 延床面積:1,235㎡  
 階数:2階建て



a. 学校沿革の概要

- 明治23.10.1 秋津尋常小学校野友分校として創立
- 25.5. 秋津第二尋常小学校と改称する
- 35.7.4 高等科が併設され、秋津尋常高等小学校と改称する
- 昭和16.4.1 秋津第一国民学校と改称する
- 22.4.1 秋津村立野友小学校と改称する
- 30.3.15 町村合併により銚田町立野友小学校と改称する
- 50.4.10 野友幼稚園開園
- 平成 2.10.1 創立百周年記念式典挙行
- 9.3.31 野友幼稚園閉園
- 10.11.2 茨城県環境緑化コンクール学校林活動の部特選
- 11.11.6 全日本学校関係緑化コンクール学校林等活動コンクール準特選
- 17.10.11 町村合併により銚田市立野友小学校と改称する
- 18.7.26 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰の受賞
- 21.9.4 花と緑のコンクール銚田市最優秀賞受賞
- 21.10.26 緑の少年団コンクール県優良賞受賞

b. 児童数

■現在(平成27年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男	5	3	3	5	0	3	19
女	2	4	3	3	4	1	17
計	7	7	6	8	4	4	36

■開校時(平成31年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男女合計	10	8	8	11	7	7	51

c. 教職員数

12人

d. 学校の特徴(特長)

野友小学校は、1890年 明治23年秋津尋常小学校野友分校として創立。現在の野友小学校は、児童数36人の超小規模校で複式学級があります。また学校林に保護者や地域住民手製のフィールドアスレチックがあり地域のシンボリック的存在となっています。

e. 教育目標

- 夢をもち 自ら学び 心輝き たくましく生きる子どもの育成
- 目指す子ども像
  - 自ら学ぶ子ども(明るい子) 基礎・基本を確実に身に付け、自ら学び自ら考え正しく判断する子ども
  - 心輝く子ども(夢のある子) 自他を大切にし、思いやりのある行動ができる子ども
  - たくましい子ども(元気な子) 心身ともに健康で最後までやりぬくたくましい子ども
- 目指す学校像
  - みんなが楽しい学校 互いのよさを認め合う学校
  - みんなが誇れる学校 自慢できる特色や伝統がある学校
  - みんなで作る学校 家庭や地域に開かれた学校
- 目指す教師像
  - 確かな力量ある教師
  - 感性豊かな教師
  - 情熱のある教師
- 目指す家庭像
  - 高めあう家庭
  - 心豊かな家庭
  - たくましい家庭
- 目指す地域像
  - 子どもを守り育てる地域
  - 地域と家庭・学校の連携



a. 普通教室(低学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



b. 普通教室(中学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



c. 特別支援教室

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



d. 理科・家庭科室

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



e. PC室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



f. 音楽室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



g. 図書室  
■正面



■背面



h. 体育館  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



i. 職員室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



j. 管理諸室  
■校長室



■保健室



■放送室



■窓側



k. 掲示  
■廊下



■階段



■教室前



■階段踊り場



l. その他  
■TV



■グランドピアノ



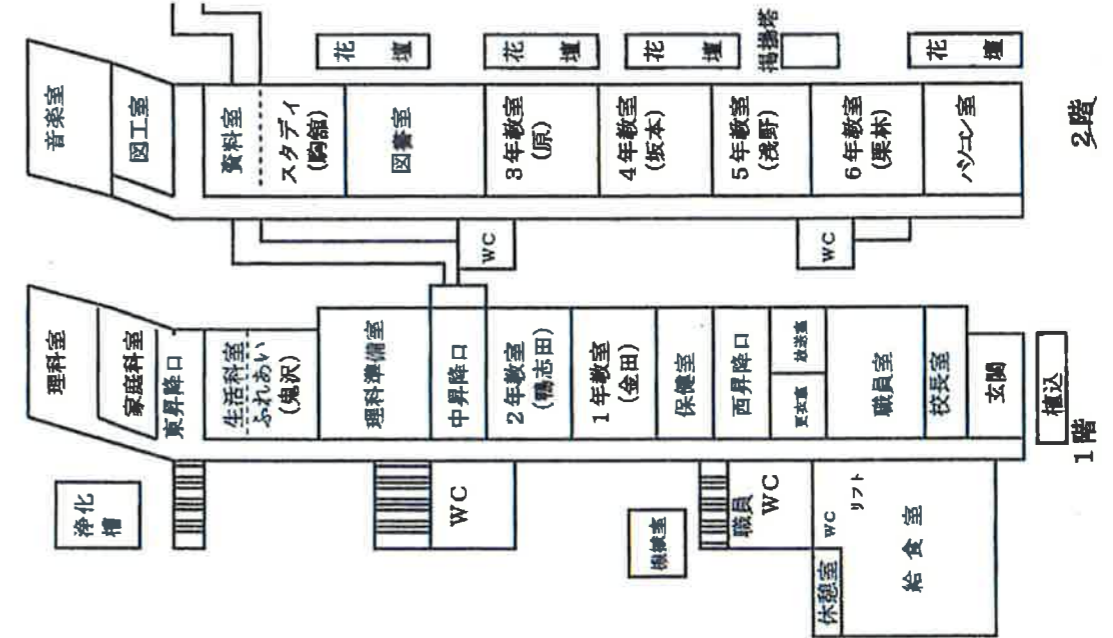
■教室の配膳台



■廊下の提示物



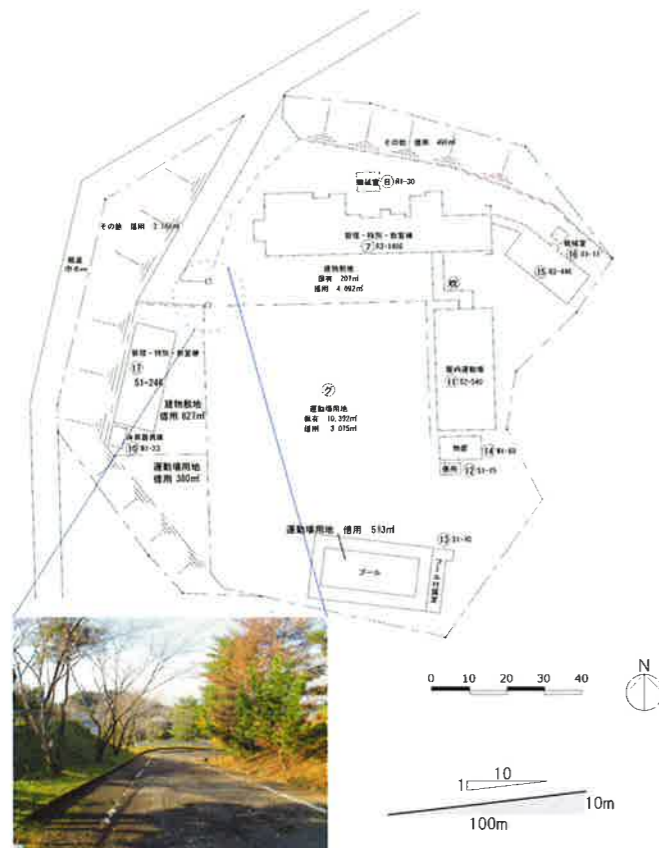
(7)串挽小学校



敷地面積: 22,770㎡  
 延床面積: 1,944㎡  
 階数: 2階建て

a. 学校沿革の概要

- 明治10. 2. 8 地蔵院敷地を借用し、串挽小学校を開設する。
- 25. 6. 20 秋津第三尋常小学校として独立する。
- 25. 12. 26 秋津第二尋常小学校と改称する。
- 大正 5. 10. 30 現在地に校舎完成、移転する。
- 昭和16. 4. 1 秋津第二国民学校と改称する。
- 22. 4. 1 秋津村立串挽小学校と改称する。
- 30. 3. 15 町村合併により銚田町立串挽小学校と改称する。
- 50. 4. 1 串挽幼稚園を併設する。
- 51. 11. 26 創立百周年・防音校舎竣工記念式典を行う。
- 52. 4. 23 屋内運動場が完成する。
- 52. 県青年赤十字の加盟校となる。
- 55. 11. 7 学校農園を設置する。(約2アール)
- 平成 1. 10. 9 串挽幼稚園独立園舎完成に伴い分離
- 2. 8. 29 NHK全国学校音楽コンクールに出場する。
- 4. 9. 25 花いっぱいコンクール優秀賞
- 17. 10. 11 町村合併により銚田市立串挽小学校と改称する
- 18. 4. 1 情緒学級開設
- 19. 12. 14 茨城県学校給食優良学校賞
- 21. 3. 31 銚田市立串挽幼稚園を廃園
- 21. 4. 1 平成21年度学力向上実践協力校の指定を受ける
- 26. 4. 1 理科ボランティアモデル校の指定を受ける



b. 児童数

■現在(平成27年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男	10	10	6	9	8	8	51
女	11	8	6	10	9	10	54
計	21	18	12	19	17	18	105

■開校時(平成31年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
男女合計	18	18	17	18	21	18	110

c. 教職員数

14人

d. 学校の特徴(特長)

串挽小学校は、1877年明治10年地蔵院敷地を借用し開設されました。現在は、児童数105人の小規模校です。地域には、野球、サッカー、剣道等多様なスポーツ少年団活動をしている児童が多く見られます。

e. 教育目標

○自ら考え 心豊かで たくましく生きる 児童の育成

■めざす児童像

1. 進んで学習する子
  - ・進んで発言する子
  - ・話をよく聞く子
  - ・進んで本を読む子
2. 明るく思いやりのある子
  - ・元気にあいさつができる子
  - ・奉仕活動がんばる子
  - ・だれとでも仲良くできる子
3. 健康でたくましい子
  - ・安全に気をつける子
  - ・体力づくりに励む子
  - ・けじめのある子

■めざす教師像

1. 信頼される教師
2. 指導力のある教師
3. 活力のある教師

■めざす学校像

1. 明るく楽しい学校
2. 美しい学校
3. みんなで協力し合う学校

■重点目標

1. 自ら考え実践するなど、自ら学ぶ力を育てる。
2. 豊かな心の育成と生徒指導の充実を図る。
3. 健康の増進や体力の向上を図る。
4. 安全教育・安全監理の徹底を図る。
5. 教職員の資質能力の向上を図る。
6. 地域の教育力を活かした開かれた学校づくりに努める。

■組織目標

- ・児童一人一人に「学び方」を継続的に指導し、学力の向上を図る。

a. 普通教室(低学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



b. 普通教室(中学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



c. 普通教室(高学年)

■正面



■廊下側



■背面



■窓側



d. 特別支援教室

■正面



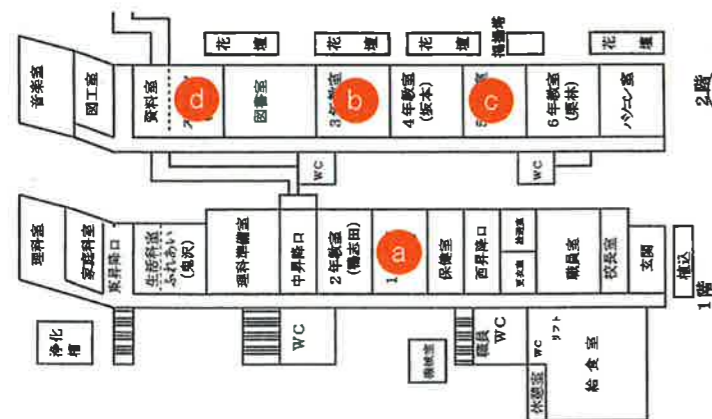
■廊下側



■背面



■掲示類



e. 理科室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



f. 家庭科室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



g. 図工室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



h. PC室  
■正面



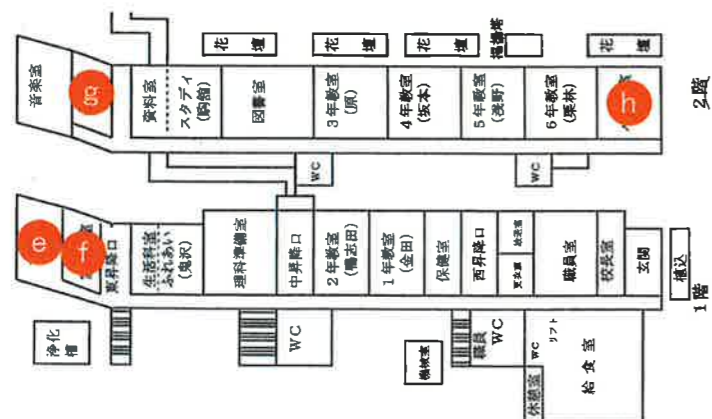
■廊下側



■背面



■窓側





i. 音楽室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



j. 図書室  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



k. 体育館  
■正面



■廊下側



■背面



■窓側



l. 職員室  
■正面



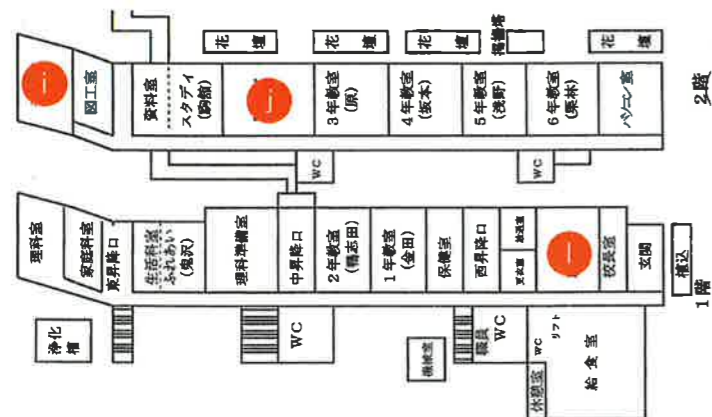
■廊下側



■背面



■窓側



m. 管理諸室

■校長室



n. 掲示

■廊下



o. その他

■電子黒板



■保健室



■教室前



■配膳用ワゴン



■放送室



■職員室前



■ボルダリング器具



■配膳室



■階段



■工作用ツール

